

基準6 学習成果

(1) 観点ごとの分析

観点6-1-①: 各学年や卒業(修了)時等において学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、単位修得、進級、卒業(修了)の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業(学位)論文等の内容・水準から判断して、学習成果が上がっているか。

【観点到る状況】

各学部・研究科における標準修業年限内卒業(修了)率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業(修了)率は、資料6-1-①-1~2に示すとおりである。標準修業年限内卒業(修了)率は学士課程では概ね70~90%台と幅があるが全体では85%である。博士前期課程・修士課程では平成26年度までは70~90%台で推移しているなか、27年度に改善しており、全体では94%である。「標準修業年限×1.5」年内卒業(修了)率は、学士課程では全体で概ね90%と高水準で、博士前期課程・修士課程は70~90%台と幅があるが全体では82%である。博士後期課程は、課程や年度によりバラツキがあるが、社会人が多いのが一因である(後掲資料7-2-②-13)。

単位修得率については、資料6-1-①-3に示すとおりである。共通教育科目(全学共通科目)については概ね90%、学部教育科目(専門科目)については学部により開きがあるが80~99%の範囲の修得率となっている。

進級状況については、各学部で3年次に4年次の卒業研究に着手するための進級要件を定めている。進級率は資料6-1-①-4のとおりであり、学科特性により差異はあるが例年75~100%の範囲で高い率を示している。学生の休学・退学・留年(標準修業年限超過学生)状況については、資料6-1-①-5に示したとおりであり、博士後期課程を除き、概ね低率で推移している。

なお、大学院学則を改訂し優秀な学生に対する早期修了制度(資料6-1-①-6)を採用し、社会人学生を含む博士後期課程生の修了に向けた意欲を掘り起こすこととしている。情報系工学研究科においては、学部から博士前期、及び後期課程へと接続性を高め学生の修了に向けた意欲を促す措置として前期課程の領域編成等の工夫を平成28年度計画に盛り込んでいる(資料6-1-①-7)。

保健福祉学部及び保健福祉学研究科における資格取得状況については、資料6-1-①-8に示すとおりである。平成23年度から27年度において看護師及び保健師国家試験合格率は概ね97%以上、助産師国家試験合格率は常に100%、管理栄養士国家試験合格率は概ね95%以上で、いずれも極めて高い水準にある。社会福祉士国家試験合格率は平成27年度までの3期連続で75%以上の実績であり、常に全国平均を上回っている。

学生は在学中の研究・制作活動等について、国内外での学会・シンポジウムやコンクール・制作展でその学習成果を発表している。受賞している学生も多く、その一部を資料6-1-①-9に示した。このうち毎年、4年次生で優秀な成績を収めかつ、在学中に地域における貢献活動で優れた実績を収めた各学部の卒業予定者に、総社市奨励賞が総社市長より授与されている。また課外等の主体的な学習活動においては海外スタディーツアーやインターンシップにおける政策提言活動などに参加し、その実績を平成28年2月実施の公立大学政策・評価研究センター主催の「平成27年度第2回大学評価ワークショップ(岡山県立大学)」にて学生自らプレゼンテーションし、高い評価を得た(資料6-1-①-10)。

また、卒業論文等においては、各学部とも研究内容について審査会を兼ねた発表会(中間発表会・最終発表会)でその評価とともに助言を実施している(資料6-1-①-11)。また各研究科における学位論文についても同様であるが、研究科ごと審査基準を設け、基準に基づいた学位論文審査及び最終試験に合格した学生に学位を授与することとしている(前掲資料5-6-④-1)。

資料6-1-①-1 (学士課程) 標準修業年限内卒業率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業率

学部等	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
保健福祉学部	標準修業年限内	95.1%	97.2%	94.5%	95.9%	96.5%
	標準修業年限×1.5	100.0%	97.2%	95.1%	98.6%	97.2%
情報工学部	標準修業年限内	84.3%	84.5%	74.8%	78.6%	72.3%
	標準修業年限×1.5	91.7%	92.0%	91.1%	91.9%	85.0%
デザイン学部	標準修業年限内	86.4%	85.6%	77.7%	88.0%	92.9%
	標準修業年限×1.5	96.7%	91.1%	89.8%	90.0%	86.2%
全 体	標準修業年限内	88.4%	89.5%	82.9%	86.9%	85.1%
	標準修業年限×1.5	95.6%	93.8%	92.2%	94.0%	89.9%

(出典：教務班提供資料)

資料6-1-①-2

(博士前期・修士課程及び博士後期課程) 標準修業年限内卒業(修了)率及び「標準修業年限×1.5」年内修了率
(博士前期・修士課程)

研究科等	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
保健福祉学研究科 博士前期	標準修業年限内	81.0%	100.0%	85.7%	88.2%	92.3%
	標準修業年限×1.5	88.2%	61.1%	95.2%	100.0%	85.7%
情報系工学研究科 博士前期	標準修業年限内	92.3%	90.9%	87.3%	96.0%	95.8%
	標準修業年限×1.5	88.7%	97.8%	95.4%	92.4%	90.5%
デザイン学研究科 修士	標準修業年限内	75.0%	76.5%	70.0%	76.9%	90.9%
	標準修業年限×1.5	75.0%	90.0%	81.3%	76.5%	70.0%
全 体	標準修業年限内	87.3%	89.5%	85.1%	91.3%	94.4%
	標準修業年限×1.5	86.3%	84.2%	92.2%	85.1%	82.6%

(博士後期課程)

研究科等	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
保健福祉学研究科 博士後期	標準修業年限内	14.3%	50.0%	60.0%	80.0%	40.0%
	標準修業年限×1.5	100.0%	57.1%	71.4%	50.0%	80.0%
情報系工学研究科 博士後期	標準修業年限内	25.0%	25.0%	0.0%	50.0%	33.3%
	標準修業年限×1.5	80.0%	80.0%	75.0%	25.0%	33.3%
全 体	標準修業年限内	18.2%	33.3%	42.9%	71.4%	16.7%
	標準修業年限×1.5	88.9%	66.7%	72.7%	33.3%	62.5%

(出典：教務班提供資料)

資料6-1-①-3 単位修得率

(全学教育科目)

学部名等	平成26年度			平成27年度 (全学及び共通教育科目)		
	履修登録者数 (A)	単位修得者数 (B)	単位修得率 (B/A)	履修登録者数 (A)	単位修得者数 (B)	単位修得率 (B/A)
全学	36,170	32,220	89.1%	35,492	32,340	91.1%

(専門科目)

学部名等	平成26年度			平成27年度		
	履修登録者数 (A)	単位修得者数 (B)	単位修得率 (B/A)	履修登録者数 (A)	単位修得者数 (B)	単位修得率 (B/A)
保健福祉学部	9,908	9,743	98.3%	9,927	9,825	99.0%
情報工学部	8,650	6,926	80.1%	8,412	6,907	82.1%
デザイン学部	4,930	4,261	86.4%	4,905	4,366	89.0%
保健福祉学研究科 (前期)	207	202	97.6%	331	328	99.1%
情報系工学研究科 (前期)	796	731	91.8%	957	873	91.2%
デザイン学研究科	149	138	92.6%	105	102	97.1%
情報系工学研究科 (後期)	23	16	69.6%	15	13	86.7%
保健福祉学研究科 (後期)	15	15	100.0%	21	21	100.0%

(出典：教務班提供資料)

資料6-1-①-4 進級率及び卒業研究履修要件

学科名	対象進級 先年次	進級率					進級要件
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
保健福祉学部 看護学科	4年次	進級率	100.0%	100.0%	91.5%	97.7%	95.2%
		卒業研究履修要件 (共通教育科目) 必修科目 20 単位修得 (学部教育科目) 3 年前期までに修得すべき必修科目のうち 72 単位以上修得					
保健福祉学部 栄養学科	4年次	進級率	97.6%	95.0%	97.4%	100.0%	94.9%
		卒業研究履修要件 卒業研究 10 単位を含む 23 単位以下を修得することにより卒業要件単位 (必修 110 単位を含め 128 単位) を満たすこと					
保健福祉学部 保健福祉学科	4年次	進級率	98.3%	100.0%	98.3%	98.33	100.0%
		研究ゼミナール履修要件 社会福祉学専攻: 4 年次に研究ゼミナール 4 単位を含め 30 単位以内を単位修得することにより卒業要件単位 (共通教育科目と学部教育科目を統合した 124 単位) を満たすこと。 子ども学専攻: 4 年次に研究ゼミナール 4 単位を含め 30 単位以内を単位修得することにより卒業要件単位 (共通教育科目と学部教育科目を統合した 124 単位) を満たすこと。					
情報工学部 情報通信工学科	4年次	進級率	92.7%	92.0%	82.1%	89.3%	74.1%
		卒業研究履修要件 (共通教育科目) 必修科目 18 単位以上 (学部教育科目) 3 年次までに開講されている実験・演習科目の必修科目 11 単位 (共通教育科目及び学部教育科目の計) 106 単位以上					
情報工学部情報 システム工学科	4年次	進級率	88.6%	90.6%	75.5%	75.4%	76.4%
		卒業研究履修要件 (共通教育科目) 必修科目 20 単位以上、選択科目 14 単位以上 (学部教育科目) 必修科目 18 単位 (3 年次までに開設されている科目はすべて単位修得すること) 選択科目 52 単位 (ただし、機械デザイン演習または回路デザイン演習の単位を修得済みであること)					
情報工学部 スポーツシステム工学科	4年次	進級率	80.9%	80.0%	83.3%	87.2%	83.7%
		卒業研究履修要件 共通教育科目: 必修科目 22 単位、選択科目 16 単位 学部教育科目: 必修科目 38 単位、選択科目 34 単位					
デザイン学部 デザイン工学科	4年次	進級率	81.6%	85.4%	89.4%	85.7%	89.8%
		卒業研究履修要件 卒業要件単位数 124 単位のうち 90 単位以上を修得済みであること					
デザイン学部 造形デザイン学科	4年次	進級率	88.5%	90.2%	83.7%	92.6%	100.0%
		卒業研究履修要件 卒業要件単位数 124 単位のうち 90 単位以上を修得済みであること					

(出典: 教務班提供資料)

資料6-1-①-5 休学・退学・留年(標準修業年限超過学生) 状況

	学科	在学者数 (A)	休学者数 (B)	休学率 (B/A)	退学者数 (C)	退学率 (C/A)	標準修業 年限超過 学生数(D)	留年率 (D/A)
23	保健福祉学部	582	5	0.9%	8	1.4%	3	0.5%
	情報工学部	669	9	1.3%	15	2.2%	24	3.6%
	デザイン学部	385	14	3.6%	9	2.3%	12	3.1%
	保健福祉学(博士前期)	50	6	12.0%	2	4.0%	11	22.0%
	保健福祉学(博士後期)	25	3	12.0%	3	12.0%	8	32.0%
	情報系工学(博士前期)	137	6	4.4%	2	1.5%	5	3.6%
	情報系工学(博士後期)	18	4	22.2%	1	5.6%	5	27.8%
	デザイン学(修士)	33	1	3.0%	3	9.1%	0	0.0%
24	保健福祉学部	578	7	1.2%	2	0.3%	1	0.2%
	情報工学部	664	14	2.1%	10	1.5%	25	3.8%
	デザイン学部	392	10	2.6%	8	2.0%	10	2.6%
	保健福祉学(博士前期)	39	2	5.1%	1	2.6%	8	20.5%

	保健福祉学(博士後期)	22	7	31.8%	1	4.5%	8	36.4%
	情報系工学(博士前期)	133	7	5.3%	2	1.5%	6	4.5%
	情報系工学(博士後期)	40	6	15.0%	2	5.0%	5	12.5%
	デザイン学(修士)	27	2	7.4%	3	11.1%	2	7.4%
25	保健福祉学部	583	7	1.2%	5	0.9%	2	0.3%
	情報工学部	672	17	2.5%	14	2.1%	27	4.0%
	デザイン学部	395	13	3.3%	3	0.8%	12	3.0%
	保健福祉学(博士前期)	36	3	8.3%	0	0.0%	0	0.0%
	保健福祉学(博士後期)	21	3	14.3%	0	0.0%	5	23.8%
	情報系工学(博士前期)	117	5	4.3%	3	2.6%	5	4.3%
	情報系工学(博士後期)	15	5	33.3%	1	6.7%	4	26.7%
	デザイン学(修士)	23	3	13.0%	1	4.3%	1	4.3%
	26	保健福祉学部	583	4	0.7%	3	0.5%	4
情報工学部		677	19	2.8%	19	2.8%	38	5.6%
デザイン学部		405	14	3.5%	9	2.2%	19	4.7%
保健福祉学(博士前期)		37	4	10.8%	2	5.4%	1	2.7%
保健福祉学(博士後期)		24	4	16.7%	3	12.5%	6	25.0%
情報系工学(博士前期)		106	5	4.7%	6	5.7%	9	8.5%
情報系工学(博士後期)		16	8	50.0%	3	18.8%	5	31.3%
デザイン学(修士)		26	4	15.4%	4	15.4%	3	11.5%
27	保健福祉学部	581	5	0.9%	3	0.5%	3	0.5%
	情報工学部	660	24	3.6%	14	2.1%	39	5.9%
	デザイン学部	397	15	3.8%	6	1.5%	17	4.3%
	保健福祉学(博士前期)	42	2	4.8%	1	2.4%	2	4.8%
	保健福祉学(博士後期)	22	2	9.1%	3	13.6%	4	18.2%
	情報系工学(博士前期)	115	3	2.6%	2	1.7%	1	0.9%
	情報系工学(博士後期)	14	12	85.7%	0	0.0%	2	14.3%
	デザイン学(修士)	18	3	16.7%	0	0.0%	1	5.6%

※在学者数は各年度5月1日現在、その他は各年度延べ数

(出典：教学課提供資料)

資料6-1-①-6 研究科早期修了制度 (抜粋)

(課程の修了要件)

第16条 修士課程及び博士前期課程の修了要件は、当該課程に2年以上在学し、第11条第1項に定める単位数(以下「修了単位数」という。)を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文(デザイン学研究科にあつては、修士論文及び修士作品)又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格することとする。

ただし、在学期間については、特に優れた業績を上げた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

2 博士後期課程の修了要件は、当該課程に3年以上在学し、修了単位数を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。

ただし、在学期間については、特に優れた業績を上げた者については、博士課程に3年(修士課程又は博士前期課程に2年以上在学し当該課程を修了した者については2年を、前項ただし書の規定により修了した者にあつては当該在学期間それぞれを含む。)以上在学すれば足りるものとする。

3 前項ただし書きの規定にかかわらず、第8条第2項第6号に該当する者の在学期間については、特に優れた業績を上げた者については、博士課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

※ 第8条第2項第6号

個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると学長が認めた者で、24歳に達したもの

(出典：岡山県立大学大学院学則 URL：<http://www.oka-pu.ac.jp/kiteidata/act/frame/frame11000004.htm>)

資料6-1-①-7 情報系工学研究科における改善計画

(イ) 情報系工学研究科

【博士前期課程】

- ・ 5領域から3領域に再編した教育カリキュラムを円滑に実施し、学士教育課程及び博士後期課程との接続性を高める。
- ・ 学生の所属領域と履修科目領域の対応調査を行い、社会における各領域技術の多様化、高度化に対応できるように必要な教育内容の改善を図る。

【博士後期課程】

- ・ 研究アドバイザー教員制の導入後の状況を見ながら、他領域との調整効果等を検証し、拡充を図る。

(出典：公立大学法人岡山県立大学平成28年度計画 p. 4

URL：http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/04/2016years_plan.pdf)

資料 6-1-①-8 保健福祉学部における各種国家試験合格率

資格区分	平成 23 年度			平成 24 年度			平成 25 年度			平成 26 年度			平成 27 年度		
	合格者数	合格率	全国平均	合格者数	合格率	全国平均	合格者数	合格率	全国平均	合格者数	合格率	全国平均	合格者数	合格率	全国平均
看護師	41	100.0	97.3	44	100.0	94.1	40	97.6	95.1	42	97.7	96.9	41	97.6	97.4
保健師	39	92.9	89.2	45	100.0	97.5	42	97.7	88.8	45	100.0	99.6	3	100.0	92.6
助産師	4	100.0	96.0	3	100.0	98.9	4	100.0	97.6	4	100.0	99.9	4	100.0	99.8
管理栄養士	41	97.6	—	36	94.7	—	37	90.2	—	40	95.2	—	37	100.0	—
社会福祉士	45	81.8	38.5	29	51.8	31.4	49	84.5	41.7	43	76.8	45.4	48	82.8	47.0

※平成27年度の保健師については、保健福祉学研究科1名を含む

【栄養教諭免許取得状況】

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
栄養教諭	5 人	4 人	7 人	3 人	8 人

(出典：教務班提供資料)

資料 6-1-①-9 学会・コンクール等における学生の受賞状況 (抜粋)

平成 25 年度	<p><保健福祉学部・研究科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年度社会福祉士養成校協会会長表彰 ・平成 25 年度保育士養成協議会会長表彰 ・平成 25 年度介護福祉士養成施設協議会会長表彰 <p><情報工学部・研究科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年度 電子情報通信学会中国支部連合大会 奨励賞 ・日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部 支部長賞 ・学生ケータイあわへど 2013 ケータイアイデア部門 優秀賞 ・平成 25 年度仁科賞 <p><デザイン学部・研究科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・(社) 日本建築学会「全国大学・高専卒業設計展示会」選定作品 ・(一社) 岡山県建築士事務所協会 優秀卒業作品コンクール 会長賞、優秀賞 ・(社) 日本建築学会中国支部 平成 25 年度優秀卒業設計 作品賞、「構造賞」(卒業研究賞) ・日本インテリア学会中国・四国支部 優秀作品賞 ・AXIS 第 8 回金の卵オールスターデザインショーケース大学選抜部門 選抜 ・平成 25 年度デザインパテントコンテスト 意匠登録出願支援対象者 ・第 21 回アイリス生活用品デザインコンクール 学生奨励賞 ・学生ケータイあわへど 2013 ケータイアイデア部門 優秀賞 ・「全映協グランプリ 2013」学生部門 優秀賞 ・「中四映連グランプリ 2013」学生部門 最優秀賞 ・2013 年 第 18 回アニメーション神戸 Web アニメコンテスト一般の部 大賞 ・第 2 回晴れの国おかやま映像コンテスト 準グランプリ、特別賞 ・第 64 回岡山県美術展覧会 デザイン部門 岡山県知事賞、県展賞
平成 26 年度	<p><全学></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度第 1 回日本語検定 東京書籍賞 優秀賞(団体表彰) <p><保健福祉学部・研究科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本農芸化学会中国四国支部 学生奨励賞 ・全国栄養士養成施設協会 会長表彰 <p><情報工学部・研究科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 9 回コンピュータ大貧民大会 ライト級 (ヒューリスティック部門) 優勝 ・岡山スマホアプリコンテスト 2014 「考えよう！アプリアイデア部門」 最優秀賞、学生奨励賞 ・平成 26 年度仁科賞 <p><デザイン学部・研究科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2015 年 色彩検定協会主催全国色彩コーディネーターコンクール ポスター部門 色彩検定協会特別賞、毎日新聞社賞 ・AXIS 第 9 回金の卵オールスターデザインショーケース大学選抜部門 選抜 ・岡山 ESD 推進協議会「2014 おかやま ESD イヤーハンドブック」表紙デザインコンペ 最優秀賞 ・第 18 回 CS デザインアワード学生部門 銅賞 ・平成 26 年度 全国建築新人戦「16 選」選定 ・第 8 回メディアユニバーサルデザインコンペティション 優秀賞、佳作 ・全映協グランプリ 2014 「映像コンテスト中四国地区予選」最優秀賞、優秀賞 ・第 27 回 ACC 学生 CM コンクール 金賞 ・第 65 回岡山県美術展覧会 デザイン部門 山陽新聞社賞 (最優秀賞)、岡山県教育長賞、県展賞 ・岡山スマホアプリコンテスト 2014 「考えよう！アプリアイデア部門」 最優秀賞、学生奨励賞

平成 27 年度	<p><全学></p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 27 年度第 1 回日本語検定 文部科学大臣賞(団体表彰) <p><保健福祉学部・研究科></p> <ul style="list-style-type: none"> 日本農芸化学会中国四国支部 学生奨励賞 全国栄養士養成施設協会 理事長表彰 2015 年度総社市政政策提言賞 第 10 回村川技術奨励賞 14th International Conference of Bioactive Lipids in Cancer, Inflammation and Related Diseases Ono Pharmaceutical Travel Awards 7th International Conference on Polyphenols and Health ポスター賞 第 48 回おかやまバイオアクティブ研究会シンポジウム 第 14 回学生プレゼンテーション学生プレゼンテーション賞 第 22 回岡山県保健福祉学会 社会福祉協議会長賞 <p><情報工学部・研究科></p> <ul style="list-style-type: none"> 第 17 回 IEEE 広島支部学生シンポジウム 優秀研究賞、優秀プレゼンテーション賞 第 10 回コンピュータ大貧民大会 ライト級 優勝、敢闘賞、プレゼンテーション賞 2015 年度総社市政政策提言賞 第 24 回計測自動制御学会中国支部学術講演会 奨励賞 平成 27 年度情報処理学会中国支部 奨励賞 平成 27 年度電子情報通信学会中国支部 奨励賞 平成 27 年度仁科賞 ACM 国際大学対抗プログラミング大会 Java Challenge 2 位 FIT2015(情報科学技術フォーラム 2015) 奨励賞 学生ケータイあわへど 2015 ケータイアイデア部門 入選 <p><デザイン学部・研究科></p> <ul style="list-style-type: none"> 国際学生 EV 超小型モビリティデザインコンテスト 2015 優秀賞(ベネッセ賞) AXIS 第 10 回金の卵オールスターデザインショーケース 大学選抜部門 入賞 第 66 回岡山県美術展覧会 デザイン部門 岡山県教育長賞、岡山県知事賞、入選 全協協グランプリ 2015 「映像コンテスト中四国地区予選」専門学校・短大・大学の部 最優秀賞、優秀賞 第 22 回ヤングセラミスト・ミーティング in 中四国 作品部門 大賞、準大賞 第 13 回ふるしきデザインコンペ 佳作 岡山ロータリークラブ国際交流奨励賞、最優秀賞
----------------	--

(出典：企画広報室提供資料)

資料 6-1-①-10 学生による課外学習活動のプレゼンテーション (抜粋)

 <p>アデレード・スタディツアー (異文化圏における専門分野の学び)</p>	 <p>総社市インターンシップ (地域の学びと提言活動)</p>
 <p>AMDA 東日本大震災復興支援ボランティア (福祉の心の学び1)</p>	 <p>チュッピー広場 (福祉の心の学び2)</p>

(出典：平成27年度第2回大学評価ワークショップ「プレゼンテーション資料(別冊)」p. 29~41

URL: http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/03/WS_bessatu160317_all.pdf)

資料6-1-①-1.1 平成27年度各学部（研究科）卒業（修了）研究発表会実施日程

学部等	日程	発表会種別（方法等）
保健福祉学部	H27. 12. 10-11, H28. 3. 9 H28. 1. 13-14 H28. 2. 15-16	看護学科, 卒業研究発表会（発表と質疑応答） 栄養学科, 卒業研究発表会（発表と質疑応答） 保健福祉学科, 卒業研究発表会（発表と質疑応答）
情報工学部	H28. 2. 15 H28. 2. 15 H27. 9. 18 H28. 2. 15	情報通信工学科, 卒業研究発表会（発表と質疑応答） 情報システム工学科, 卒業研究発表会（発表と質疑応答） スポーツシステム工学科, 卒業研究中間発表会（発表と質疑応答） スポーツシステム工学科, 卒業研究発表会（発表と質疑応答）
デザイン学部	H27. 7. 31 H27. 9. 18 H27. 12. 22	デザイン工学科, 卒業研究中間発表会（プレゼンテーション及び講評） 造形デザイン学科, 卒業研究中間発表会（プレゼンテーション及び講評） デザイン工学科, 造形デザイン学科, 卒業研究最終発表会（プレゼンテーション及び講評）
保健福祉学研究科 前期課程	H27. 7. 27 H28. 2. 12	修士論文発表会（前期提出）（発表と質疑応答） 修士論文発表会（後期提出）（発表と質疑応答）
情報系工学研究科 前期課程	H28. 2. 10	修士論文公聴会（発表と質疑応答）
デザイン学研究科 修士課程	H27. 10. 8 H28. 2. 4	デザイン学研究科, 修了研究中間発表会（プレゼンテーション及び講評） デザイン学研究科, 修了研究最終発表会（プレゼンテーション及び講評）
保健福祉学研究科 後期課程	H28. 1. 19 H28. 2. 10	博士学位論文発表（予備審査）会（発表と質疑応答） 博士学位論文公聴会（発表と質疑応答）
情報系工学研究科 後期課程	H27. 12. 4 H28. 2. 26	博士後期課程研究中間発表会（発表と質疑応答） 博士論文公聴会（発表と質疑応答）

(出典：各学部提供資料)

【分析結果とその根拠理由】

平成27年度における、学士課程の標準修業年限内卒業率は85%であり、「標準修業年限×1.5」年内卒業率は、概ね90%となっている。大学院博士前期課程・修士課程では、標準修業年限内修了率は94%であり、「標準修業年限×1.5」年内修了率は概ね82%である。以上については何れも過去5年、類似した実績であり、比較的高い。博士後期課程では標準修業年限内修了率及び「標準修業年限×1.5」年内修了率は年度によりバラツキがある。単位修得率については、学士課程は概ね80%以上を確保し、大学院課程では90%を確保している。退学・休学・留年率も低率で推移しているが、課題を有する研究科については対策を講じている。資格取得状況については、看護師、管理栄養士等の国家試験合格率は極めて高い水準を維持しており、社会福祉士等においても全国平均を大きく上回っている。

在学中の研究・制作活動等の内容・水準についても、受賞等の実績から一定のレベル以上の成果をあげていることが認められる。また課外を中心にした地域における貢献活動でも成果を挙げている。

卒業（学位）論文等については、発表会の実施や認定基準を設け適用するなど、その水準を測る取組を適切に実施している。

以上のことから、各学年や卒業（修了）時等において、学生が身につけるべき知識・技能・態度等については学習成果が上がっていると判断する。

観点6-1-②：学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して、学習成果が上がっているか。

【観点に係る状況】

本学では、学士課程において学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取のため、授業評価アンケートを実施している（資料6-1-②-1～2）。授業評価アンケート集計結果（全体）からは、5段階評価で過去3年間において4.0点を上回り、高止まりの傾向がみられた。このうち学習成果に関連する問1・2・6についても、他の設問の集計結果と類似した高い評価の傾向がみられたが、アンケート結果を教員や学生に有効にフィードバックするためには、設問内容が抽象的なこともあり教育改善に活かし難い問題がある。このため前掲資料5-3-③-2及び前掲別添資料5-2-③-IIで示した方針に基づき、授業方法やシラバスの改善（FD）及び学習成果の振り返り等にシステマティックに活用できるよう、設問の見直し等の計画を大学教育開発センターにて進めている（資料6-1-②-3、別添資料6-1-②-I）。

また、学士課程及び博士前期課程（修士課程）の学生に対して学生アンケートを実施しており、学生生活全般及び学修全般について各30問の質問を設けており、学習の達成度や満足度に関する質問及び回答状況は資料6-1-②-4～5のとおりである。学生アンケートにおける学修全般に関する質問では、学習の達成度や満足度に関するものを含めているが、学部生・大学院生とも履修モデルの理解度やシラバスの満足度ならびに授業科目の満足度、については中間値以上である。また個別的な要望についてみると、学部、大学院とも今後成長させたい点（設問30）について、「専門教育を通じたキャリア形成」と拮抗して「教養等を身に付けての人間力形成」を挙げている点が特徴的である。さらに学部生においては、比較的理系色が強い本学にあつて、共通教育について「教養（人文・社会科学系）」や「語学・国際系」の充実を望む声が強く、また授業内容の充実への要望に関して、1年次生も含まれることから「基礎的な内容の充実」を望む声が強かった。以上の点を踏まえて本学では、平成28年度計画において、学部生に対する共通教育の充実を期して、授業方法等の改善に向けた点検や見直しを進める計画である（資料6-1-②-6）。また、大学院生においては「基礎・応用の連携的な内容の充実」が希望されている。大学院では授業評価アンケートを未実施であるが、新たな学部授業評価アンケートの見直し（前掲資料5-3-③-1）に合わせ、平成28年度後期に試行し、平成29年度には新設の全学情報システム（学務系）を活用し、本格実施する予定である。

卒業時及び修了時には、学部ならびに大学院の在学期間最終段階にて、卒業時及び修了時アンケートにより、学習の達成度や満足度について問うている（資料6-1-②-7）。卒業時アンケートの結果からは、全般的満足度は過去3年間を通じて概ね70%以上であるが、自身の在学期間を通じた教養的成長よりも専門的成長がプラス16ポイントと、より高く実感されている。修了時アンケートは平成27年度に初めて実施され、総合的満足度が80%以上であった。

資料6-1-②-1 平成27年度までの授業評価アンケートの設問及び結果（抜粋）

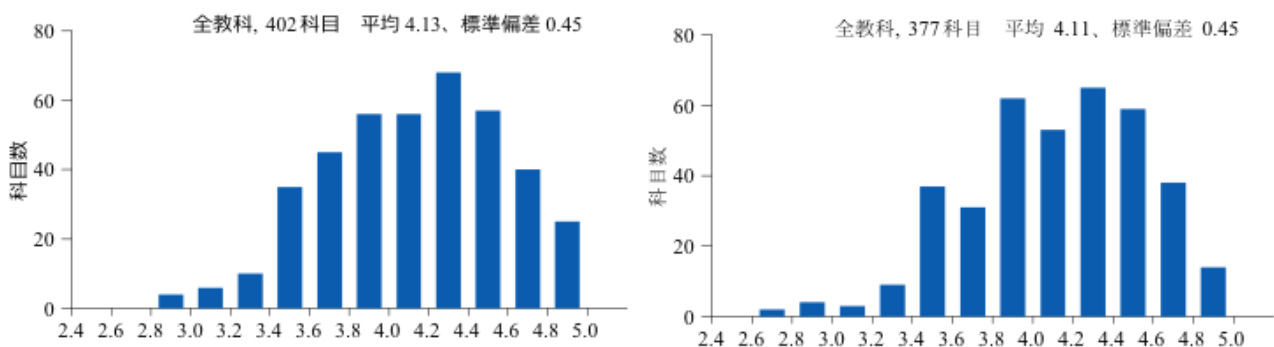
授業評価アンケート共通6問【学科ごとの追加設問(所属別・授業形態別)については別添資料6-1-②-I p.18 参照】

- 問1 受講して知的刺激を受けましたか
 問2 真剣に受講しましたか
 問3 教員の熱意が感じられましたか
 問4 学生の理解度に注意していましたか
 問5 授業の進め方は丁寧でしたか
 問6 総合的に判断して満足しましたか

実施率は前年度とほぼ同じだが、実施科目数は増加の傾向。平均点は少しずつ上がる傾向が見られる。

学期	実施科目数	実施率	回答学生延べ人数	共通6項目平均	標準偏差
平成24年度前期	366	98.4%	14,913	4.09	0.41
平成24年度後期	342	97.7%	12,404	4.09	0.40
平成25年度前期	380	96.4%	15,189	4.09	0.41
平成25年度後期	353	96.2%	12,473	4.11	0.38
平成26年度前期	391	99.0%	15,394	4.13	0.40
平成26年度後期	370	96.1%	12,771	4.16	0.40

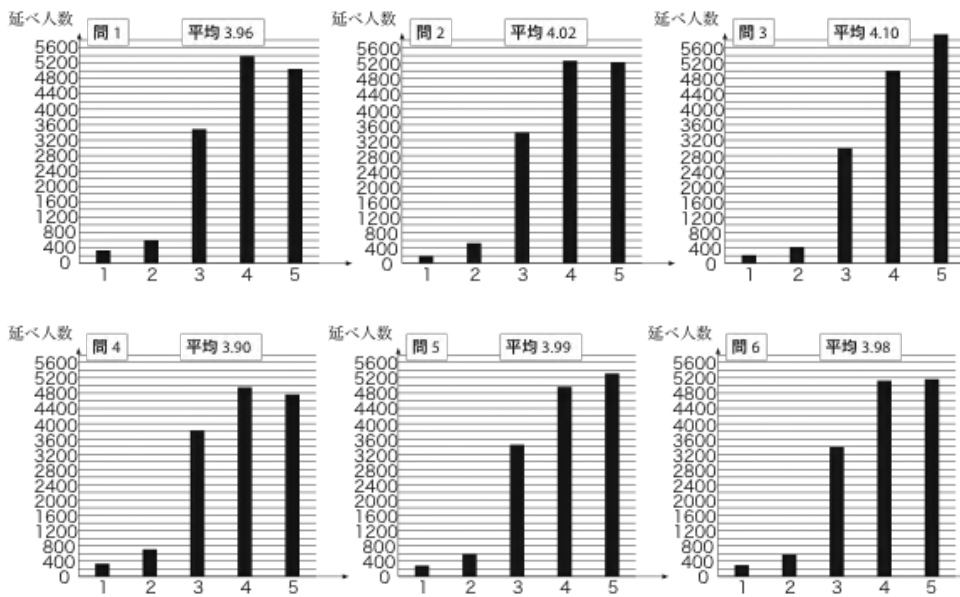
平成27年度前期「授業評価アンケート」共通6項目集計結果 平成27年度後期「授業評価アンケート」共通6項目集計結果



(出典：岡山県立大学「教育年報2015」第2部 p.97～99)

URL:http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/05/03_kyoikunepo2015-2bu.pdf)

資料6-1-②-2 平成27年度前期授業評価アンケート共通6問の設問別回答状況（全学部）



(出典：教務班提供資料)

資料6-1-②-3 平成28年度後期における授業評価アンケート見直し方針（抜粋）

- ・従来の共通6項目による授業評価アンケートが、学部、学科等組織のマス評価に還元され、個別の授業にフィードバックし難い問題を有しているため、これを改善する。
- ・個別の授業改善に活かせるよう、アンケート項目の「多様化」「教育改革動向の取り込み」「本学教育の改善に必要なオリジナル性の付与」を念頭に、項目及び活用方法を見直す。
- ・基本設計にあたり、「学生の授業への取組み」「教員の授業の技術・特性」「教員の授業の方針・方法」「教員の授業の内容・実施」「学生の受講に対する受け止め」の5カテゴリ及び自由項目で構成する。
- ・アンケート結果の教員へのフィードバックとしては、レーダーチャート（観点別）等による分析、ビジュアル化を実施しシラバス改善を含むFDに活用する。学生へのフィードバックとしては、平成29年度に運用開始される全学情報システム（学務系）を通じて、学習成果の振り返りに活かせるよう、項目を抽出し分析された結果を通知する工夫を計画する。
- ・以上の方針に基づく計画の立案及び実施について、大学教育開発センターにおいてこれを行う。

(出典：大学教育開発センター「学生授業評価アンケート改正に向けて」、別添資料6-1-②-1)

(出典：大学教育開発センター作成、平成28年5月、6月教育研究活動委員会資料)

資料6-1-②-4 学生アンケートpart.2 学修全般（学部生：回答数1434名、抜粋）

設問5. 課程における科目の位置づけの理解度は？(履修モデル等)

①満足度 80%以上	②満足度 50～80%未満	③満足度 20～50%未満	④満足度 0～20%未満	⑤わからない
13.9	46.5	22.5	5.6	11.4

設問10. 履修におけるシラバスの満足度は？(役立っているかどうかについて)

①よく役に立っている	②まあまあ役に立っている	③普通	④役に立っていない	⑤わからない
7.9	37.9	34.6	10.3	9.3

設問11. 共通教育(全学教育)の満足度は？

①満足度 80%以上	②満足度 50～80%未満	③満足度 20～50%未満	④満足度 0～20%未満	⑤わからない
8.9	47.1	28.7	11.4	3.9

設問13. 共通教育(全学教育)で強化して欲しい科目群は？(最もそう思うものを1つ選択)

①教養(自然科学系)	②教養(人文・社会科学系)	③健康科学系(含むスポーツ)	④語学・国際系	⑤社会連携系(地域・キャリア関係)
16.7	22.5	18.9	25.1	16.7

設問15. 専門教育(学部教育)の満足度は？

①満足度 80%以上	②満足度 50～80%未満	③満足度 20～50%未満	④満足度 0～20%未満	⑤わからない
25.1	52.4	15.0	5.4	2.1

設問16. 専門教育(学部教育)で強化して欲しい点は？(最もそう思うものを1つ選択)

①授業内容の充実	②授業方法の改善	③自習ガイダンスの充実	④履修上の相談等の充実	⑤施設・設備の利便性
36.2	33.8	9.1	6.8	14.2

設問17. 一般的に授業内容で充実して欲しい点は？(最もそう思うものを1つ選択)

①基礎的な内容の充実	②基礎・応用の連携的な内容の充実	③実験・実習的な内容の充実	④キャリア形成的な内容の充実	⑤今のままで良い
34.4	25.2	16.1	12.0	12.3

設問23. 一般的に成績評価で感じることは？(単位認定等で最もそう思うものを1つ選択)

①基準に照らして大体納得している	②結果を教員に質問し納得している	③質問しても納得いかないことがある	④単位が取れさえすればよい	⑤ほとんど気にしていない
33.7	5.9	11.9	28.2	20.2

設問24. 一般的にもっと評価して欲しい点は？(単位認定等で最もそう思うものを1つ選択)

①試験・課題等の結果の評価	②授業での取組プロセスの評価	③授業での自身の成長評価	④出欠等の評価	⑤今のままで良い
16.0	18.5	14.4	23.1	28.0

設問29. 入学以来、正課・課外の学習全般を通じての自身の成長評価(成長度)は？

①大きく成長している	②少しは成長している	③変化なし	④入学時より劣っている	⑤わからない
10.8	56.6	12.1	10.5	10.0

設問30. 学習全般で今後成長させていきたい点は？(最もそう思うものを1つ選択)

①専門教育を通じたキャリア形成	②教養等を身に付けての人間力形成	③地域学習等での社会人基礎力の形成	④グローバルコミュニケーション力	⑤わからない
30.9	29.0	14.4	18.2	7.5

(出典：岡山県立大学「教育年報2015」付録1 p.193～194)

URL:http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/05/05_kyoikunempo2015-hurokukouki.pdf

資料6-1-②-5 学生アンケートpart.2 学修全般(大学院生：回答数170名、抜粋)

設問5. 課程における科目の位置づけの理解度は？(履修モデル等)

①満足度80%以上	②満足度50～80%未満	③満足度20～50%未満	④満足度0～20%未満	⑤わからない
16.5	44.1	14.1	6.5	18.8

設問10. 履修におけるシラバスの満足度は？(役立っているかどうかについて)

①よく役に立っている	②まあまあ役に立っている	③普通	④役に立っていない	⑤わからない
9.4	35.3	32.4	10.6	12.4

設問11. 研究科授業科目履修の満足度は？

①満足度80%以上	②満足度50～80%未満	③満足度20～50%未満	④満足度0～20%未満	⑤わからない
28.8	45.9	12.9	5.3	7.1

設問13. 一般的に授業内容で充実して欲しい点は？(最もそう思うものを1つ選択)

①基礎的な内容の充実	②基礎・応用の連携的な内容の充実	③実験・実習的な内容の充実	④キャリア形成的な内容の充実	⑤今のままで良い
18.8	21.2	15.3	10.0	34.7

設問15. 指導教員による研究指導の満足度は？

①満足度80%以上	②満足度50～80%未満	③満足度20～50%未満	④満足度0～20%未満	⑤わからない
57.6	30.0	7.1	3.5	1.8

設問16. 研究指導で強化して欲しい点は？(最もそう思うものを1つ選択)

①論文指導・相談体制の充実	②実験制作指導・相談体制の充実	③研究発表等学外活動支援の充実	④専門分野外との横断的研究の充実	⑤今のままで良い
16.5	19.4	10.0	6.5	47.6

設問18. 研究科教育全般の満足度は？

①満足度80%以上	②満足度50～80%未満	③満足度20～50%未満	④満足度0～20%未満	⑤わからない
37.6	44.7	10.6	2.4	4.7

設問23. 一般的に成績評価で感じることは？(単位認定等で最もそう思うものを1つ選択)

①基準に照らして大体納得している	②結果を教員に質問し納得している	③質問しても納得いかないことがある	④単位が取れさえすればよい	⑤ほとんど気にしていない
34.7	4.1	8.2	20.0	32.9

設問24. 一般的にもっと評価して欲しい点は？(単位認定等で最もそう思うものを1つ選択)

①試験・課題等の結果の評価	②授業での取組プロセスの評価	③授業での自身の成長評価	④出欠等の評価	⑤今のままで良い
8.8	21.2	7.6	6.5	55.9

設問29. 入学以来、正課・課外の学習全般を通じての自身の成長評価(成長度)は？

①大きく成長している	②少しは成長している	③変化なし	④入学時より劣っている	⑤わからない
15.9	62.9	7.6	5.3	8.2

設問30. 学習全般で今後成長させたい点は？(最も思うものを1つ選択)

①専門教育を通じたキャリア形成	②教養等を身に付けての人間力形成	③地域学習等での社会人基礎力の形成	④グローバルコミュニケーション力	⑤わからない
35.3	26.5	10.6	20.0	7.6

(出典：岡山県立大学「教育年報2015」付録 p.197～198)

資料6-1-②-6 共通教育の点検・見直しと語学・国際系科目等の充実等 (抜粋)

(2) 教育内容等に関する目標を達成するためとるべき措置

イ 教育課程

(ア)・「共通教育科目」における教育内容、方法及び実施状況の点検を進め、中・長期的な改定案の作成を進める。

(イ) 国際的に活躍できるグローバルな人材を育成するため、次の取組を行う。

国際交流センターにおける各外国語村(英語・韓国語・中国語)及びスカイプ英語の学修成果について点検し、語学教育との連携を充実する。

- ・ 28年度から実施する英語新教育カリキュラムを、旧カリキュラムと比較し、学修成果の点検方法を検討する。

(出典：公立大学法人岡山県立大学 平成28年度計画 p. 5

URL:http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/04/2016years_plan.pdf)

資料6-1-②-7 卒業時・修了時アンケート結果 (抜粋)

○ 平成26年度までの卒業時アンケート実施結果概要【学士課程】

設問文

問 1. あなたの入学年は、

- ① 平成 24 年, ② 平成 23 年, ③ 平成 22 年, ④ 平成 21 年, ⑤ 平成 20 年以前

問 2. 本学に合格した入学試験の種別は、

- ① 前・中・後期日程入試, ② 推薦入試, ③ 編入学, ④ 再入学, ⑤ 私費外国人留学生・帰国子女特別選抜・社会人特別選抜

問 3. 卒業後の進路は、

- ① 就職(専攻と関連する職業), ② 就職(専攻と関連しない職業), ③ 進学(大学院・編入), ④ 進学(再入学・専攻の変更), ⑤ 未定・その他

問 4～8. 次の全学教育科目群は、あなたの成長にどの程度意義がありましたか。

問 4. 「コミュニケーション(語学教育)」系は、

問 5. 「人間と文化の理解」系は、

問 6. 「現代社会に生きる」系は、

問 7. 「科学技術と環境」系は、

問 8. 「健康の維持・増進(体育を含む)」系は、

- ① 全くなかった, ② なかった, ③ どちらともいえない, ④ あった, ⑤ 大いにあった(上記全ての選択肢)

問 9～12. 次の教育科目群(学部教育関連)は、あなたの成長にどの程度意義がありましたか。

問 9. 全学教育科目群「学部教育への準備」系は、

問 10. 学部教育科目の講義は、

問 11. 実験・実習・演習は、

問 12. 卒業研究は、

- ① 全くなかった, ② なかった, ③ どちらともいえない, ④ あった, ⑤ 大いにあった(上記全ての選択肢)

問 13～20. あなたが本学在学中に身につけた能力について尋ねます。

問 13. 社会の一員として生きる力は、

問 14. 基礎学力は、

問 15. 専門的な知識と技術の広がりは、

問 16. 創造的に考える力は、

問 17. 自らをみがき発展させる力は、

問 18. コミュニケーションの力は、

問 19. ソーシャルスキル・ビジネスマナーは、

問 20. 職業人(プロ)となる意識は、

- ① 全く身につかなかった, ② あまり身につかなかった, ③ どちらともいえない, ④ かなり身についた,

- ⑤ 大いに身についた(上記全ての選択肢)

問 21. 最後にお尋ねします。全般的に本学の教育は満足でしたか。

- ① 大いに不満足, ② やや不満足, ③ どちらでもない, ④ やや満足, ⑤ 大いに満足

● 本学の教育改善に役立つことがあれば、マークシート最下部の□枠の中に記述して下さい。

(結果概要) 5段階評価を100点満点換算

平成26年度詳細データは、別添資料6-1-②-II

卒業年度	回答学生数	回答率	教養的成長(問4～8)	専門的成長(問9～12)	総合的成長(問13～20)	全般的満足度
平成24年度	339	92.9%	60.3～64.6 平均61.6	67.3～85.0 平均77.4	61.0～77.3 平均69.4	74.1
平成25年度	336	96.3%	63.6～67.1 平均65.2	68.9～87.2 平均79.5	62.1～79.3 平均70.3	74.4
平成26年度	380	96.7%	61.1～65.6 平均62.9	69.2～85.4 平均78.7	62.2～74.1 平均68.3	72.2

(出典：教務班提供資料)

○平成27年度修了時アンケート実施結果概要【大学院課程】

設問文

【属性】

問1 研究科を選び、専攻を記入してください。

1. 保健福祉学研究科 2. 情報系工学研究科 3. デザイン学研究科 専攻 ()

【修了後の進路】

問2 進路を選んでください。

1. 同じ研究科の博士後期課程へ進学 2. 他研究科あるいは他大学大学院等への進学 3. 就職（新規） 4. 就職（継続）
5. その他（自由記述欄へ）

【教育と学修：カリキュラムと教育】

問3 修士課程のカリキュラム・教育等は、専門力を身につける上で、適切でしたか。

1. かなり適切でなかった 2. やや適切でなかった 3. どちらともいえない 4. まあまあ適切だった 5. たいへん適切だった

【教育と学習：学修環境】

問4 修士研究を実施した環境について聞かせてください。

1. かなり不満 2. やや不満 3. どちらともいえない 4. まあまあ満足 5. たいへん満足

【教育と学習：学修努力】

問5 大学院の学業に意欲的に取り組んだと思いますか。

1. かなり不十分 2. 十分とはいえない 3. どちらともいえない 4. まあまあ取り組んだ 5. 十分取り組んだ

【教育と学習：指導体制】

問6 修士論文の作成や日常の研究について、指導教員から十分な指導を受けることができましたか。

1. ほとんどできなかった 2. あまりできなかった 3. どちらともいえない 4. まあまあできた 5. おおおいにできた

【学びの実践：研究倫理】

問7 研究倫理について学ぶ機会がありましたか。

1. ほとんどなかった 2. あまりなかった 3. どちらともいえない 4. まあまああった 5. おおおいにあった

【学びの実践：基礎知識とスキル獲得】

問8 研究を行うための基礎知識やスキルは身についたと思いますか。

1. ほとんど思わない 2. あまり思わない 3. どちらともいえない 4. まあまあ思う 5. おおおいに思う

【学びの実践：実践活動】

問9 自分が行った研究を学会等で発表する機会がありましたか。

1. なかった 2. あった（1回） 3. あった（2回） 4. あった（3回以上）

【学びの実践：実践活動】

問10 自分が行った研究を学会等の論文に執筆する機会がありましたか。（部分執筆の場合も含めてください。ただし1論文を1回としてください。修士論文執筆は除きます。）

1. なかった 2. あった（1回） 3. あった（2回） 4. あった（3回以上）

【能力獲得：課題発見力】

問11 自分で研究課題を発見する力が身についたと思いますか。

1. ほとんど思わない 2. あまり思わない 3. どちらともいえない 4. まあまあ思う 5. おおおいに思う

【能力獲得：研究企画力】

問12 自分で発見した課題や与えられた課題を研究する場合、研究計画を立てる力が身についていると思いますか。

1. ほとんど思わない 2. あまり思わない 3. どちらともいえない 4. まあまあ思う 5. おおおいに思う

【能力獲得：課題分析力】

問13 修士課程で学んで、取り組んだ課題を解決するための分析や評価方法を学びましたか。

1. ほとんど学ばなかった 2. あまり学ばなかった 3. どちらともいえない 4. まあまあ学んだ 5. おおおいに学んだ

【能力獲得：課題遂行能力（満足度）】

問14 修士課程での学業や経験は今後の進路（進学先または就職先）で役立つと思いますか。

1. ほとんど役立たないと思う 2. あまり役立たないと思う 3. わからない 4. どちらかという役立つと思う 5. 役立つと思う

【満足度：（総合的）満足度】

問15 本学の教育について満足することができましたか。

1. ほとんどできなかった 2. あまりできなかった 3. どちらともいえない 4. まあまあできた 5. おおおいにできた

（結果概要）5段階評価を100点満点換算

研究科	対象者	回答率	教育と学習				学びの実践				能力獲得				満足度
			設問3 カリキュラムと教育	設問4 学習環境	設問5 学習努力	設問6 指導体制	設問7 研究倫理	設問8 基礎知識とスキル獲得	設問9 実践活動/発表	設問10 実践活動/論文執筆	設問11 課題発見力	設問12 研究企画力	設問13 課題分析力	設問14 課題遂行能力	
保健福祉学研究科	10	100	59.3	81.6	82.7	93.1	71.6	78.4	38.2	30.9	75.3	69.8	81.3	85.8	86.2
情報工学研究科	46	100	65.7	74.8	75.2	84.8	65.7	80.9	57.4	44.8	73.0	68.7	79.6	76.1	79.1
デザイン学研究科	10	100	65.9	74.3	71.7	86.9	61.9	79.0	40.5	28.3	76.3	73.6	79.9	86.7	81.0
平均	66	100	63.6	76.9	76.5	88.3	66.4	79.4	45.4	34.6	74.9	70.7	80.3	82.9	82.1
特定設問平均			76.3				72.9		40.0		77.2				

平成27年度には本学で最初となる修了時アンケートを実施した。教育と学習、学びの実践、能力獲得の3つのカテゴリーを用いて評価を行った。教育と学習では、指導体制以外は平均80点を下回り、特に専門性を涵養するカリキュラムの評価が低いことは注目に値する。指導体制は大学院が少人数教育であるため高い値になった可能性がある。学びの実践では基礎知識とスキルの獲得において一定の評価が得られていることは好材料と捉えられる。実践活動（学科発表・論文発表）は、博士前期課程（修士課程）であることを考慮すると、ほぼ適当な数値とみなされる。研究の能力獲得関連では課題分析力と課題遂行能力は平均80点を上回り、発見力や研

究企画は70点台と低くなるが、課程の特性を考慮すると順当な結果と言えるであろう。満足度は平均で80点を超えたが、研究科による差異は大きい傾向であり、各研究科ともより高い満足度を目指して改善する余地があると考えられる。今回、アンケートシステム上の特性上自由記述回答が得られなかったが、本アンケートによるPDCAサイクルを促進するためには必要と考えられる。今回の結果を参考に、今後設問改善のための詳細な結果分析が必要である。
(出典：大学教育開発センター提供資料)

別添資料6-1-②-I 学生授業評価アンケート改正に向けて
別添資料6-1-②-II 平成26年度(学部)卒業時アンケート結果詳細

【分析結果とその根拠理由】

学士課程全体で、授業評価アンケートを実施し、授業科目ごとでは知的刺激の面や受講の真剣さについては平均して4点前後(5段階評価)以上であり、学生の受講態度が良好であることが確認された。また、学士・大学院両課程で実施した学生アンケートからは、理系寄りの実学系を主体とする専門分野にあって、教養を身に付け人間力も養いたいという希望がみえ、リテラシーやグローバルコミュニケーション力を求める姿勢が窺われた。さらに、卒業時及び修了時アンケートからは、いずれも全般的な満足度が高いことがわかった。

以上のことから、学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して、学習意欲が高いと判断する。一方、授業評価アンケートについては、シラバスとの連携のもと、学習成果をより詳細に測り、教育改善に活かせるようシステムティックなものへと改善を図り、大学院課程とともに実施する必要があり、対策を講じている。

観点6-2-①：就職や進学といった卒業(修了)後の進路の状況等の実績から判断して、学習成果が上がっているか。

【観点到に係る状況】

学部卒業生の進路状況については、実学教育を目指す本学における各学部が担う人材養成の分野を反映し、医療業、社会福祉業、情報サービス業、製造業、建築設計業、広告・印刷業または公務員への就職が多い(別添資料6-2-①-I)。平成22~27年度では、就職者の概ね53%以上が岡山県内の企業等に就職し活躍している(資料6-2-①-1)。同資料によると大学院への進学率は、全体としては概ね20%前後で推移しているが、情報工学部における大学院(内部)進学が約50%で最も多い。就職希望者に対する就職率は、学部卒業生全体の平均として平成23~27年度では95%を超える高い水準であり、概ね全国平均以上を維持している。

大学院博士前期課程修了生の博士後期課程への進学率は、全体では3%程度で推移している。また博士前期課程・修士課程及び博士後期課程の修了生における就職希望者に対する就職率は、研究科全体の平均として90%以上であり、平成24~27年度では95%を超える高い水準である(資料6-2-①-2)。大学院修了生の就職については、教育研究機関、医療業、製造業、情報サービス業、印刷業への就職率が高い(別添資料6-2-①-I)。

資料6-2-①-1 学部卒業生進路状況及び就職率の状況調査結果(平成22~27年度)

年度	学部	卒業生(人)	就職者(人)	就職率(%)	うち県内就職者(人)	うち県外就職者(人)	県内就職率(%)	県外就職率(%)	進学者(人)	その他(人)
22	保健福祉学部	153	133	95.0	91	42	68.4	31.6	13	0
	情報工学部	150	70	93.3	32	38	45.7	54.3	74	1
	デザイン学部	87	52	77.6	16	36	30.8	69.2	17	2
	計	390	255	90.4	139	116	54.5	45.5	104	3
23	保健福祉学部	141	126	98.4	81	45	64.3	35.7	12	1
	情報工学部	176	90	91.8	40	50	44.4	55.6	75	1
	デザイン学部	88	67	93.1	31	36	46.3	53.7	13	2
	計	405	283	95.0	152	131	53.7	46.3	100	4
24	保健福祉学部	143	133	99.3	85	48	63.9	36.1	6	3
	情報工学部	135	75	94.9	38	37	50.7	49.3	55	1
	デザイン学部	87	60	88.2	15	45	25.0	75.0	13	6
	計	365	268	95.4	138	130	51.5	48.5	74	10

25	保健福祉学部	143	135	98.5	86	49	63.7	36.3	5	1
	情報工学部	124	61	98.4	32	29	52.5	47.5	61	1
	デザイン学部	83	59	89.4	20	39	33.9	66.1	12	5
	計	350	255	96.2	138	117	54.1	45.9	78	7
26	保健福祉学部	147	125	100.0	90	35	72.0	28.0	15	6
	情報工学部	153	75	96.2	42	33	56.0	44.0	71	5
	デザイン学部	94	64	95.5	25	39	39.1	60.9	7	20
	計	394	264	97.8	157	107	59.5	40.5	93	31
27	保健福祉学部	139	124	100.0	84	40	67.7	32.3	15	0
	情報工学部	153	97	98.0	50	47	51.0	49.0	53	1
	デザイン学部	106	88	93.6	33	55	37.5	62.5	9	3
	計	398	309	97.5	167	142	53.9	46.1	77	4

(出典：学生支援班提供資料)

資料6-2-①-2 大学院修士進路状況及び就職率の状況調査結果(平成22~27年度)

年度	研究科 (博士前期・修士課程)	修了者 (人)	就職者 (人)	就職率 (%)	うち県内 就職者 (人)	うち県外 就職者 (人)	県内 就職率 (%)	県外 就職率 (%)	進学者 (人)	その他 (人)
22	保健福祉学研究科	8	1	50.0	0	1	-	100.0	2	3
	情報系工学研究科	43	38	90.5	7	31	18.4	81.6	0	1
	デザイン学研究科	12	7	100.0	3	4	42.9	57.1	1	1
	計	63	46	90.2	10	36	21.7	78.3	3	5
23	保健福祉学研究科	22	8	88.9	5	3	62.5	37.5	1	10
	情報系工学研究科	64	60	96.8	14	46	23.3	76.7	2	0
	デザイン学研究科	13	7	77.8	3	4	42.9	57.1	0	4
	計	99	75	93.8	22	53	29.3	70.7	3	14
24	保健福祉学研究科	19	8	100.0	5	3	62.5	37.5	1	9
	情報系工学研究科	62	61	100.0	15	46	24.6	75.4	0	1
	デザイン学研究科	14	10	90.9	4	6	40.0	60.0	0	3
	計	95	79	98.8	24	55	30.4	69.6	1	13
25	保健福祉学研究科	12	6	100.0	2	4	33.3	66.7	0	6
	情報系工学研究科	56	55	100.0	9	46	16.4	83.6	1	0
	デザイン学研究科	7	3	50.0	2	1	66.7	33.3	0	1
	計	75	64	95.5	13	51	20.3	79.7	1	7
26	保健福祉学研究科	15	4	100.0	1	3	25.0	75.0	4	7
	情報系工学研究科	51	49	98.0	12	37	24.5	75.5	0	1
	デザイン学研究科	10	8	100.0	4	4	50.0	50.0	0	2
	計	76	61	98.4	17	44	27.9	72.1	4	10
27	保健福祉学研究科	12	6	85.7	1	5	16.7	83.3	0	5
	情報系工学研究科	46	43	95.6	14	29	32.6	67.4	0	1
	デザイン学研究科	10	10	100.0	2	8	20.0	80.0	0	0
	計	68	59	95.2	17	42	28.8	71.2	0	6

【博士後期課程】

年度	研究科 (博士後期課程)	修了者	就職者	就職率	うち県内 就職者 (人)	うち県外 就職者 (人)	県内 就職率(%)	県外 就職率(%)	進学者 (人)	その他 (人)
22	保健福祉学研究科	3	1	100.0	1	0	100.0	-	0	1
	情報系工学研究科	3	0	-	0	0	-	-	0	3
	計	6	1	100.0	1	0	100.0	-	0	4
23	保健福祉学研究科	4	1	100.0	1	0	100.0	-	0	3
	情報系工学研究科	2	1	100.0	0	0	-	-	0	0
	計	6	2	100.0	1	0	50.0	-	0	3

24	保健福祉学研究科	6	1	100.0	1	0	100.0	-	0	2
	情報系工学研究科	4	2	100.0	2	0	100.0	-	0	1
	計	10	3	100.0	3	0	100.0	-	0	3
25	保健福祉学研究科	4	0	-	0	-	-	-	0	3
	情報系工学研究科	2	0	-	0	-	-	-	0	1
	計	6	0	-	0	-	-	-	0	4
26	保健福祉学研究科	5	0	100.0	0	1	-	100.0	0	5
	情報系工学研究科	2	1	100.0	0	1	-	100.0	0	0
	計	7	1	100.0	0	2	-	100.0	0	5
27	保健福祉学研究科	4	1	100.0	0	1	0.0	100.0	0	1
	情報系工学研究科	1	0	-	0	0	-	-	0	1
	計	5	1	100.0	0	1	0.0	100.0	0	2

(出典：学生支援班提供資料)

別添資料6-2-①-I 各学部・研究科における主な就職先(抜粋)

【分析結果とその根拠理由】

就職希望者に対する就職率は、学部全体の平均として概ね95%以上、博士前期課程・修士課程及び博士後期課程の就職希望者に対する就職率も、概ね95%以上となっている。学部卒業生の大学院等への進学率は概ね20%前後である。また博士前期課程修了生の博士後期課程への進学率は3%前後で推移している。卒業・修了生は各学部・研究科が担う人材養成の分野を反映し、医療・福祉、製造業、情報サービス業、公務員等へ就職し、活躍している。

以上のことから、就職や進学といった卒業(修了)後の進路の状況等の実績から判断して、学習成果が上がっていると判断する。

観点6-2-②：卒業(修了)生や、就職先等の関係者からの意見聴取の結果から判断して、学習成果が上がっているか。

【観点到に係る状況】

本学では、平成22、23年度卒業生及び修了生に対して、本学における学習成果に関するアンケート調査を実施した。調査は平成27年10月に本学同窓会名簿に記載された住所にアンケート用紙を送付し、記入後に返送してもらう方式で実施した(資料6-2-②-1)。質問内容は、在学中の教育研究に対する評価や満足度、習得できた知識・技術・能力等を中心とした。卒業生アンケートは55件、修了生アンケートは15件の返信があり、今後の件数増が望まれる。結果は「(問12)岡山県立大学の教育内容に対する満足度」については、卒業生全体の約85%が「ある程度そう思う」か「とてもそう思う」と回答していた。また、「(問13)岡山県立大学の教育は卒業後の仕事や生活に役立っているか」の質問に対して、全体の約85%が「ある程度そう思う」か「とてもそう思う」と回答していた。また全体の80%以上が「ある程度身についた」か「十分身についた」と考えている項目は、「主体性」、「チームワーク」、「専門分野における知識や技術」、「問題解決能力」、「実行力」、「規律性」であった。大学院修了生に関しては、90%以上が「研究指導の充実」に対して「ある程度そう思う」か「とてもそう思う」と回答した。また90%以上が「ある程度身についた」か「十分身についた」と回答した項目は、「論理的思考力」、「問題解決能力」であり、80%以上が「実行力」、「発信力」、「情報リテラシー」について「ある程度身についた」か「十分身についた」と回答した(資料6-2-②-2)。以上により、アンケート集計結果の範囲では、学習成果が上がっていると判断できる。

また本学の卒業生・修了生(平成17~26年度)の就職先事業所に対して本学卒業生の社会人基礎力等についての意見聴取を行うためにアンケート調査を行った(資料6-2-②-3)。調査は231件の事業所に平成27年11月にアンケート用紙を送付し、記入後に返送してもらう方式で実施し113件から回答を得た。卒業生・修了生の社会人基礎力に関する評価項目では、ほとんどの項目において中間値以上の評価であった。特に、「誠実さ・責任感・忍耐力・堅実性を有しているか」の質問においては、全体の約80%が「とてもそう思う」か「そう思う」と回答していた。「協調性を有しているか」、では全体の約70%が「とてもそう思う」か「そう思う」と回答していた。その他、

90%以上の就職先事業所が本学卒業生・修了生に対して「深い専門学力」、「幅広い基礎的学力」、「幅広い教養」を「ふつう程度」以上有していると評価していた。以上により、アンケート集計結果の範囲では本学の教育体制における学生の学習成果は上がっていると判断できる。

さらに大学案内等の広報誌や大学案内用の動画においては、卒業生及び修了生のなどのメッセージが寄せられており、在学時の学習成果が卒業(修了)後に十分活かされていることが窺われる(資料6-2-②-4、大学紹介ムービー URL: http://www.oka-pu.ac.jp/index.php?page_id=1377)。

資料6-2-②-1 卒業生アンケート結果

(単位:人数(%))

設 問	回 答	①	②	③	④	⑤
問1 卒業直後の進路		33 (60.0)	20 (36.4)	1 (1.8)	1 (1.8)	0
問2 全学教育が充実していた		6 (10.9)	35 (63.6)	13 (23.6)	1 (1.8)	
問3 専門教育が充実していた		21 (38.2)	30 (54.5)	4 (7.3)	0	
問4 外国語学習のサポートが充実していた		2 (3.6)	23 (41.8)	29 (52.7)	1 (1.8)	
問5 演習・実習・実験など実践的な教育が充実していた		26 (47.3)	27 (49.1)	2 (3.6)	0	
問6 少人数による指導が受けられた		21 (38.2)	19 (34.5)	13 (23.6)	2 (3.6)	
問7 教員との交流が多かった		15 (27.3)	22 (40.0)	16 (29.1)	2 (3.6)	
問8 学習意欲が湧く授業が多かった		3 (5.5)	37 (67.3)	14 (25.5)	1 (1.8)	
問9 学習面での施設・設備が充実していた		13 (23.6)	33 (60.0)	8 (14.5)	1 (1.8)	
問10 地域社会との交流やクラブ・サークル活動などの課外交流活動が盛んだった		9 (16.4)	21 (38.2)	20 (36.4)	5 (9.1)	
問11 学生生活や就職活動などの支援体制が充実していた		4 (7.3)	23 (41.8)	25 (45.5)	3 (5.5)	
問12 岡山県立大学の教育内容に、全体として満足している		18 (32.7)	29 (52.7)	7 (12.7)	1 (1.8)	
問13 岡山県立大学の教育は卒業後の仕事や生活に役立っている		19 (34.5)	28 (50.9)	7 (12.7)	1 (1.8)	
問14 豊かな人間性		8 (14.5)	36 (65.5)	9 (16.4)	2 (3.6)	
問15 主体性		8 (14.5)	37 (67.3)	9 (16.4)	1 (1.8)	
問16 チームワーク		10 (18.2)	41 (74.5)	3 (5.5)	1 (1.8)	
問17 リーダーシップ		4 (7.3)	26 (47.3)	23 (41.8)	2 (3.6)	
問18 専門分野における知識や技術		13 (23.6)	38 (69.1)	3 (5.5)	1 (1.8)	
問19 専門知識や技術を実務に活かす力		9 (16.4)	32 (58.2)	12 (21.8)	2 (3.6)	
問20 論理的思考力		7 (12.7)	34 (61.8)	13 (23.6)	1 (1.8)	
問21 問題解決力		8 (14.5)	36 (65.5)	11 (20.0)	0	
問22 創造力		5 (9.1)	25 (45.5)	23 (41.8)	2 (3.6)	
問23 実行力		11 (20.0)	36 (65.5)	7 (12.7)	1 (1.8)	
問24 計画力		9 (16.4)	33 (60.0)	12 (21.8)	1 (1.8)	
問25 発信力		4 (7.3)	32 (58.2)	17 (30.9)	2 (3.6)	
問26 情報リテラシー		4 (7.3)	31 (56.4)	16 (29.1)	4 (7.3)	
問27 コミュニケーションスキル		2 (3.6)	20 (36.4)	25 (45.5)	8 (14.5)	
問28 異文化理解		1 (1.8)	13 (23.6)	30 (54.5)	11 (20.0)	
問29 社会的責任		11 (20.0)	31 (56.4)	11 (20.0)	2 (3.6)	
問30 規律性		15 (27.3)	38 (69.1)	1 (1.8)	1 (1.8)	

※回答選択 問1:①就職(岡山県内) ②就職(岡山県外) ③進学・留学 ④パート・アルバイト ⑤その他

問2-43:①とてもそう思う ②ある程度そう思う ③あまりそう思わない ④全くそう思わない

問4-30:①十分身についた ②ある程度身についた ③あまり身につかなかった ④全く身につかなかった

(出典:岡山県立大学「教育年報2015」付録1 p.201)

資料6-2-②-2 修了生アンケート結果(抜粋)

(単位:人数(%))

設 問	回 答	①	②	③	④
問1 授業内容は充実していた		5 (33.3)	6 (40.0)	4 (26.7)	0
問2 研究指導は充実していた		8 (53.3)	6 (40.0)	1 (6.7)	0

問3 研究の施設や設備・装置は充実していた	5 (33.3)	7 (46.7)	3 (20.0)	0
問4 専門分野における知識や技術	4 (26.7)	7 (46.7)	4 (26.7)	0
問5 専門知識や技術を実務に活かす力	1 (6.7)	9 (60.0)	5 (33.3)	0
問6 論理的思考力	4 (26.7)	10 (66.7)	1 (6.7)	0
問7 問題解決力	5 (33.3)	10 (66.7)	0	0
問8 創造力	2 (13.3)	10 (66.7)	3 (20.0)	0
問9 実行力	3 (20.0)	10 (66.7)	2 (13.3)	0
問10 計画力	2 (13.3)	9 (60.0)	4 (26.7)	0
問11 発信力	2 (13.3)	11 (73.3)	2 (13.3)	0
問12 情報リテラシー	4 (26.7)	8 (53.3)	3 (20.0)	0
問13 コミュニケーションスキル	0	6 (40.0)	8 (53.3)	1 (6.7)
問14 異文化理解	1 (6.7)	4 (26.7)	7 (46.7)	3 (20.0)
問15 専門分野における知識や技術	4 (26.7)	6 (40.0)	5 (33.3)	0
問16 専門知識や技術を実務に活かす力	2 (13.3)	8 (53.3)	5 (33.3)	0
問17 論理的思考力	5 (33.3)	9 (60.0)	1 (6.7)	0
問18 問題解決力	4 (26.7)	10 (66.7)	1 (6.7)	0
問19 創造力	1 (6.7)	13 (86.7)	1 (6.7)	0
問20 実行力	5 (33.3)	6 (40.0)	4 (26.7)	0
問21 計画力	4 (26.7)	8 (53.3)	2 (13.3)	1 (6.7)
問22 発信力	3 (20.0)	10 (66.7)	2 (13.3)	0
問23 情報リテラシー	2 (13.3)	9 (60.0)	2 (13.3)	2 (13.3)
問24 コミュニケーションスキル	2 (13.3)	4 (26.7)	7 (46.7)	2 (13.3)
問25 異文化理解	1 (6.7)	6 (40.0)	6 (40.0)	2 (13.3)

※回答選択肢
 問～3: ①とてもそう思う ②ある程度そう思う ③あまりそう思わない ④全くそう思わない
 問～14: ①十分身についた ②ある程度身についた ③あまり身につかなかった ④全く身につかなかった
 問5～25: ①とても役立った ②ある程度役立った ③あまり役立たなかった ④全く役立たなかった

(出典：岡山県立大学「教育年報2015」付録1 p.202)

資料6-2-②-3 就職先アンケート結果

(単位:人数(%))

設 問	回 答	①	②	③	④	⑤
問1 社会人としての総合力の高さを有している		11 (9.7)	69 (61.1)	30 (26.5)	3 (2.7)	0
問2 深い専門学力を有している		12(10.6)	54 (47.8)	41 (36.3)	6 (5.3)	0
問3 幅広い基礎的学力を有している		7(6.2)	59 (52.2)	44 (38.9)	3 (2.7)	0
問4 語学力、異文化への適応力などのグローバルな対応力を有している		4(3.5)	22 (19.5)	66 (58.4)	19 (16.8)	2 (1.8)
問5 幅広い教養を有している		8(7.1)	39 (34.5)	61 (54.0)	5 (4.4)	0
問6 自立性・自主性・向上心を有している		20(17.7)	66 (58.4)	24 (21.2)	3 (2.7)	0
問7 計画力を有している		9(8.0)	51 (45.1)	47 (41.6)	6 (5.3)	0
問8 誠実さ・責任感・忍耐力・堅実性を有している		29(25.7)	66 (58.4)	15 (13.3)	3 (2.7)	0
問9 積極性・行動力・実践力(前に踏み出す力)を有している		9(8.0)	59 (52.2)	39 (34.5)	5 (4.4)	1 (0.9)
問10 周囲との協調性(チームで働く力)を有している		21(18.6)	62 (54.9)	29 (25.7)	1 (0.9)	0
問11 優れたコミュニケーション能力を有している		9(8.0)	51 (45.1)	48 (42.5)	4 (3.5)	1 (0.9)
問12 県大に期待すること第一位		13(11.5)	27 (23.9)	33 (29.2)	40 (35.4)	
問13 県大に期待すること第二位		17(15.0)	17 (15.0)	52 (46.0)	26 (23.0)	
問14 県大に期待すること第三位		40(35.4)	27 (23.9)	19 (16.8)	26 (23.0)	
問15 県大に期待すること第四位		43(38.1)	42 (37.2)	9 (8.0)	17 (15.0)	
問16 県大の人材育成に重視する項目第一位		57(50.4)	29 (25.7)	18 (15.9)	6 (5.3)	3 (2.7)
問17 県大の人材育成に重視する項目第二位		31(27.4)	26 (23.0)	13 (11.5)	32 (28.3)	11 (9.7)
問18 県大の人材育成に重視する項目第三位		18(15.9)	29 (25.7)	31 (27.4)	21 (18.6)	14 (12.4)
問19 県大の人材育成に重視する項目第四位		5(4.4)	22 (19.5)	31 (27.4)	35 (31.0)	20 (17.7)
問20 県大の人材育成に重視する項目第五位		2(1.8)	7 (6.2)	20 (17.7)	19 (16.8)	65 (57.5)

問21 人材育成に向けた県大との連携で重視すること第一位	67(59.3)	16 (14.2)	24 (21.2)		
問22 人材育成に向けた県大との連携で重視すること第二位	23(20.4)	53 (46.9)	30 (26.5)		
問23 人材育成に向けた県大との連携で重視すること第三位	18(15.9)	36 (31.9)	52 (46.0)		
問24 県大生採用の際、OB・OGの業務実績を重視している	12(10.6)	23 (20.4)	32 (28.3)	36 (31.9)	7 (6.2)
問25 県大生採用の際、OB・OGの定着率を重視している	8(7.1)	29 (25.7)	29 (25.7)	36 (31.9)	8 (7.1)
問26 県大生採用の際、地域への理解度の高さを重視している	5(4.4)	18 (15.9)	30 (26.5)	23 (20.4)	10 (8.8)
問27 県大生は他の都道府県の大学出身者と比べてどうか	12(10.6)	25 (22.1)	46 (40.7)	2 (1.8)	0
問28 県大生は県内の大学出身者と比べてどうか	21(18.6)	30 (26.5)	33 (29.2)	2 (1.8)	0
問29 他の都道府県に在る県大OB・OGのUターンに期待する	10(8.8)	27 (23.9)	23 (20.4)	21 (18.6)	5 (4.4)
問30 今後県大生採用に向けて、大学との情報交換が必要である	31(27.4)	37 (32.7)	13 (11.5)	5 (4.4)	0

(回答数: 113件)

※回答選択

問1~問11: ①とてもそう思う ②そう思う ③ふつふ程度 ④あまりそう思わない ⑤全くそう思わない

問12~15: 県大に期待すること: ①基礎力・教養を有する人材育成 ②高度専門・能力を有する人材育成 ③優れたコミュニケーション能力を有する人材育成 ④豊かな人間性に溢れる人材育成

問16~20: 県大に期待する人材育成: ①教養と強 ②精神を兼ね備えた人材 ③高度専門・能力を有し且戦力となる人材 ④地域社会に貢献できる人材 ⑤多様な社会経験を経験している人材 ⑥グローバルな人材

問21~23: 人材育成に向けた県大との連携で重視すること: ①インターンシップ ②講義・カリキュラム共同開発 ③産学連携・共同研究

問24~26: ①大変重視している ②重視している ③差はない ④やや重視 ⑤重視していない

問27~28: ①優れている ②少し優れている ③差はない ④少し劣る ⑤劣る

問29~30: ①非常に期待している ②期待している ③多少期待している ④あまり期待してない ⑤全く期待してない

(出典: 岡山県立大学「教育年報2015」付録1 p.203)

資料6-2-②-4 卒業生(修了生)からのメッセージ(抜粋)



倉敷中央病院
保健福祉学部 看護学科 2000年卒
森貞 敦子さん

看護師としての根幹となる言葉を励みに、よりよい看護を目指して成長し続ける。

授業で印象に残っている言葉があります。それは「技術や知識に差はあっても、看護観の高さに経験は関係ない」という教授のお言葉。新人の頃は、その言葉を励みに自分の看護観を大切にしながら、よりよい看護を目指してきました。今では指導を行うことが多くなったので、若いスタッフの感性を大切にできるよう心がけています。教授から頂いた言葉が、看護師としての自分の根幹を支えていると感じますね。医療の現場では、常に新しい知識・技術が必要。その中で的確に情報を掴み、看護観としての力をつけていくと共に、一緒に働くスタッフ達も大切にしながら、人間味のある看護をしていきたいと思っています。大学入学、就職、それはゴールではなくスタートであり、私もまだ夢の道の途中。可能性は自分で作っていくものなので、岡山県立大学のどかな環境の中で社会人になるまでの貴重な時間を有意義に過ごして、自分の可能性を広げていってください。



(株)日立製作所
情報系工学研究科 電子情報通信工学専攻 2007年修了
星島 正光さん

新しいことができるかという視点から物事を捉え、ものづくりに生かす。

もともと物理が好きで、携帯電話などの情報端末やものづくりに興味があったので、この学科を志望しました。入学した当初は、授業選びや単位というシステムに戸惑いもありましたが、最初から決まっていることをやるのではなく、分からないなりに自分で選んで決めていくことを初めて経験したことから、徐々に考え方が変わっていきました。苦手なことでも、少しでも興味があればやってみるべき。ものづくりが好きなら、ネームバリューに惑わされず、「自分にとって新しいことができるか」という視点を持って様々な物事を捉えてほしいと思います。そして、その新しい視点を導いてくれる先生方と環境が、この大学にはあります。東京は、若いうちに色々な経験をするには最高の場所。たくさんの情報の中から自分に新しい視点を与えてくれる仕事や遊びを見つけて、より価値の大きな事を成せる人間になりたいですね。



(出典：岡山県立大学「大学案内2013」)

【分析結果とその根拠理由】

各学部・研究科における卒業（修了）生や就職先の関係者への意見聴取では、教育の成果について高い評価が得られている。

以上のことから、卒業（修了）生や、就職先等の関係者からの意見聴取の結果から判断して、学習成果が上がっていると判断する。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

・本学における学生の学習意欲は総じて高く、また卒業（修了）後の就職率についても高い水準を維持しており、とりわけ保健福祉学部における看護師・保健師・助産師及び管理栄養士国家資格試験合格率及び就職率は極めて高い水準にある。

【改善を要する点】

・授業評価アンケートについて、教員・学生へフィードバックする上での問題があるため、平成28年度計画に記載したとおり、在学中の学習成果をより詳細に測りかつシラバス等と連携させて教育改善に活かすため、作成した方針に基づいて改訂し、未実施であった大学院授業評価アンケートとともに実施する予定である。

基準 7 施設・設備及び学生支援

(1) 観点ごとの分析

観点 7-1-①: 教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備における耐震化、バリアフリー化、安全・防犯面について、それぞれ配慮がなされているか。

【観点到る状況】

本学の教育研究用途の主要校地は、現キャンパス（保健福祉学部・情報工学部・デザイン学部）1カ所であるが、大学設置基準により算出される必要な面積と比較して、十分な面積を有している（資料 7-1-①-1）。

建物及び体育施設等は、キャンパスに本部棟、図書館、学部共通棟（東・西・南・北の各棟）、保健福祉学部棟、情報工学部棟、情報工学部教育・研究棟、デザイン学部棟、アトリエ棟、学生会館、講堂、同窓会館、エネルギーセンター（施設管理棟）、体育館、プール、部室棟、陸上競技場、テニスコート、野球場及びグラウンドを有しており（資料 7-1-①-2）、講義、演習、自主学习などで有効に活用している（資料 7-1-①-3）。

その他附属施設として、大学教育開発センター、国際交流センター、学術研究推進センター、情報基盤活用推進センター、広報メディア開発センター、産学官連携推進センター、地域連携推進センター及び保健福祉推進センターといった学内共同教育研究施設を設置している（前掲資料 2-1-⑤-2）。

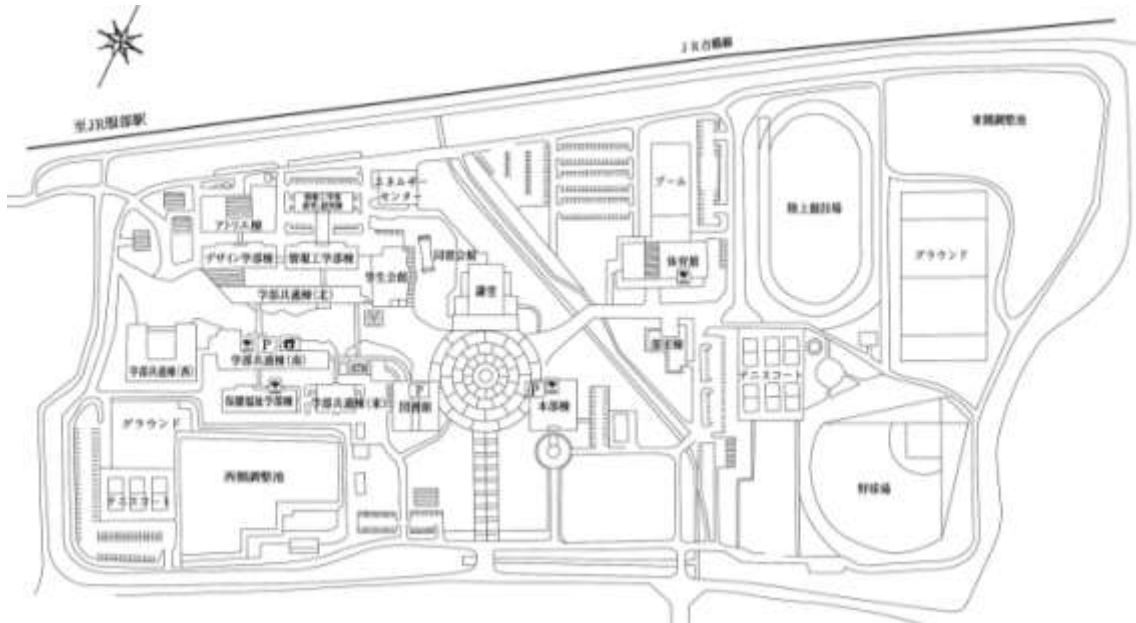
本学では、施設・設備における耐震化については、平成 5 年 4 月の開学当初において新耐震設計により耐震性を有している。なお、第 2 期中期計画（資料 7-1-①-4）及び大規模修繕計画（資料 7-1-①-5）等に基づき、学内の施設・設備等は計画的に維持管理を行っているとともに、建物の有効利用（資料 7-1-①-6）、施設内のバリアフリー化（資料 7-1-①-7）、ならびに合理的配慮に基づくバリアフリー化（別添資料 7-1-①-1）、安全・防犯面の整備（資料 7-1-①-8）を行い、平成 28 年度には学生ニーズを踏まえ学生会館にラーニング・コモンズ整備を計画している（資料 7-1-①-9）。

資料 7-1-①-1 校地・校舎面積

区分	校地面積(m ²)	校舎面積(m ²)
設置基準面積	14,800	21,548
大学全体(キャンパス)	215,119	45,549

(出典：総務班施設管理グループ提供資料)

資料 7-1-①-2 岡山県立大学キャンパス配置図



(出典：総務班施設管理グループ提供資料)

資料 7-1-①-3 講義室等の設置状況

区分	講義室	演習室	実験・実習室	情報処理室	語学学習室
キャンパス	26	26	95	5	1

(出典：総務班施設管理グループ提供資料)

資料 7-1-①-4 施設・設備の整備に関する第2期中期計画、各年度実績及び平成28年度計画

<p>公立大学法人岡山県立大学第2期中期計画（抜粋）</p> <p>IV 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>2 資産の管理運用に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>(1) 教育研究の水準を向上させるため、施設の有効かつ効率的な活用にも努めるとともに、教育研究施設等の計画的な維持管理、補修を行う。</p> <p>VI その他業務運営に関する重要事項に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 施設設備の整備に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>教育研究機能を充実させるため、施設設備の整備、大規模修繕及び高額機器の購入については、長期的な計画を策定し、効率的に実施する。その際、省エネ効果やユニバーサルデザインに配慮する。</p> <p>2 安全衛生管理や危機管理等に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>(1) 施設設備の定期点検を確実に実施し、安全に維持するための全学的な安全衛生管理体制を強化する。</p>
<p>公立大学法人岡山県立大学第2期中期計画 URL: http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2013/04/midterm_plan2.pdf</p>
<p>公立大学法人岡山県立大学平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果（抜粋）</p> <p>IV-2-(1) 岡山県から「公立大学法人岡山県立大学施設等整備事業費補助金」の交付を受け、学部共通棟(北) 他屋根塗装、吸収冷暖房機分解整備及び空調自動制御設備更新を行った。</p> <p>VI-1 大規模修繕計画に基づき、空調自動制御設備工事及び屋根塗装工事を行った。また、施設設備の整備を効果的に実施するため、デザイン学部棟及び学部共通棟(北)の壁面(計2か所)に、予防的修復工事を実施した。</p> <p>VI-2-(1) 施設の点検を確実に実施し、その結果、崩壊のおそれがある壁面の修繕(2か所)、熱吸収冷暖房器炉頭液管の修繕を行った。また、保証期間の到来したAED 設備2か所の更新を実施した。</p>
<p>公立大学法人岡山県立大学平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果</p> <p>URL: http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2014/09/2013assessresults.pdf</p>
<p>公立大学法人岡山県立大学平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果（抜粋）</p> <p>IV-2-(1) 岡山県から「公立大学法人岡山県立大学施設等整備事業費補助金」の交付を受け設備更新等を行った。・空調自動制御設備更新・照明制御設備機器更新・吸収冷暖房機液管炉筒取替・動物実験棟空調設備更新</p> <p>VI-1 大規模修繕計画に基づき、空調自動制御設備、照明制御設備、動物実験棟空調設備の更新工事を行った。</p> <p>VI-2-(1) 施設の適切な機能保持のため、熱吸収冷暖房機液管炉筒の修繕を実施した。</p>
<p>公立大学法人岡山県立大学平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果</p> <p>URL: http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2015/10/2014_07_2014assessresults.pdf</p>
<p>公立大学法人岡山県立大学平成27年度実績報告書（抜粋）</p> <p>IV-2-(1)</p> <p>岡山県から「公立大学法人岡山県立大学施設等整備事業費補助金」の交付を受け次の設備更新等を行った。</p> <p>・空調自動制御設備更新・照明制御設備機器更新・吸収冷暖房機液管炉筒取替</p> <p>VI-1 大規模修繕計画に基づき、空調自動制御設備、照明制御設備の更新、吸収冷暖房機の液管炉筒取替工事を行った。</p> <p>VI-2-(1)</p> <p>施設の日常点検を確実に実施し、その結果、タイルの破損箇所(2箇所)や転倒危険箇所への注意喚起の措置及び滑り止めを実施した。また、トップライトガラスのひび割れ箇所の割替(7箇所)や外周路の陥没、亀裂箇所の修繕を実施した。</p>
<p>公立大学法人岡山県立大学平成27年度実績報告書 URL: http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/06/HP-27houkokusyo.pdf</p>
<p>公立大学法人岡山県立大学平成28年度計画（抜粋）:</p> <p>IV-2-(1) 教育研究施設等の整備・修繕計画に基づき、引き続き、空調自動制御設備や照明制御設備の更新等、教育研究施設等の計画的な修繕を行う。</p> <p>VI-1 エネルギー効率に配慮し、空調自動制御設備、照明制御設備等の大規模修繕を長期計画に基づき実施する。</p> <p>VI-2-(1) 全学的な安全衛生管理体制のもと、引き続き安全衛生教育の充実に取り組み、施設設備の機能保全及び維持管理を適切に行う。</p>
<p>公立大学法人岡山県立大学平成28年度計画 URL: http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/04/2016years_plan.pdf</p>

(出典：大学ホームページ「大学情報」 URL: http://www.oka-pu.ac.jp/index.php?page_id=1169)

資料 7-1-①-5 第 2 期中期計画期間中の建物改修の実施状況及び計画

年度	建物	設備機械
25	屋根塗装(学部共通棟(北・南・西)、保福棟、図書館、情報棟、デザイン棟、アトリエ棟)	空調自動制御設備更新(中央監視等)、吸収冷暖房機(3機)分解整備
26		空調自動制御設備更新(第1系統)(デザイン棟、アトリエ棟、学部共通棟(北・西))、照明制御設備更新(学部共通棟(北・南・西)、保福棟、情報棟、デザイン棟、アトリエ棟)、吸収冷暖房機(1号機)液管炉筒修繕、動物実験棟飼育用空調設備更新
28		空調自動制御設備更新(第2系統)(学部共通棟(南)、保福棟、図書館、本部棟、動物実験棟)、照明制御設備更新(講堂、図書館、本部棟)、吸収冷暖房機(2号機)液管炉筒修繕、
29		空調自動制御設備更新(第3系統)(学生会館、情報棟、エネセン棟、講堂、体育館)、照明制御設備更新(体育館、部室棟)、動物実験棟機械室内設備更新
30	屋根塗装(部室棟他)、屋根塗装(講堂)	設備時計・プログラムコントローラ機器更新

(出典：「大規模修繕計画」総務班施設管理グループ提供)

資料 7-1-①-6 建物有効利用のための施設・設備整備の取組み

- ・ 学科等再編に伴う取組み (H25 子ども学/社会福祉学専攻・同システム工学専攻)
- ・ 学内組織再編に伴う取組み (H26 同窓会館「寄贈」～国際交流センター H27 共通教育部～各推進室関係・各センター関係)
- ・ その他空き施設等の整備等

(出典：総務班施設管理グループ提供)

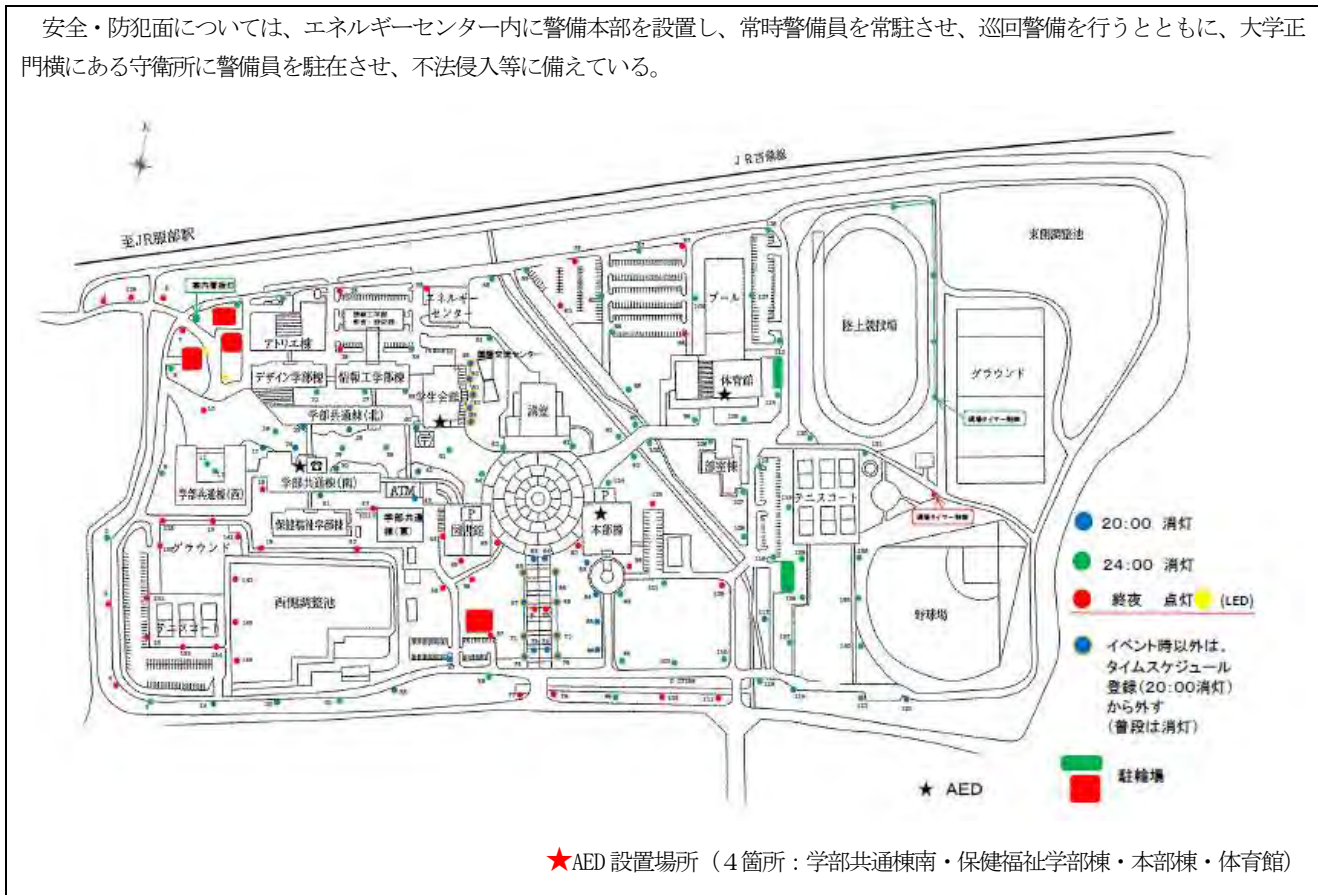
資料 7-1-①-7 バリアフリー整備の状況

- ・ 障がい者専用駐車スペース (11台)
 - ・ 多目的トイレ(本部棟、体育館、講堂、図書館、学生会館、各学部棟、研究棟、共通棟(南・東・西)の各1階計12箇所)
 - ・ 車いす学生用机(講義室等)の設置
 - ・ 構内段差への段差スロープ設置
- ※ 別添資料 7-1-①-I 平成 28 年度入学障がい学生支援のためのバリアフリー化取組(事例)

(出典：総務班施設管理グループ提供)

資料 7-1-①-8 防犯体制強化のための外灯及びAEDの設置

安全・防犯面については、エネルギーセンター内に警備本部を設置し、常時警備員を常駐させ、巡回警備を行うとともに、大学正門横にある守衛所に警備員を駐在させ、不法侵入等に備えている。



(出典：総務班施設管理グループ提供)

資料 7-1-①-9 学生ニーズを踏まえたラーニング・コモンズ整備計画

2 学生への支援に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 学習支援、生活支援に関する目標を達成するためとるべき措置

・ 学生会館内にラーニングコモンズ（28年度新設）を設け、学生の主体的活動を支援するとともに、自主学習や「おかやまボランティア演習」等でのグループワークに活用する。

（出典：岡山県立大学平成28年度計画 p.9

URL: http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/04/2016years_plan.pdf

別添資料 7-1-①-I

合理的配慮に基づく平成28年度入学障がい学生支援のためのバリアフリー化取組（事例）

【分析結果とその根拠理由】

本学の校地・校舎の面積は、大学設置基準を満たしており、教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備が整備され、有効に活用されている。また、施設・設備における耐震化は開学時に対策済みであるとともに、バリアフリー化、安全・防犯面は、計画的、段階的に整備が行われている。

以上のことから、教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備が整備され、有効に活用されているとともに、施設・設備における耐震化、バリアフリー化、安全・防犯面についても、それぞれ配慮されていると判断する。

観点 7-1-②：教育研究活動を展開する上で必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されているか。

【観点に係る状況】

本学では、公立大学法人岡山県立大学規程に基づき、全学的な情報管理・戦略の立案と実施を行うための組織として平成27年度に総合情報機構ならびにその傘下に情報基盤活用推進センターを置き（資料 7-1-②-1～2）、本学の有する情報資産を適正に保護・活用している。ならびに情報システムの信頼性、安全性及び効率性の向上に役立てることを目的として岡山県立大学情報システム運用基本規程（別添資料 7-1-②-I）のもとに、岡山県立大学情報システム運用・管理規程及び岡山県立大学特定個人情報取扱規程（別添資料 7-1-②-II）を定め、基盤となる情報システムの企画・立案及び整備を行うとともに、その安全かつ効率的な管理・運用を図り、教育・研究及び事務処理に資することとしている。情報基盤活用推進センターの機能は、その前身となる情報教育センター（平成26年度末で廃止）における情報システム活用支援の機能に、情報インフラ及びシステム管理の機能を統合させたもので、情報教育センターにおける教育コンテンツ企画の機能のみ、共通教育部における情報教育推進室に移管している（前掲資料 2-1-②-4）。

本学の情報ネットワークインフラについては平成27年度の更改の結果、10Gbpsで二重化された基幹網で学内各部署を結び、学外とは岡山情報ハイウェイを通じてSINET5に10Gbps（ベストエフォート）で接続する高速・大容量のデータ通信が可能な環境にある（資料 7-1-②-3、別添資料 7-1-②-III）。ネットワークインフラ上で稼働する教務、学生支援、経理、広報等に関わる情報システム（業務アプリケーション）は平成27年度時点では従来システムを活用しており、必要な最低限の機能は保たれている。しかしながら、とくに、教務系や学生支援系等の学務系情報システムを含む各種機能は各々独立しており、情報セキュリティ面では安全であるものの、情報を連携させた効率的な運用に欠ける点があり、かつ、教学IR支援機能や学生ポータルをもたないため、情報分析に手間がかかること、及び、情報のやりとりをメール添付ファイルや紙媒体に依存せざるを得ないことなどの課題がある（資料 7-1-②-4）。なお情報のやりとりについては、平成27年度に実施の学生アンケートでも学内情報の提供に関する設問で満足度50%未満の学生が56.4%（学部生）と多数であった（資料 7-1-②-5）。これらを改善するため、PC及び携帯端末での利用が可能な学生ポータルを含む全学情報システム（学務系）を平成29年度より本格運用すべく、平成28年度中の整備及び一部運用について予定することとし、関連する28年度業務について計画している（資料 7-1-②-6）。新たなシステムは入試、教務（カリキュラム、シラバス、時間割、履修・成績管理）、証明書発行、健康管理等学務に関わる情報を統合的・効率的に管理する機能のほか、キャリアポートフォリオなど本学の新たな取組を支える機能を備え、必要に応じてパソコンやスマホのウェブブラウザから利用可能とする計画である（別添資料 7-1-②-IV）。

資料7-1-②-1 総合情報機構の業務及び組織 (抜粋)

(業務)

第2条 機構は、岡山県立大学（以下「本学」という。）が地域や国内外に開かれた大学として学内外に対する説明責任を果たすとともに本学の存在意義を伝達するために、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 情報基盤の整備及び活用に関すること。
- (2) 情報セキュリティに関すること。
- (3) 入試、教育研究、国際交流、社会貢献、管理運営等に関する情報の蓄積、活用及び公開に関すること。
- (4) その他機構の目的を達成するために必要な事項

(組織)

第3条 機構は、次の職員で組織する。

- (1) 総合情報機構長
- (2) 副機構長
- (3) 幹事
- (4) その他必要な職員

(出典：岡山県立大学総合情報機構規程

URL:<http://www.oka-pu.ac.jp/kiteidata/act/frame/frame110000181.htm>)

資料7-1-②-2 情報基盤活用推進センターの業務及び組織 (抜粋)

(業務)

第2条 センターにおいては、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 岡山県立大学（以下「本学」という。）における情報処理に使用する施設、機器等の維持管理に関すること。
- (2) 本学が共同利用する情報ネットワークシステムの構築及び維持管理並びに活用に関すること。
- (3) その他前各号に関連する業務に関すること。

(情報基盤活用推進センター長等)

第3条 センターに情報基盤活用推進センター長（以下「センター長」という。）、副センター長及び幹事を置く。

- 2 センター長は、本学の教授のうちから、学長が任命する。
- 3 副センター長は、本学の教員のうちから、学長が任命する。
- 4 センター長は、第2条に掲げる業務を総括し、副センター長は、センター長を補佐する。
- 5 幹事は、本学の教員、特任教員又は職員のうちから、学長が任命する。

(出典：岡山県立大学情報基盤活用推進センター規程

URL:<http://www.oka-pu.ac.jp/kiteidata/act/frame/frame110000192.htm>)

資料7-1-②-3 平成27年度 岡山県立大学学内ネットワークの特徴

①高速、高品質かつセキュアなネットワーク基盤

- ・10ギガビットイーサネット(10Gbps)の棟間接続の全面採用
- ・基幹系及び、支線系ネットワークの経路2重化による信頼性向上
- ・L3スイッチ/ファイアウォールによる高性能化/負荷分散化の実現
- ・次世代ファイアウォールの整備

②省スペース、省電力化

- ・仮想サーバによる省スペース及び、省電力の環境(エコ環境)を実現

③学内キャンパスの無線LANの拡大化

- ・多様な端末で利用可能な安全かつ高速な無線LAN環境を実現
- ・IEEE802.1x認証+ダイナミックVLANの採用

④他大学とシームレスに接続

- ・学術認証フェデレーション「学認(GakuNin)」への参加
- ・Shibboleth環境の構築
- ・国際学術無線LANローミング基盤(eduroam)への参加
- ・おokayまモバイルSPOTの利用可能範囲の拡充

(出典：学部事務班提供資料)

資料 7-1-②-4 学務系情報システムの現状及び主な課題 (抜粋)

- ・ 業務の効率化：
各メンバーより、履修（含む登録）状況などが「見れない・スピード感に欠ける」といった問題や「登録・成績推移・卒業データなど情報をシステムティックに活用しづらい」といった現状課題が指摘された。また学生の履修状況等を統一的に管理の上統計分析することでIR等の改革に資する情報が出力できる「学生カルテ」、及びそのためのデータベース構築の必要性が指摘された。
- ・ 学生へのサービス向上：
学生との双方向連絡システム「学生ポータル」や「各種アンケート回答機能」、及び学生が自身の履修状況やその推移を見ることができるカルテ機能による「成績の可視化」の必要性が指摘された。また横田幹事より、学生ポータルにおいては、従来の情報を引き出しにくいPULL型ではなく、お知らせ機能に見られる「PUSH型」通信の活用により、イベントの案内等を効果的に行える、など提案があった。
- ・ 教学課長より、学内事務処理（教務）システムについて資料に基づき説明があり、「教務システムはシラバス、総覧システムと連携なし」であることや、履修登録時に「サーバーがダウンしやすいなどのハードの問題」があるなど課題が提示された...

(出典：平成28年度全学情報システム（学務系）構築ワーキンググループ第2回会議資料)

資料 7-1-②-5 学生アンケート (抜粋) 全学部(%)：回答数1434件

設問 1 4	80%以上	50～80%未満	20～50%未満	0～20%未満	わからない
休講等授業や学内情報に関する情報提供に対する満足度	5.8%	28.1%	32.4%	24.0%	9.7%

(出典：岡山県立大学「教育年報2015」 付録 1 p. 191

URL: http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/05/05_kyoikunenpo2015-hurokukouki.pdf)

資料 7-1-②-6 全学情報システム（学務系）の整備 (抜粋)

- 1 教育に関する目標を達成するためとるべき措置
 - (2) 教育内容等に関する目標を達成するためとるべき措置
- ウ 教育方法
 - (x) 29年度に全学情報システムが運用開始され、シラバスにも活用されることから、29年度用シラバス様式の策定に向けて点検と改善を実施するとともに、各種設定の効率化や動作安定性の確保が図られるようシステム設計を行う。
 - (3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するためとるべき措置
- イ 教育環境の整備
 - (i) 情報教育推進室では、次の取組を行う。
 - ・ 28年度入学生において、「情報リテラシー基礎」を発展的に廃止し、新たに「コンピュータ演習 II」を開設し、情報リテラシーに関する講義、演習を行う。
 - ・ 学生への情報処理演習室の開放は、講義との調整を行い、最大限の開放日数を確保する。
 - ・ 情報処理演習室を語学演習室と連携して、より効果的な運用を図ることにより、情報処理教育はもとより、語学教育におけるICT利用をサポートする。
 - 情報基盤活用推進センターでは、次の取組を行う。
 - ・ 全学情報システム（学務系）の29年度運用開始に向けて関係部署と連携して設計・構築を行う。
また、利用目的ごとに運用ルールを策定し、研修を計画・実施する。
 - ・ 情報セキュリティ意識の向上を図るため、情報セキュリティに関する研修会を開催する。
- ウ 教育の質の改善
 - (i) 評価委員会において、27年度に試行した教員の個人評価を検証し、評価項目、評価方法、実施方法等の見直しを行う。大学教育開発センターにおいて、学生の授業評価アンケートの項目の見直し及び学修成果における検証方法の改善を行い、その結果を教育内容及び授業方法の改善に役立てる。
また、28年度末に稼働予定の全学情報システムを利用したWebアンケートへの移行を検討する。
- 2 学生への支援に関する目標を達成するためとるべき措置
 - (1) 学習支援、生活支援に関する目標を達成するためとるべき措置
 - ・ スマートフォンを利用した学生への情報提供については、新ホームページの開設（28年度）と全学情報システムの導入（29年度）に合わせて実施できるよう検討する。
- 3 研究に関する目標を達成するためとるべき措置
 - (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するためとるべき措置
- イ 研究者情報の発信

共同研究・受託研究や技術相談等が円滑に行われるよう、29年度から運用開始する「全学情報システム」を活用し、教育研究者総覧のデータベースの充実を図る。
- 4 事務等の効率化、合理化に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 業務の見直し

不要・不急の業務や非効率的な事務処理について、不断の見直しを行うとともに、業務のスクラップアンドビルドを行う。29年度に運用開始する全学情報システムによる、事務処理の合理化・効率化を検討する。

(出典：公立大学法人岡山県立大学平成28年度計画 p.7～9、12、17

URL：http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/04/2016years_plan.pdf)

- 別添資料7-1-②-I 岡山県立大学情報システム基本規程（抜粋）
- 別添資料7-1-②-II 岡山県立大学特定個人情報取扱規程
- 別添資料7-1-②-III 岡山県立大学における情報ネットワーク構成図
- 別添資料7-1-②-IV 平成29年度導入全学情報システム（学務系）構成

【分析結果とその根拠理由】

本学の学内ネットワークは、岡山情報ハイウェイの基幹ネットワークを活用し、教育研究活動に不可欠な大容量データ通信を可能としており、安全性が担保された中で、教職員のみならず学生にICT 利用環境が提供されている。これに加えて情報セキュリティ、個人情報保護に関して、規程の整備をするなど組織的取組を行っている。平成28年度にはより一層の利便性や業務の効率性の確保を目指しICT利用環境の改善計画を実施することとしており、平成29年度からの全学情報システム（学務系）の運用に向けて、構成員（学生及び教職員）に対する必要な研修会も予定している。

現状において教育研究活動を展開する上で必要なICT環境が整備され、有効に活用されていると判断するとともに、より一層、幅広い用途に対応するICT環境の整備に向けて取り組んでいる。

観点7-1-③： 図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

【観点到係る状況】

附属図書館は、本学規程（前掲資料2-1-⑤-1～2）により研究及び学習に必要な図書館資料を収集、整理、保存し、本学の教職員及び学生等の利用に供するとともに、必要な学術情報を提供することを目的とし、図書、逐次刊行物、記録及び古文書、電子的資料、視聴覚資料、その他図書館資料として適当と認めるものについて、系統的かつ計画的に整備している（別添資料7-1-③-1）。資料は、図書館専門委員を中心に学科で必要な専門図書等について教員からの推薦を受け選定している。さらに、同委員会では各学科代表が委員となり、図書館の運営について必要な事項を協議している（資料7-1-③-1）。

利用開館時間・利用者の範囲は、資料7-1-③-2に示すとおりであり、図書館報OPULの定期発行やホームページ（附属図書館 URL：<http://www.lib.oka-pu.ac.jp>）により、広報、周知を図っているが、平成28年度からは学外利用者の年齢制限を廃止するほか、外国人利用者拡充を目指したホームページの工夫など、開かれた図書館として、より一層の利用拡大を図ることとしている（資料7-1-③-3）。

附属図書館には、自主的学習環境として閲覧197席、研究閲覧室及びグループ閲覧室5室、視聴覚室を設置している（資料7-1-③-4）。利用状況は、年間入館者数延べ8万人が利用しており、また附属図書館には、多数の図書、逐次刊行物、記録及び古文書、電子的資料、視聴覚資料、その他図書館資料が系統的に所蔵され、蔵書数は20万冊を超えている。蔵書等の館外貸出数は年間1万9千冊を超え、電子ジャーナルのダウンロード数は1万件を超えているなど、有効に活用されている（別添資料7-1-③-I、資料7-1-③-5）。

蔵書はOPAC（オンライン蔵書目録）による館外からの検索が可能であり、図書の貸出予約や貸出期間の延長はウェブ上でも行うことができる（資料7-1-③-6）。

また、毎年新入生を対象に共通教育科目「大学で学ぶ」にて図書館利用法について講義するとともに、その復習として図書館での実地の利用ガイダンスを実施している（資料7-1-③-7）。学生をはじめとする利用者のニーズを踏まえた図書館運営の工夫としては、エントランスホールへのラーニング・コモンズ設置により少人数セミナーや学生同士の討論などグループワークの場を提供していることや、教員と連携した選書による教養書の充実、学生が学習や研究に役立つ書籍を書店で実際に手に取って選書する選書ツアーの開催、本学の研究成果を公開登録する学術情報リポジトリの管理・運用が挙げられる（資料7-1-③-8～9）。

資料 7-1-③-1 岡山県立大学委員会専門委員会細則 (抜粋)

(専門委員会の名称等)

第2条 2 専門委員会の所掌事項は、別表2のとおりとする。

別表2

図書館専門委員会	(1) 図書館の運営に関する事項 (2) 図書館資料の収集に関する事項 (3) 図書館情報処理システムの運用に関する事項 (4) その他図書館に関し教育研究活動委員会から付議された事項
----------	---

(出典：岡山県立大学委員会専門委員会細則)

URL: <http://www.oka-pu.ac.jp/kiteidata/act/frame/frame11000014.htm>

資料 7-1-③-2 岡山県立大学附属図書館利用規程 (抜粋)

(利用者の範囲)

第2条 図書館を利用できる者は、次の各号に掲げる者とする。ただし、小学生以下の者は保護者の同伴がなければ利用できない。また、第5号及び第6号に規定する者は受験等の学習のための利用はできない。

- (1) 岡山県立大学(以下「本学」という。)の教職員(以下「教職員」という。)
- (2) 本学の学生(以下「学生」という。)
- (3) 本学、岡山県立短期大学及び岡山県公衆衛生看護学校の卒業生(以下「卒業生」という。)
- (4) 本学、岡山県立短期大学及び岡山県公衆衛生看護学校の退職教職員(以下「退職教職員」という。)
- (5) 岡山県内に居住し、又は通勤若しくは通学する者(以下「県内居住者等」という。)
- (6) 附属図書館長(以下「館長」という。)の許可を受けた者

(開館時間)

第9条 開館時間は、次のとおりとする。

区分	休業期間以外の期間	休業期間
平日	9:00~21:30	9:00~17:00
土曜日	9:00~17:00	—

2 前条第2項に規定する臨時開館日における開館時間は、館長がその都度定める。

3 第1項の規定にかかわらず、館長が必要と認めるときは、臨時に開館時間を変更することができる。

(出典：岡山県立大学附属図書館利用規程)

URL: <http://www.oka-pu.ac.jp/kiteidata/act/frame/frame110000103.htm>

資料 7-1-③-3 岡山県立大学附属図書館の平成28年度計画

(イ) 附属図書館では、次の取組を行う。

- ・ 28年度から学外利用者の年齢制限を廃止したことから、周知をはかる。
- ・ 授業の一環として図書館ガイダンスを行い、学生の図書館利用向上に取り組む。
- ・ 図書館ホームページの内容を充実させ、学内外や留学生をはじめとした外国人利用者にも利用できるサイトにする。
- ・ 視聴覚資料を利用頻度の観点から見直し、ニーズに基づき最適化を図る。
- ・ ラウンジ内のラーニングコモンズスペースに設けた電子黒板の利用を学生に周知し、活用の促進を図る。
- ・ データベース・電子ジャーナルの利用促進を目的として、利用者やスタッフを対象に講習会を開催する。

(出典：公立大学法人岡山県立大学平成28年度計画 p. 8)

URL: http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/04/2016years_plan.pdf

資料 7-1-③-4 附属図書館内配置図



(出典：岡山県立大学附属図書館・図書班提供資料)

資料 7-1-③-5 附属図書館における電子ジャーナルダウンロード数

名 称	ダウンロード数
ScienceDirect (908タイトル)	5,286
Infotrac (153タイトル)	74
メディカルオンライン (1,136タイトル)	7,821
タイトル単位購読誌 (18タイトル)	2,092
合 計	15,273

(出典：岡山県立大学附属図書館・図書班提供資料)

資料 7-1-③-6 OPAC等検索及びマイライブラリ

○ OPAC等蔵書検索画面



○ マイライブラリ

(出典：岡山県立大学附属図書館ホームページ URL：<http://www.lib.oka-pu.ac.jp>)

資料 7-1-③-7 「大学で学ぶ」講義シラバス (抜粋) 及び図書館ガイダンス実施状況

○ 「大学で学ぶ」講義シラバス (抜粋)

授業科目名 (和文)	大学で学ぶ 〈フレッシュマン特別講義〉
対象学生	1年次生 (全学部)
授業計画とスケジュール	2. 図書館の活用方法 (山下広美教授 附属図書館長・田中智子 事務局図書班主事)
成績評価方法と基準	・出席状況および授業態度 30% (含む「図書館ガイダンス」への参加 *備考欄参照)
備考	スケジュール2.の「図書館の活用方法」については、講義の復習として、別途日程が案内される「図書館ガイダンス」に参加することが求められています。成績に加味されるため注意のこと (人間情報工学科生については予習)。

○図書館ガイダンス実施状況（平成27年度）

●新入生ガイダンス

実施日	参加人数	内 容	対 象
4月～6月	44	大学で学ぶ	看護
	44		栄養
	61		保健福祉
	67		通信
	50		システム
	42		人間情報
	45		デザイン工学
	50		造形デザイン
6月5日	19	図書館ガイダンス	認定看護
合計	422		

●文献の探し方

実施日	参加人数	内 容	対 象
4月10日	1	文献の探し方 (ScienceDirect)	看護学専攻
5月19日	43	文献の探し方 (PubMed・CiNii・医中誌)	フレッシュマンセミナー（館長）
10月6日	10	文献の探し方 (PubMed・ScienceDirect)	看護学科
2月8日	5	文献の探し方 (医中誌・CiNii)	栄養学科（個人申込）
合計	59		

●その他

実施日	参加人数	内 容	対 象
7月28日	12	ガイダンス	南昌大学の学生11名及び引率教員1名
10月8日	10	ガイダンス	総社東小学校生活科授業「大学の施設見学」
10月22日	40	ガイダンス	倉敷工業高校ファッション技術科1年生
1月27日	12	OPAC 検索	看護学科入学前ガイダンス
合計	74		

（出典：岡山県立大学附属図書館・図書班提供資料）

資料7-1-③-8 附属図書館ラーニング・コモンズ（エントランスホール）、グループ閲覧室

ラーニング・コモンズ（エントランスホール）



○印は電子黒板（貸出可能）

グループ閲覧室



10名まで利用可能、PC・ 프로젝タを配備、貸出可能

（出典：岡山県立大学附属図書館・図書班提供資料）

資料7-1-③-9 利用者ニーズを踏まえた図書館運営の工夫

○教養書選書（アドバイザー教員）

大分類	H24	H25	H26	H27
総記				
哲学	1名		1名	
歴史		1名	1名	
社会科学	3名		1名	
自然科学	2名			2名
技術・工学		1名		2名
産業		2名		
芸術・美術	1名			1名
言語	2名	4名	1名	
文学	1名	4名	1名	

○選書ツアー2015

学 部	参加人数	購入冊数
保健福祉学部生・大学院生	6	57
情報工学部・大学院生	7	81
デザイン学部・大学院生	2	14
合計	15	152

（出典：岡山県立大学附属図書館・図書班提供資料）

別添資料 7-1-③-I 附属図書館の整備及び利用状況

【分析結果とその根拠理由】

附属図書館は、系統的かつ計画的に教育研究上必要な様々な図書資料等を整備し、所蔵している。また蔵書の充実においては、学生からの希望図書も受け付けている。学生等のニーズを把握し、夜間開館の実施、蔵書の検索や図書の貸出予約をウェブ上でも行うことができるなど、利便性の向上を図るとともに、新入生ガイダンス等の機会を通じて利用者を対象とした利用方法等の研修を行い、利用者の利便性、利用拡大に努めている。

以上のことから、図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されていると判断する。

観点 7-1-④： 自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

【観点に係る状況】

附属図書館においては観点 7-1-③で述べたとおり、閲覧座席等の自主的学習環境を整備しているほか、PC 端末利用による自主学習が可能であり、活用されている。グループワークによる自主学習を促すため、ラーニング・コモンズやグループ閲覧室を設置し、申込により活用できるようにしている（前掲資料 7-1-③-8）。

各学部等では、PCを備えた演習室や情報端末を接続できる共用スペース等を設置するとともに、実験・実習室を学生の授業前後の学習活動に活用できるようにしている（資料 7-1-④-1、別添資料 7-1-④-I）。時間外の施設利用については施設使用届に許可を得た上でこれを提出することにより使用を可能としている（別添資料 7-1-④-II）。

また、平成27年度に実施した学生アンケートから自主学習のための施設の拡充に関する要望がみられたため（資料 7-1-④-2）、平成28年度に学生会館3階に新たなラーニング・コモンズを整備することとした（資料 7-1-④-3）。

デザイン学部アトリエ棟では、工作機械など、安全性と技術的な習熟を要するものについて、ガイドブックを作成、配布するとともに、自主的学習にあたり、取扱に関する動画をウェブ上で閲覧できる工夫を、ガイドブックに採り入れており（別添資料 7-1-④-III）、活用されている。

資料 7-1-④-1 各学部における自主学習のための施設開放状況

学部	自主学習のための施設開放状況（学部／研究科別）
全体	・施設・物品使用願の提出及び受理により、夜間や休日の時間外における自主学習ができるようにしている。
保健福祉学部	<p>【看護学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オープンスペースとして3階にPC10台、6405教室に4台設置し、臨地実習のまとめ及び授業の課題作成に活用している。また、国家試験対策として看護師・保健師国家試験問題WEBを医学書院と契約し、いつでもログインして学習できるように試験対策としての環境を整えている。 <p>【栄養学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 臨地実習の報告会の準備のために、教材や各種用具を配備し、実習先のグループに分かれて打ち合わせや発表資料の作成ができるようにしている。 ・ 管理栄養士国家試験対策のために、学生が自主活動しやすい環境を整備している。 <p>【保健福祉学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の拠点となる演習室を整備・開放し、授業、臨地実習、研究、国家試験等の自主学習に共同利用できるようにしている。 <p>5112演習室：主に社会福祉学専攻介護福祉コースの学生が使用（PC 8台、PR 2台、図書等資料） 5211子ども臨床実習室/5212子ども臨床観察室：主に子ども学専攻の学生が使用（PC 8台、PR 2台、図書等資料） 保健福祉学部棟5階エレベーターホール：主に社会福祉学専攻の学生が使用（PC 8台、PR 2台） 6613実習指導室：主に社会福祉学専攻の学生が使用（図書等資料）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集中的にPCを設置した演習室を整備・開放し、講義・演習、研究等の自主学習に共同利用できるようにしている。 <p>6624統計情報演習室：保健福祉学科および保健福祉学専攻（大学院）の学生が使用（PC 24台、PR 5台）</p>
情報工学部	<p>【情報通信工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2208計算機演習室（クライアントPC 80台）を授業時間以外は開放し、プログラム作成、レポート作成等の自主学習に利用できるようにしている。 <p>【情報システム工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2207計算機演習室（クライアントPC 80台）を授業時間以外は開放し、プログラム作成、レポート作成等の自主学

	<p>習に利用できるようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2314・2315実験室を授業時間以外は開放し、自律移動ロボット製作等の自主学習に利用できるようにしている。 <p>【人間情報工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5207計算機演習室（クライアントPC 66台）を授業時間以外は開放し、プログラム作成、レポート作成等の自主学習に利用できるようにしている。 ・ 2906人間情報工学科第一演習室を授業時間以外は開放し、電気電子回路製作等の自主学習に利用できるようにしている。
デザイン学部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の拠点となるホームルームを設置あるいは指定し、研究や打合せができるようにしている。 ・ 設備機器を備えた実習室を開放し、学生の技能や作業の安全性を確認、確保した上で、学部・研究科の学生が専門分野の実技を伴う自主学習において共同利用できるようにしている。なかでもアトリエ棟においては、各種設備機器の安全かつ適切な使用に備えて全在學生にガイドブックを配布するほか、機器使用に関する動画をYou Tubeで確認できるようにしている（別添資料7-1-④-II アトリエ棟ガイドブック.pdf）。

(出典：各学部提供資料)

資料7-1-④-2 平成27年度学生アンケート結果Part.2 学修全般 (学部生1,434名分：抜粋)

設問21. 自習環境で改善して欲しい点は？(最もそう思うものを1つ選択)
①施設自体の拡充(新たな施設など) 20.6% ②施設利用可能時間帯の工夫 34.1% ③設備・機器の充実 20.9%
④チューターなど人的支援 3.1% ⑤今のままで良い 21.3%

(出典：教育年報2015 付録1 p.194)

URL: http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/05/05_kyoikunempo2015-hurokukouki.pdf

資料7-1-④-3 平成28年度計画及び計画図面

<p>2 学生への支援に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>(1)学習支援、生活支援に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生会館内にラーニングコモンズ(28年度新設)を設け、学生の主体的活動を支援するとともに、自主学習や「おかやまボランティア演習」等でのグループワークに活用する。
<p>公立大学法人岡山県立大学平成28年度計画</p> <p>URL: http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/04/2016years_plan.pdf</p>
<p>○ ラーニング・コモンズ新設計画(利用目的)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアステーション学生スタッフがボランティア活動や研修会を企画するために利用する。 ・ 本学学生が学生相互の学習活動のために利用する。 ・ 本学学生がグループワークのために利用する。 ・ 本学学生および教職員がセミナー、研修会、アクティブラーニング等の講義に利用する。 ・ 本学学生および教職員がWEBセミナー、WEB研修会、WEB会議システムを使用する際に利用する。(設備機器の概要*下図参照) ・ 学生支援室カウンター ・ 机、椅子、可動式のPC/プロジェクタ及びスクリーン <p>○ ラーニング・コモンズ新設(学生会館3F多目的室：予定図面)</p>


(出典：公立大学法人岡山県立大学平成28年度計画及び学生支援室提供資料)

- 別添資料7-1-④-I 各学部棟の教室配置図
- 別添資料7-1-④-II 施設・物品使用願様式
- 別添資料7-1-④-III 施設自主学習利用の学生支援「アトリエ棟ガイドブック.pdf」(抜粋)

【分析結果とその根拠理由】

自主学習環境の整備として、各学部における共用スペースの設置、講義室・演習室等の空き時間開放や届出による時間外利用、附属図書館における閲覧室及びラーニング・コモنزの活用など、自主的学習環境の充実に努めている。また、平成28年度にはラーニング・コモنزの整備を予定している。デザイン学部では、アトリエ棟における工作機械等の安全な活用に供するため、動画をウェブ上で閲覧できる工夫を行い、活用されている。

以上のことから、自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されていると判断する。

観点 7-2-①： 授業科目、専門、専攻の選択の際のガイダンスが適切に実施されているか。

【観点到る状況】

学士課程においては、新入生に対して、入学式直後に学生相談室・学生支援室等の活用方法等について全体のガイダンスを行うとともに人権教育を踏まえた講演等により啓発活動を実施し、全学及び学部ごとに、カリキュラム、履修登録等に関してガイダンスを実施している（資料7-2-①-1）。共通教育科目については、教務担当教員及び教学課職員が学部ごとに分かれ、履修案内、授業時間割表等をもとに教育目的、GPA制度の説明、共通教育科目の説明及び履修方法、システムによる履修登録方法等についてガイダンスを実施している（前掲別添資料5-2-②-II）。また、平成28年度入学生に対しては、新設された副専攻「岡山創生学」について、平成28年度履修案内及びパンフレットを通じて大学教育開発センター教員が説明した（前掲資料5-1-③-3、別添資料7-2-①-I）。学部教育科目については、共通教育科目のガイダンスとは別に、学部及び学科ごとに、履修案内、授業時間割表等をもとに教務担当教員を中心に履修登録上の注意等のガイダンスを実施している。学部及び学科における学生生活のガイダンスについては、学部教育科目のガイダンス時に学生生活支援担当教員がこれを実施している。さらに、1年次前々期開講の共通教育科目「大学で学ぶ」において、学長、附属図書館長、共通教育部長や教養科目・語学及び情報系科目担当教員ならびに学外有識者による、集中的な導入教育を新入生全員に実施し大学生活を始めるにあたっての心構えについてガイダンスしている（資料7-2-①-2）。

2年次以上の学生については、教学課より配付された履修状況確認表（成績通知表）、学年ごとの授業時間割表及び履修案内等に基づいて各学科・専攻ごとに4月当初に実施している。また同様に各学科・専攻ごとに、後期開始時にも履修指導を兼ねてガイダンスを実施している。なお、保健福祉学部の教育職員免許状取得を志す学生に対しては、課程の科目履修等に関するガイダンスを実施している。

大学院課程においては、新入生に対して入学式直後の学生生活に関する全体ガイダンスのほか、研究科及び専攻での履修登録説明や研究倫理教育等のガイダンスを実施しており、在学生に対しても授業科目選択等のためのガイダンスを実施している（資料7-2-①-3）。

資料 7-2-①-1 平成28年度全学新入生オリエンテーション行事表（抜粋）

◆ 1日目：平成28年4月5日（火）※携行品：筆記用具 （全学部）			
時刻	行事	対象学部・学科	会場
10:00～11:00	入学式	全学部・学科	体育館
11:10～12:10	学生生活の説明（図書館利用を含む）	全学部・学科	体育館
12:10～13:30	休憩・昼食		各自
13:30～15:45	講演（仮題）： ①人権尊重社会の実現を目指して ②防犯対策と交通安全について ③ハラスメントについて *学友会からのお知らせ	全学部・学科	講堂
◆ 2日目：平成28年4月6日（水）※携行品：学生便覧、筆記用具、保健調査票、心臓検診票など ～午前～（全学部）			
時刻	行事	対象学部・学科	会場
8:40～11:15	講演（仮題）： ①学生生活で気をつけること ②消費者被害に遭わないために ③総社市での大学生活	全学部・学科	講堂
11:15～	休憩・昼食		各自

◆ ～午後～ (午後の日程は、学部ごとに分かれて実施します)
(保健福祉学部)

時刻	行事	対象学部・学科	会場
12:00～14:00	共通教育及び履修登録手続きの説明	保健福祉学部全学科	学部共通棟(南)8206室
14:00～15:30	健康診断	保健福祉学部全学科	体育館

(情報工学部)

時刻	行事	対象学部・学科	会場
12:30～14:30	健康診断	情報工学部全学科	体育館
14:30～16:30	共通教育及び履修登録手続きの説明	情報工学部全学科	学部共通棟(北)8202室

(デザイン学部)

時刻	行事	対象学部・学科	会場
12:30～14:20	共通教育及び履修登録手続きの説明	デザイン学部全学科	学部共通棟(北)8201室
14:30～15:30	健康診断	デザイン学部全学科	体育館

※2日目午後の“共通教育及び履修登録手続きの説明”は、各学科の教務専門委員会委員及び事務局教務班が説明を行います。

◆3日目：平成28年4月7日(木) ※携行品：履修案内、学生便覧、筆記用具など
(3日目の日程は、学部ごと、または学科ごとに分かれて実施します)

(保健福祉学部) 集合場所：8206室 ※栄養学科(編入生を除く)、及び保健福祉学科は14:00で終了

時刻	行事	対象学部・学科	会場
10:00～11:50	学部別オリエンテーション	保健福祉学部全学科	学部共通棟(南)8206室
	学科別オリエンテーション ※学部別オリエンテーション終了後実施	看護学科	保健福祉学部棟6310室
		栄養学科	〃 6117室
		保健福祉学科	学部共通棟(東)8901室
11:50～12:50	休憩・昼食		
12:50～14:00	学科別オリエンテーション	看護学科	保健福祉学部棟6310室
		栄養学科	〃 6117室
		保健福祉学科	学部共通棟(東)8901室
		社会福祉学専攻 子ども学専攻	学部共通棟(西)5108室
14:00～14:30	休憩		
14:30～16:00	抗体検査 (B型肝炎抗原抗体検査、及び麻疹・風疹・流行性 耳下腺炎・水痘の抗体検査)	看護学科及び、 栄養学科の編入生	保健福祉学部棟 6101・6102室

(情報工学部) 集合場所：8202室

時刻	行事	対象学部・学科	会場
10:00～12:00	学部別オリエンテーション	情報工学部全学科	学部共通棟(北)8202室
	学科別オリエンテーション ※学部別オリエンテーション終了後実施	情報通信工学科	学部共通棟(北)8103室
		情報システム工学科	〃 8104室
		人間情報工学科	〃 8105室
12:00～13:00	休憩・昼食		
13:00～14:00	学科別オリエンテーション	情報通信工学科	情報工学部棟2208室
		情報システム工学科	〃 2207室
		人間情報工学科	学部共通棟(西)5207室

(デザイン学部) 集合場所：8201室

時刻	行事	対象学部・学科	会場
10:00～12:00	学部別オリエンテーション	デザイン学部全学科	学部共通棟(北)8201室
	学科別オリエンテーション ※学部別オリエンテーション終了後実施	デザイン工学科	デザイン学部棟3503室
		造形デザイン学科	〃 3312室
12:00～13:00	休憩・昼食		
13:00～14:30	学科別オリエンテーション	デザイン工学科	デザイン学部棟3503室
		造形デザイン学科	〃 3312室

(出典：学生支援班提供、学生配布資料)

資料7-2-①-2 「大学で学ぶ」平成28年度シラバス(抜粋)

授業概略と目標

「大学で学ぶ」は全学部の新入生に対して、学長を初めとする本学内外の経験豊かな講師が「生きた素材」をもとに学問に出会い今日に至るまでの道のりや、大学で学習するうえで身につける必要のあるスキルの重要性などを、具体的に語る授業である。大学や地域社会で学ぶことや教養を身につけることの意義に始まり、学術情報の収集技法、情報リテラシー及び語学との関わり方など、新入生がこれから学びを通じてキャリアを築いていく上で必要な具体的なテーマについて盛り込む。

到達目標

- ・大学生として本学や地域社会で学ぶことの意義や将来展望の重要性について理解できる。
- ・学術情報の収集や情報リテラシー、語学など具体的なマナーやスキルを身につけるための心構えができる。
- ・学者や自治体首長などの、研究や仕事を通じた人生経験について、これを参考とすることができる。
- ・大学時代に身につけるべきジェネリックスキルの重要性について理解できる。

授業計画とスケジュール

1. 本学における教育目標について (辻 英明 学長)

- ・人間・自然・社会の関係性の追求により実学を創造する、本学の教育研究目標に沿って、「教養・グローバル・地域連携」に重点をおく、学長の考え方を理解し、これからの学修のあり方を考える。

2. 図書館の活用方法 (山下広美教授 附属図書館長・田中智子 事務局図書班主事)

- ・大学における附属図書館の意義や機能および活用方法について理解し、今後の学修に図書館をどう役立てるのかについて考える。

3. 全学講義「これからの企業・社会が求める人材像と大学への期待(仮)」(天羽 稔氏 (公社)経済同友会教育改革委員会委員長)

- ・これからのキャリア形成は在学中からいかに実社会と関わり、社会に通用する資質や適性を磨くかが問われる。企業・社会の現状や日本の大学生がおかれている立ち位置、課題を理解し、今後の自身のキャリア形成について考える。

4. ネットと上手にかかわる (但馬康宏准教授、國島丈生准教授)

- ・現実社会とネット社会の違いについて理解し、自らを守りかつその利便性を上手に扱う姿勢や方法について理解する。

5. 人間力 (片岡聡一 氏 総社市長 *学外講師)

- ・実社会と向き合う原動力である人間力の育て方、姿勢のもち方について考える。

6. 今日からあなたの英語が変わる/健康で豊かな生活をおくるために (高橋幸子教授、南津佳広講師/高戸仁郎教授、綾部誠也准教授)

- ・英語によるコミュニケーション力をつけるための要点について学び、本学の英語教育への臨み方について理解する。
- ・大学における健康・スポーツの意義について理解し、今後、健康的な生活を送るためのスポーツ施設の活用法について考える。

7. 教養と専門をつなぐ/ジェネリックスキルを培う (末岡浩治教授/吉原直彦教授)

- ・本学の教養科目のうち自然科学を中心に専門とのつなぎ方について理解する。
- ・キャリア形成に必要な社会人基礎力について学ぶとともに、最終週で実施するジェネリックスキル診断テストについてその意義を理解する。

8. ジェネリックスキル診断テスト PROG 実施 (吉原直彦教授 *代表教員)

- ・社会人基礎力に関するテストを受験する。

(出典：電子シラバス検索サイト

URL: <http://pubinfo.oka-pu.ac.jp/searchApp/viewSyllabus.php?id=100000>)

資料 7-2-①-3 平成28年度大学院オリエンテーション行事 (抜粋)

◆ 1日目：平成28年4月5日(火) ※携行品：筆記用具等

10:00~11:00	入学式	全研究科・専攻	体育館
11:10~12:10	学生生活の説明(図書館利用を含む)	全研究科・専攻	体育館
12:10~13:00	休憩・昼食	全研究科・専攻	各自
13:00~14:00	オリエンテーション ※各研究科・専攻	保健福祉学研究科	学部共通棟(北) 8103室
		情報系工学研究科(博士前期課程) (博士後期課程)	学部共通棟(北) 8104室 学部共通棟(北) 8105室
		デザイン学研究科	学部共通棟(北) 8102室
14:30~15:00	研究倫理教育※学術研究推進センター	全研究科・専攻	学部共通棟(北) 8202室
15:00~15:30	履修登録手続きの説明※事務局教学課教務班	全研究科・専攻	学部共通棟(北) 8202室

◆ 2日目：平成28年4月6日(水) ※携行品：保健調査票、心臓検診票、筆記用具

8:40~11:15	講演(仮題)： ①学生生活で気をつけること ②消費者被害に遭わないために _ ③総社市での大学生活	全研究科・専攻	講堂
11:15~13:00	休憩・昼食	全研究科・専攻	各自
13:00~15:00	健康診断	全研究科・専攻	体育館

(出典：学生支援班提供、学生配布資料)

別添資料 7-2-①-I 「岡山創生学」案内パンフレット

【分析結果とその根拠理由】

全学及び学部・研究科等において、新入生、2年次生以上の在學生に履修登録方法、履修方法、実験・実習などの授業内容の説明と留意点、履修指導等のガイダンスを実施している。

以上のことから、授業科目、専門、専攻の選択の際のガイダンスが適切に実施されていると判断する。

観点 7-2-②： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており、学習相談、助言、支援が適切に行われているか。

また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり、必要に応じて学習支援が行われているか。

【観点到る状況】

学習支援に関しては、大学教育開発センター学生支援部会で実施している学生アンケート（前掲別添資料 5-2-②-Ⅲ、前掲別添資料 5-5-②-I、別添資料 7-2-②-I）、キャンパス・マネージャーからの意見聴取（後掲資料 7-2-⑤-1）等により学生からの意見を聴取するとともに、各学部においては、アドバイザー制度の活用（資料 7-2-②-1）、オフィスアワー制度の活用（資料 7-2-②-2）などを実施し、学生から修学をはじめとした大学生活における様々なニーズを把握している。また、授業担当教員をはじめ、学生相談室、保健室、学生支援室、学生支援班職員による日々の対応を通して学生のニーズの把握に努めている。学生相談室、保健室、学生支援室、学生支援班からは大学教育開発センター学生支援部会メンバーを選出しており、学生部長との連携を密にしているほか、学生相談室及び保健室では学生部長が室長を務め、定期的に会議を開催し、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生等について、事例報告及び対応策の協議を実施している（資料 7-2-②-3）。

学生のメンタル面を支援する学生相談室では、保健室と連携し、毎年度初めに実施する定期健康診断において、参加学生全員にUPI（University Personality Inventory）「こころの健康調査」を行い、メンタル面の問題を抱える可能性がある学生について情報収集するとともに「こころの健康管理システム」に基づいてカウンセリングや学科長・学科教員等との学内連携を通じた学習支援に努めており、学生相談室を軸とする取組は大学ホームページ等に掲載するなど学生に周知している（資料 7-2-②-4～6）。

学習支援においては、学習意欲の低下している学生を早期に把握するため、学部・学科ごとに定期的に学生の授業出席状況を調べ、出席状況が芳しくない学生にクラス・アドバイザー、学科学生支援担当教員、ゼミ教員等より電話、メール等で連絡し、直接面談を行い、欠席理由など事情を確認している。これにより、学生が抱える問題やニーズなどを相談により把握している（資料 7-2-②-7）。

このほか、社会人の多い大学院課程（資料 7-2-②-13）においては、研究指導教員等による学習相談、研究計画等の指導・助言など学習支援を行っている。

留学生については毎年度の入学生は少数であるが（資料 7-2-②-8）、その支援については国際交流センターにおいて、学習支援、学生相談に適切に対応すべく、センターに所属する語学教員（英語・韓国語）やネイティブ教員（英語・中国語・スペイン語）及び国際交流推進職員（中国語）の協力を得て、日本語支援等を中心にあたっている（資料 7-2-②-9）。

障がいのある学生への支援は、入学者選抜要項にある「障害等のある入学志願者の事前相談」により申し出た志願者に対しては（URL：<http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2015/06/20150619141228.pdf> p.16）、出願前に受験上及び修学上の配慮事項について相談することとしている。これまで本学では重度の身体障がい者の入学はなかったが、障害者差別解消法の施行（平成28年4月1日）に備え、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する公立大学法人岡山県立大学教職員対応要領」（別添資料 7-2-②-II）及び「障害を理由とする差別の解消の推進に関する公立大学法人岡山県立大学教職員対応要領に基づく手続マニュアル」（別添資料 7-2-②-III）を策定し、具体的な合理的配慮に関する体制を整備した（資料 7-2-②-10）。また平成28年度入学生において該当する学生が受験時において判明しており、整備した体制に基づき、入試前の事前面談、入試時の試験室等の利便性の配慮を行い、入学手続後に本人及び保護者同席のもと面談を実施し、修学上の配慮事項の検討を実施し、合理的配慮の対応措置を継続している（別添資料 7-2-②-IV）。平成28年度以降は、従来実施の全学生を対象とした健康診断時における身体的・精神的に障がいのある学生の把握及び支援に加えて、修学上、学生

生活上で合理的配慮への対応が必要な場合を想定し、保健室、学生相談室、学生支援室、学科、事務局学生支援班等に加えて学生ボランティア等が連携して、全学的にきめ細やかな対応を図る計画である(資料7-2-②-10~11)。修学環境におけるバリアフリー化に関しては、前掲資料7-1-①-7、前掲別添資料7-1-①-Iのとおり、実施している。さらに、支援を希望する学生のため、大学ホームページで、支援申請書等の掲出と案内(URL: http://www.oka-pu.ac.jp/index.php?page_id=44841)を実施している。

社会人学生については、大学院生について、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することができる長期履修制度を設けている(前掲資料5-4-③-3、資料7-2-②-12)。社会人学生数及び長期履修制度適用の学生数は資料7-2-②-13のとおりであり、研究指導教員を中心に学習支援を実施している。

資料7-2-②-1 クラス・アドバイザー配置及び担当業務・ニーズ把握状況

学部・学科	員数及びクラス数	担当業務・ニーズ把握状況	
保健福祉学部	看護学科	・1学年から4学年まで各学年数名ずつにて7グループに分け、全教員を7グループのいづれかに配置	・履修方法、学習相談、進学・就職先等の相談など
	栄養学科	・1学年につき14クラスで、1クラス3~4名	・履修方法、海外語学研修旅行、進学、就職、管理栄養士としての職種、クラブ、サークル活動など
	保健福祉学科	・学年あたり学年担当・アドバイザー教員が5~6名(教員1名あたり10~11名の学生のアドバイザーとなる)	・授業内容、試験日程に関すること(わかりやすい授業、負担でない日程など) ・時間割に関すること(履修しやすい時間割の調整など) ・学食・購買に関すること(メニューの改善、コンビニがほしいなど) ・大学設備に関すること(学内外の夜の照明、トイレの洋式化など)
情報工学部	情報通信工学科	・新入生を8グループに分け、全教員を8グループのいずれかに配置。入学時に決定したアドバイザー教員は、研究室配属まで継続。研究室配属後は指導教員がアドバイザーを担当	・進学相談(本学大学院、他大学大学院進学) ・就職相談 ・演習室の休日利用 ・研究室配属
	情報システム工学科	・新入生を4グループに分け、全教員を4グループのいずれかに配置。入学時に決定したアドバイザー教員は、研究室配属まで継続。研究室配属後は指導教員がアドバイザーを担当	・就職に関すること(希望先の決定方法、取得資格、公務員試験等) ・大学院進学に関すること(大学院生活、他大学院進学、修了後の進路) ・授業科目の履修に関すること ・研究室配属に関すること(研究内容等)
	人間情報工学科	・学年を単位として担当講座を決め、5~6名のアドバイザー教員が研究室配属まで継続(教員1名あたり8~9名の学生のアドバイザーとなる。研究室配属後は指導教員がアドバイザーを担当。過年度生については、学科長と教務専門委員が担当)	・履修方法、学習相談 ・進学・就職先等の相談 ・課外活動に関する相談
デザイン学部	デザイン工学科	・各学年2名の教員をクラス担任とする。(H27より2年次生以上は1名とし、専門領域教員によりフォローの体制)	・進路や学業、生活、トラブルなど学生個別の相談窓口、新入生学外オリエンテーション参加、在学生向けオリエンテーション参加ほか。
	造形デザイン学科	・各学年2名の教員をクラス担任とする。(H27より2年次生以上は1名とし、専門領域教員によりフォローの体制)	・新入生学外オリエンテーション引率・指導、単位修得状況のチェック、問題のある学生の把握、領域紹介プログラムの開催、領域希望調査及び今後の学習に関する質問受付、単位修得状況不良の学生との面談ほか

(出典：各学部提供資料)

資料 7-2-②-2 オフィスアワー制度の実績及び主な相談内容

学部	学科	担当 教員数	来談 学生数	相談 日数	主な相談内容
保健福祉学部	看護学科	37	277	196	・単位取得に関する相談 ・健康に関する相談 ・進路変更等進路に関する相談
	栄養学科	39	246	194	・ 臨地実習事前保健に関する相談 ・ 授業の単位取得に関する相談 ・ 卒業研究の配属に関する相談
	保健福祉学科	55	552	433	・授業選択、コース選択に関する相談 ・実習の準備や配慮に関する相談 ・国家試験、試験対策に関する相談 ・進路選択、就職・進学試験に関する相談
情報工学部	情報通信工学科	42	318	232	・授業内容の具体的な質問 ・履修方法の質問 ・休学・退学相談 ・進路相談 ・大学設備・機器の使用法に関する相談 ・PCの利用方法に関する相談
	情報システム 工学科	36	232	173	・授業内容についての質問 ・演習問題の解法についての相談 ・演習科目に関する質問 (計算機演習室の構造解析ソフトの操作法等) ・サークル活動に対する相談 ・大学院入試、大学編入、転学部、転学科、退学、休学、復学の相談
	人間情報工学科	24	167	119	・授業の内容、試験日程等に関する質問 ・自宅学習等に関する相談 ・クラブ、サークル活動、進路、卒業研究の配属等に関する相談
デザイン学部	デザイン工学科	34	377	275	・ Walk to Talk! におけるキャリア開拓に関する相談 ・ 1年次末における2年次領域選択に関する相談 ・ 卒業研究及び進路に関する相談
	造形デザイン 学科	42	486	394	

(出典：各学部提供資料)

資料 7-2-②-3 学生相談室の業務及び構成員、及び保健室の業務及び構成員

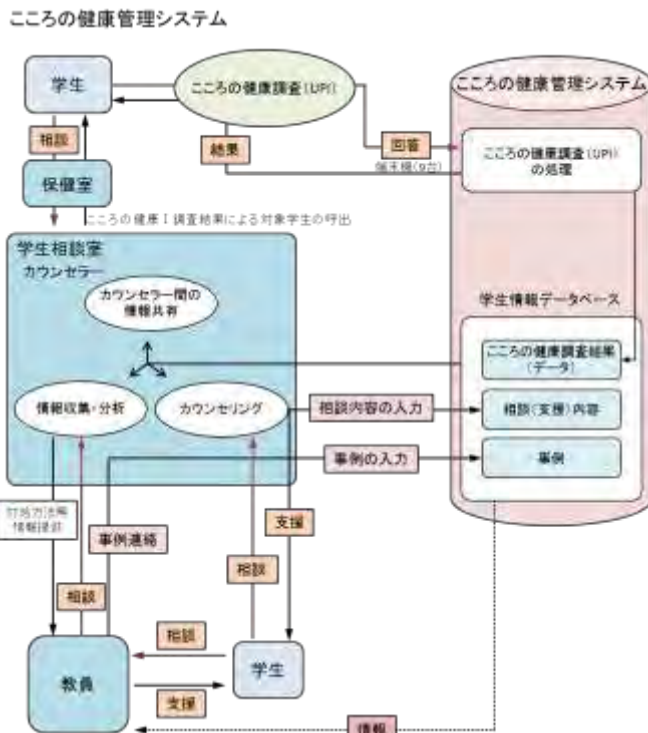
<p>○学生相談室 (業務)</p> <p>第2条 相談室においては、次に掲げる業務を行う。</p> <p>(1) 学生の個人的問題(心の健康問題等)に関する相談・援助</p> <p>(2) 学生の問題に関する教職員のコンサルテーション</p> <p>(3) 学生の問題に関して必要な場合における保護者との連絡・面接</p> <p>(4) 相談業務を行う上で必要な調査・研究、資料収集等</p> <p>(5) その他学生の相談に関し必要な業務</p> <p>2 業務を行う上で具体的な事項については、別に定める「学生相談室運営内規」による。</p> <p>(組織)</p> <p>第3条 相談室は、次に掲げる者(以下「相談室スタッフ」という。)をもって組織する。</p> <p>(1) 相談室長 1名</p> <p>(2) 相談室主任 1名</p> <p>(3) 学内カウンセラー 若干名</p> <p>(4) 嘱託カウンセラー 若干名</p> <p>(5) その他相談室長が必要と認めた者 若干名</p> <p>(相談室長等)</p> <p>第4条 相談室長は、学生部長をもって充て、相談室の運営に関する事項を掌理する。</p> <p>2 相談室主任は、臨床心理学・精神医学等を専門とする本学教員のうちから、学長が任命する。</p> <p>(カウンセラー)</p> <p>第5条 学内カウンセラーは、本学教員であって、各学部長の推薦を受けた者のうちから、学長が任命する。</p> <p>2 嘱託カウンセラーは、学長が委嘱する。</p> <p>○保健室 (業務)</p> <p>第2条 保健室は、次の各号に掲げる業務を行う。</p> <p>(1) 学生の健康診断、健康相談、保健指導及び救命措置に関すること。</p> <p>(2) その他学生の保健に関すること。</p>

(組織)
 第3条 保健室は、次に掲げる者（以下、「保健室員」という。）をもって組織する。
 (1) 保健室長
 (2) 保健室主任
 (3) 学校医
 (4) その他保健室長が必要と認めた者
 2 保健室長は、学生部長をもって充て、保健室の運営に関する事項を掌理する。
 3 保健室主任は、医師法（昭和23年法律第201号）第2条に規定する医師の免許を有する本学教員のうちから、学長が任命する。
 4 学校医は、学長が委嘱する。

(出典：学生相談室規程 URL: <http://www.oka-pu.ac.jp/kiteidata/act/frame/frame110000101.htm>

保健室規程 URL: <http://www.oka-pu.ac.jp/kiteidata/act/frame/frame110000179.htm>)

資料7-2-②-4 こころの健康管理システム



(出典：岡山県立大学「教育年報2015」第2部 p. 137

URL: http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/05/03_kyoikunempo2015-2bu.pdf)

資料7-2-②-5 学生相談室の体制及び取組

[平成27年度 開室時間と運営スタッフ]

学生相談室長	曜日	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜				
本学 学生部長	時間	16:30 ~ 18:30	10:00 ~ 14:00	16:00 ~ 18:00*	9:30 ~ 13:30	13:30 ~ 18:30	9:00 ~ 12:00	12:00 ~ 16:00	17:30 ~ 19:00	
学校医 (精神科)	スタッフ	保健福祉学部准教授	学外カウンセラー①	情報工学部教授	学外カウンセラー②	学外カウンセラー③	学外カウンセラー③	学外カウンセラー①	保健福祉学部教授	
学外 精神科医	備考	*は第1週, 第2週のみ								

[平成27年度 学生相談室の取組]

前期	4月	入学オリエンテーション (ほっとルームパンフレット配布及び掲示) こころの健康調査 (UPI) (ほっとルームカード配布) ちらっとほっとルームキャンペーン	6月	学生相談室会議・ケース・カンファレンス
後期	11月	学生相談室会議・ケース・カンファレンス	2月	学生相談室会議・ケース・カンファレンス

(出典：岡山県立大学「教育年報2015」第2部 p. 135~137)

資料7-2-②-6 学生相談室ホームページ

http://www.oka-pu.ac.jp/index.php?page_id=1390

(出典：大学ホームページ)

資料 7-2-②-7 各学部における学習不振学生に対する相談体制

学部	相談体制
保健福祉学部	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学科では、学習不振学生に対して、主に教務専門委員及びアドバイザーから学生に指導があり、毎月学科会議で状況を共有する。 ・栄養学科では、学習不振学生に対して、学科長・教務担当教員・アドバイザー教員の3人体制で個人指導を行っている。 ・保健福祉学科では、欠席や成績不振が目立つ学生については科目担当教員がアドバイザー教員（3年前期まで）またはゼミ教員（3年後期以降）に連絡し、学年担当が協議して、調査や面談・指導などの必要な対処をとっている。毎月の学科会議で「学生動向について」を議題として必ずあげており、必要に応じ学科全体で問題を共有し対処している。
情報工学部	<ul style="list-style-type: none"> ・3学科共に、入学時にアドバイザーグループを決定し、4年次に「卒業研究」のための研究室配属が決定されるまで継続している。学生はアドバイザー教員に対して、学生生活上の相談を受けることができる。また、オフィスアワーあるいは授業の空き時間を利用して、全ての学科教員に自由に相談できるようにしている。 ・情報通信工学科では、各学生の成績は、学科教務専門委員が管理している。成績不振者に対しては、教務専門委員あるいはアドバイザー教員との面談等を通して、注意・指導を行っている。また、10年程前より、特異な行動が見られた学生の情報を、一定のフォーマットで学生相談室に報告している。学科長、教務専門委員、教育開発推進委員（学生支援）は、学生相談室のアドバイスの下、学生の行動に注意できる体制をとっている。 ・情報システム工学科では、各学生の成績は、学科教務専門委員が管理している。成績不振者に対しては、各学期のはじめに教務専門委員あるいはアドバイザー教員が面談し、成績不振の理由を聞き取りと共に履修指導を行っている。面談でメンタルな問題が懸念された学生には、学生相談室への相談を勧めている。 ・人間情報工学科では、大学生活や私生活に関する悩みについては、学科所属の学生相談担当教員に相談することを勧めているとともに、該当教員以外の教員にも気軽に相談できる体制をとるように教員にも周知している。重点科目については、毎月の定例学科会議で出席状況を報告することとしており、出席状況が不良の学生の情報を共有し、学科として見守る体制を整えている。また、欠席が目立つ学生については、教務専門委員が面談し、注意・指導を行っている。学生の成績は、学科長と教務専門委員が連携して管理し、成績不振者に対しては指導を行っている。また、所属教員の担当科目の学習状況についても、組織的に管理・支援を行っている。
デザイン学部	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン工学科では、各学生の成績は学科長と教務専門委員が管理し、成績不振者の状況を確認している。学習不振学生の出席状況や学生生活全般については、学科教務委員や担当教員を中心に聞き取り等を行い確認するようにしている。 ・造形デザイン学科では、各学生の成績は学科長と学科教務委員が管理し状況把握している。学習不振学生に対しては、学科長、学科教務委員、学生生活支援委員、クラス・アドバイザー教員が連携し面談等を通して指導を行っている。また4年次生に関しては、ゼミ担当教員において学生相談することとしている。

(出典：各学部提供資料)

資料 7-2-②-8 岡山県立大学における留学生受入の状況

年度	人数	学部・院	所属学部等別	国籍別人数
26	10 (2)	学部	保健福祉学部 3(1)	韓国 3
		5(2)	情報工学部 1	ベトナム 2(2)
			デザイン学部 1(1)	
	大学院	保健福祉学研究科 2	韓国 2	
	5	情報系工学研究科 1	中国 2	
		デザイン学研究科 2	ネパール 1	
27	10 (2)	学部	保健福祉学部 5(1)	韓国 4
		6(2)	情報工学部 1(1)	中国 2(2)
		大学院	保健福祉学研究科 1	韓国 2
	4	情報系工学研究科 1	中国 2	
		デザイン学研究科 2		

(出典：国際交流センター提供資料)

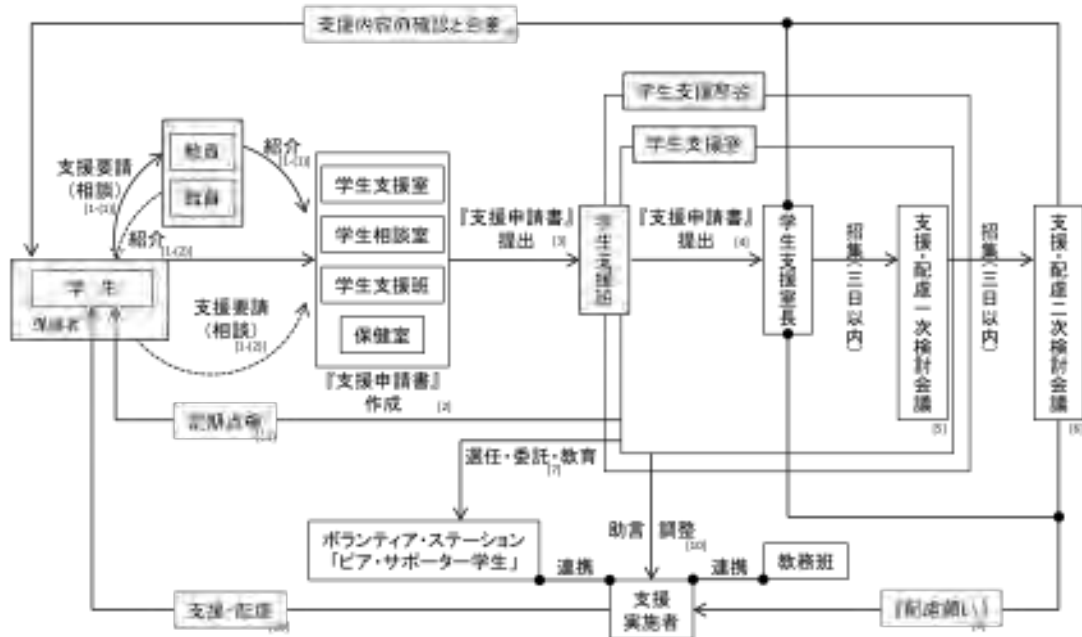
※ () 内は留学生のうち研究生の数

資料 7-2-②-9 国際交流センター職員、センター幹事教員等による支援体制

国際交流センターメンバー	員数 (語学担当等*外国語対応の状況)
センター長	1
副センター長	1 (中国語*ネイティブ)
幹事	9 (英語*語学担当1/韓国語*ネイティブ・語学担当1/スペイン語*ネイティブ1)
センター国際交流推進員	1 (中国語*ネイティブ)

(出典：企画広報室提供資料)

資料 7-2-②-10 合理的配慮に基づく障がい学生支援体制 (プロセス)



(出典：学生支援班提供資料、別添資料 7-2-②-III)

資料 7-2-②-11 障がい学生支援に関する計画 (抜粋)

2 学生への支援に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 学習支援、生活支援に関する目標を達成するためとるべき措置

- ・ 障害者差別解消法の施行をうけ、学生にも協力を呼び掛けて、学内で障害を持つ学生を支援する取り組みを検討する。

3 社会的責任に関する目標を達成するためとるべき措置

- ・ 障害者差別解消法に的確に対応するために制定した教職員対応要領や、学内での相談窓口の周知に努める。

(出典：公立大学法人 岡山県立大学「平成28年度計画」 p.9、20)

URL: http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/04/2016years_plan.pdf

資料 7-2-②-12 大学院生における長期履修制度 (抜粋)

(申請資格)

第2条 長期履修の申請をすることができる者は、本学大学院の入学選考結果に基づき合格となった者(在学生を除く。)であって、次のいずれかに該当する者とする。

- (1) 職業を有しており勤務等による時間の拘束があることから、標準修業年限での修業が困難である者
- (2) その他長期履修が必要となる特別な理由があると認められる者

第5条 長期履修が認められる期間(以下「長期履修期間」という。)は、研究科の課程に応じ次のとおり定める。

(1) 修士課程及び博士前期課程

入学時から3年又は4年

(2) 博士後期課程

入学時から4年、5年又は6年

(出典：岡山県立大学大学院長期履修学生規程)

URL: <http://www.oka-pu.ac.jp/kiteidata/act/frame/frame11000098.htm>

資料 7-2-②-13 社会人学生数及び大学院生における長期履修制度適用学生数（在籍数）

(社会人学生数)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
学部生	0	0	0	0	0
大学院生	13	9	14	14	14
(長期履修学生数)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
大学院生	9	7	6	6	8

(出典：教務班提供資料)

- 別添資料 7-2-②-I 平成27年度学生アンケート集計結果（抜粋）
- 別添資料 7-2-②-II 障害を理由とする差別の解消の推進に関する公立大学法人岡山県立大学教職員対応要領（抜粋）
- 別添資料 7-2-②-III 障害を理由とする差別の解消の推進に関する公立大学法人岡山県立大学教職員対応要領に基づく手続マニュアル（抜粋）
- 別添資料 7-2-②-IV 平成28年度入学生における合理的配慮の措置状況（抜粋）

【分析結果とその根拠理由】

学習支援に関する学生のニーズは、キャンパス・マネージャーとの意見交換会、各学部配置のクラス・アドバイザー、学生アンケート等により把握し、対応を行うとともに、学生相談室、保健室などと連携した全学的な教職員による学習支援、相談内容に応じた指導・助言等を行っている。また、留学生、社会人学生、障がいのある学生等の特別な支援を必要とする学生への学習支援も行っている。

以上のことから、学習支援に関する学生(留学生、社会人学生、障がいのある学生等を含む)のニーズが適切に把握されており、学習相談、助言、支援が適切に行われていると判断する。

観点 7-2-③： 通信教育を行う課程を置いている場合には、そのための学習支援、教育相談が適切に行われているか。

該当なし

観点 7-2-④： 学生の部活動や自治会活動等の課外活動が円滑に行われるよう支援が適切に行われているか。

【観点到係る状況】

学生生活や課外活動を支援するための学長諮問機関として、学生生活委員会が設置されている（前掲資料 2-2-①-8）。平成27年度には、課外のボランティア活動等を支援するため、大学教育開発センター学生支援部会の下部組織として、学生支援室が設置された（資料 7-2-④-1）。その活動として障がい学生を支援する学生ボランティア（ピアサポーター）活動の支援を計画している（前掲資料 7-2-②-10）。このため平成28年度に、学生会館内に整備する「ボランティアステーション」を、新設するラーニング・コモンズに併設し、ボランティアスタッフへの情報提供や研修等の支援を計画している（資料 7-2-④-2）。

また、学生便覧（URL：http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/06/28binran05_03_04.pdf）等を通じて、部活動等の学生団体による活動について、団体の設置及び更新・物品の貸与等の諸手続や学友会の活動などを周知している。

具体的な学生団体への支援実績であるが、部・サークルには、申請に基づき本学後援会から備品購入特別助成費が交付されるほか、活動援助費等が助成されている（資料 7-2-④-3）。公認の学生団体（体育系の部・サークル24団体、文化系の部・サークル30団体）は資料 7-2-④-4のとおりである。同じく本学後援会より、大学祭実行委員会を始め各種の行事を推進する学友会へも助成が行われているが、その実績は資料 7-2-④-5のとおりである。なお、学生団体や学友会の人的支援については教学課学生支援班を中心に実施している（資料 7-2-④-6）。課外活動施設の整備・改修等については、大学の改修計画（前掲資料 7-1-①-6）のなかで行うこととしている。

また、学生が競技大会や発表会で優秀な成績を収めた時にはこれを顕彰し、後援会より、申請によりスポーツ・文化活動奨励費を支給することとしており、実績は資料 7-2-④-7のとおりである。

資料 7-2-④-1 学生支援室の業務 (抜粋)

第2条 学生支援室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 学生のボランティア活動への支援に関すること。
- (2) 障がいのある学生の支援に関すること。
- (3) 学内のバリアフリー環境等の点検・改善に関すること。
- (4) その他学生の支援に関すること。

(出典：学生支援室規程 URL: <http://www.oka-pu.ac.jp/kiteidata/act/frame/frame110000276.htm>)

資料 7-2-④-2 ボランティアステーション計画

2 学生への支援に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 学習支援、生活支援に関する目標を達成するためとるべき措置

・学生会館内にラーニングコモンズ(28年度新設)を設け、学生の主体的活動を支援するとともに、自主学習や「おかやまボランティア演習」等でのグループワークに活用する。

(3) 就職支援に関する目標を達成するためとるべき措置

イ 学生のキャリア形成を支援するため、次の取組を行う。

・ボランティアステーション(仮称)(28年度新設)等の活用により、ボランティア活動に関する情報を学生に提供するとともに、AMD等との連携によるボランティア活動を引き続き支援する。

(出典：公立大学法人岡山県立大学平成28年度計画 p.9)

URL: http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/04/2016years_plan.pdf

資料 7-2-④-3 備品購入特別助成費、活動援助費等の助成実績

(単位:千円)

	部				サークル	合計
	体育会		文化会		サークル団体活動 援助費	
	活動援助費	設備器具整備費	活動援助費	設備器具整備費		
23年度	4,032	300	897	1,637	118	6,984
24年度	3,145	760	945	1,349	117	6,315
25年度	3,401	830	852	1,890	78	7,052
26年度	3,483	1,240	838	1,507	50	7,118
27年度	4,158	294	769	1,597	77	6,895

(出典：後援会・学生支援班提供資料)

資料 7-2-④-4 部・サークルの設置状況

○体育系 部・サークル24団体

1	合気道部	16	バレーボール部
2	Out Door部吉備っこ	17	ハンドボール部
3	AC TENNIS部	18	ビリヤード部
4	弓道部	19	フットサル部
5	剣道部	20	陸上競技部
6	公式野球部	21	空手道サークル
7	サイクリング部サエラ	22	アルティメットサークル-KIBI-
8	サッカー部	23	TTTの会
9	水泳部	24	バスケットボールサークル
10	ソフトテニス部		
11	卓球部		
12	ダンス部		
13	軟式野球部		
14	バスケットボール部		
15	バドミントン部		

○文化系 部・サークル30団体

1	アカベラ部「Palette」	16	総合芸術部 Vespa!
2	アコースティックギター部	17	文芸部
3	映画研究部S.A.C	18	ボランティア部「ひまわり」
4	AMC!	19	まんけん部
5	OPUウインドオーケストラ部	20	R.E.C. (Recording Entertainment Club)
6	華道部	21	MGP
7	奇術部Magical Magica	22	ガーデニングサークル
8	軽音部	23	クッキングサークルLITS
9	茶道部	24	国際協力サークルmake ACTION!!!
10	CG倶楽部 DADA	25	Korean Village
11	写真部	26	卓上競技サークル
12	邪'Z部	27	電脳遊戯研究所 栗八
13	手話部HAND POWER	28	笛サークル
14	箏曲部	29	夜空会
15	総合音楽部	30	ロボット研究サークル「ヒキカ」

(出典：平成28年度「学生便覧」 p.41)

URL: http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/06/28binran05_01_02.pdf

資料 7-2-④-5 学友会への助成実績

(単位：千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
学友会補助金	1,389	1,385	1,216	1,000	824
幹事会補助金	7,389	6,990	7,076	7,118	6,881
大学祭実行委員会補助金	3,000	3,000	3,690	3,100	3,100
合 計	11,778	11,375	11,982	11,218	10,804

(出典：後援会・学生支援班提供資料)

資料 7-2-④-6 学生支援班による人的支援状況

支援の対象となる学友会行事	
4月	新入生歓迎会(事業委員会) 部・サークル紹介(幹事会) 新入生向け履修登録相談コーナー(執行委員会)
5月	第1回執行委員会 第1回幹事会
6月	球技大会(事業委員会) 〇〇の日(事業委員会) 幹事会予算折衝(幹事会・執行委員会)
7月	七夕フェスティバル(事業委員会) オープンキャンパス県大生との相談コーナー設置(執行委員会) 第2回幹事会
10月	ハロウィンイベント(事業委員会) 「With SOJA」作成開始(執行委員会)
11月	大学祭(大学祭実行委員会)
12月	クリスマスイベント(事業委員会) 第3回幹事会
1月	「学友会年報」作成開始(執行委員会)
2月	第2回執行委員会 第4回幹事会
3月	新入生相談コーナー設置(執行委員会) 「With SOJA」学友会年報完成

(出典：学生支援班提供資料)

資料 7-2-④-7 スポーツ・文化活動奨励費支給実績

年度	スポーツ		文化活動	
	件数	奨励費(円)	件数	助成費(円)
23	4	45,000	2	15,000
24	8	120,000	5	50,000
25	6	115,000	3	30,000
26	3	110,000	10	215,000
27	8	170,000	3	50,000

(出典：後援会・学生支援班提供資料)

【分析結果とその根拠理由】

学生の課外活動を支援する委員会組織として、学生生活委員会や大学教育開発センター学生支援室等が設置され、課外活動の支援等を行っている。また、教学課学生支援班が学生団体対応窓口として学友会と連携し、部室の貸与及び物品の貸出しなどのほか、課外活動施設の整備・改修、運動用具等の物品の購入支援、大学祭等の学友会行事への人的・物的支援を行っている。さらに、課外活動等において、競技大会や発表会で優秀な成績を収めた時、後援会より奨励金が給付される制度も運用している。

以上のことから、学生の部活動や学友会活動等の課外活動が円滑に行われるよう支援が適切に行われていると判断する。

観点 7-2-⑤：生活支援等に関する学生のニーズが適切に把握されており、生活、健康、就職等進路、各種ハラスメント等に関する相談・助言体制が整備され、適切に行われているか。
また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあり、必要に応じて生活支援等が行われているか。

【観点に係る状況】

生活支援等に関する学生からの要望は、学生相談室での相談、キャンパス・マネージャーと学生部長等との意見交換会（資料7-2-⑤-1）、学生アンケート（別添資料7-2-⑤-I）ならびに各学部におけるオフィスアワー制度の利用やクラス・アドバイザーへの相談等により、把握に努めている（前掲資料7-2-②-1～2）。

一方、生活、健康等の各種相談・助言体制については、学生相談室、保健室、ハラスメント相談員、クラス・アドバイザー、国際交流センター等により、様々な学生からの相談等に応じている。

学生相談室では、「こころの健康管理システム」により、保健室等と連携してこころの相談に応じており、メンタル面の相談・助言を実施している（資料7-2-⑤-2、前掲資料7-2-②-4～6）。なお、学生相談室の場所等に関する認知度が保健室に比べて低いことが判明したため（資料7-2-⑤-3）、本学の教育力向上支援事業において、デザイン学部生の卒業研究制作による協力等により、学生相談室の認知度を上げるための環境整備に取り組んだ（資料7-2-⑤-4、後掲資料8-2-①-6）。

保健室では、養護教諭の資格を持つ職員が常駐し、学校医及び医師免許を持つ教員2名の協力のもと、学生の健康診断、健康相談、健康診断証明書等の発行、けがや急病の手当、救急車の手配等に当たるほか、学生相談室との連携のもと学生の心身の健康に関わる相談・助言を実施しており、平成26～27年度における利用状況は資料7-2-⑤-5のとおりである。

ハラスメント相談員は、岡山県立大学ハラスメント等の防止等に関する規程（別添資料7-2-⑤-I）に基づき、各学部・研究科・学長から推薦された教職員により構成（平成27年度は11名）され、部局長や総務課窓口との緊密な連携のもと活動することとしている。また、規程ではハラスメント等の防止啓発から苦情相談、調査、調停、認定ならびに救済・改善措置にあたるハラスメント等防止委員会が設置されており、理事長、副理事長、学生部長、学部長、理事長が指名する教員により構成（平成27年度は8名）されている（資料7-2-⑤-6）。

学生生活支援に係る学生への情報提供としては、本学ホームページによる掲示以外に、新入生に対しては「学生便覧」を入学時に配布し活用している（学生便覧URL：http://www.oka-pu.ac.jp/index.php?page_id=44152）。なお前掲資料7-1-②-5にあるように、学内情報の提供に関する学生アンケート結果が必ずしも良好ではないため、平成28年度計画において学生ポータルを運用する全学情報システム（学務系）を平成29年度に本格導入すべく準備することとしている（前掲資料7-1-②-6）。

進路について、全学共通のOB・OG交流やキャリアポートフォリオの企画推進など、キャリア形成に係る取組みの企画立案及び実施に関しては、大学教育開発センターキャリア形成支援部会が教学課学生支援班と連携し実施している（資料7-2-⑤-7、後掲資料8-1-①-11）。具体的な相談や助言について、専門系のキャリア教育を通じた相談や助言は各学部教員及び学科の就職担当委員がこれにあたっているが、面接等の全学共通のものについては就職相談室にキャリアカウンセラー（非常勤）を配置しこれにあたっている（資料7-2-⑤-8）。このほかキャリア形成支援部会及び学生支援班は就活ガイダンス企画や就活バス、模擬試験等の実施を通じて学生を支援している（資料7-2-⑤-9～12）。

留学生の生活支援に関しては、学生生活に必要な情報提供のほか、行政的な手続き、アパート探しなどの生活支援など、国際交流センターが所属学科等の指導教員と連携し取り組んでいる（前掲資料7-2-②-8～9）。

障がいのある学生の支援に関しては、観点7-2-②で述べたとおりであり、合理的配慮の対応事例を蓄積しながら、生活支援に対しても保健室、学生相談室、学生支援室、学科、事務局学生支援班等に加えて学生ボランティア等が連携して、全学的にきめ細やかな対応を進めている。

資料7-2-⑤-1 キャンパス・マネージャーとの意見交換会（抜粋）

日程・会場	平成27年12月18日（金）9:00～、本部棟2F中会議室
参加者	キャンパス・マネージャー6名、学生部長、学生支援室長、学生支援班職員2名
資料	平成27年度キャンパス・マネージャー学内点検とりまとめ表、平成27年度学生アンケート（学部生）設問集
議事（要望）	<ul style="list-style-type: none"> キャンパスの施設設備、バリアフリーについて <ul style="list-style-type: none"> ・ 学内施設案内サインの分かりにくさの解消について ・ 障がい者を対象にした施設バリアフリー面での配慮（ドア・トイレや動線の問題）について 学習及び情報環境について <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館における専門書のアップデートについて ・ 通学に時間のかかる学生の利便性を考えた休講情報に関する情報面の課題について 学生会館について <ul style="list-style-type: none"> ・ 食堂等の営業時間の短さや食事の内容及び衛生面など、運営全般について

キャンパス・マネージャー制度について ・広く学科など周囲から意見が拾える仕組みや学生が自由に意見を言えるフォーラム的な場の設定について
--

(出典：岡山県立大学「教育年報2015」第2部 p.133～134

URL: http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/05/03_kyoikunenpo2015-2bu.pdf

資料7-2-⑤-2 学生相談室における平成27年度相談・助言実績 【月別延来談者数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計		うち学生来談者数	
													うち実数	延数	延数	実数
平成27年度	32	99	137	81	14	31	45	24	39	22	15	5	545	66	466	58

(出典：岡山県立大学「教育年報2015」第2部 p.137)

資料7-2-⑤-3 学生アンケート Part.1 学生生活全般

(学部生：回答数1434名、抜粋)

設問11. 学生相談室(ほっとルーム)・保健室の場所を知っていますか

①両方とも知っている	②学生相談室(ほっとルーム)のみ知っている	③保健室のみ知っている	④両方とも知らない
61.4	4.2	23.1	11.3

(大学院生：回答数170名、抜粋)

設問9. 現在、どのような悩みがありますか(最もそう思うものを1つ選択)

①現在の学業	②進路や就職	③健康や対人関係(含む家庭)	④家庭における経済的事情	⑤ない
31.8	37.1	7.6	5.9	17.6


設問11. 学生相談室(ほっとルーム)・保健室の場所を知っていますか

①両方とも知っている	②学生相談室(ほっとルーム)のみ知っている	③保健室のみ知っている	④両方とも知らない	*
64.1	1.8	15.3	11.8	7.1

(出典：岡山県立大学「教育年報2015」付録1 p.191

URL: http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/05/05_kyoikunenpo2015-hurokukouki.pdf

資料7-2-⑤-4 学生相談室外観整備(教育力向上支援事業「学生相談室業務の機能向上と情報発信のための環境整備」)

<p>(研究タイトル及びキャプション)</p> <p>「自然を感じる壁画」公共空間におけるイラスト表現の研究</p> <p>昨年からの改善に取り組んできた学生相談室の環境整備の一環として、壁画を制作しました。この施設の利用目的から、あまり主張せず、訪れる人をやさしく迎えるような表現や配色について検討しました。</p> <p>デザイン学部・研究科 2015年度卒業制作展 図録より</p>	 <p>デザイン学部2015年度卒業研究成果物</p>
--	--

(出典：デザイン学部・研究科 2015年度卒業制作展 図録)

資料7-2-⑤-5 保健室利用状況(平成28年3月31日現在) (人)

	内科	外科	その他	検査等	相談	証明書	その他
平成27年度	124	97	87	527	280	718	7
平成26年度	135	102	46	527	280	682	25

(出典：岡山県立大学「教育年報2015」第2部 p.138)

資料7-2-⑤-6 ハラスメント等防止委員会及び相談員の所掌業務及び編成

<p>第6条 法人に、ハラスメント等の防止等を図るため、ハラスメント等防止委員会(以下「委員会」という。)を置く。 (所掌事項)</p> <p>第7条 委員会は、次の各号に掲げる事項を所掌する。</p> <p>(1) ハラスメント等の防止等に関する啓発活動の企画及び実施に関すること。</p> <p>(2) ハラスメント等の苦情相談に関すること。</p> <p>(3) ハラスメント等の調査及び調停に関すること。</p>
--

(4) ハラスメント等の認定並びにハラスメント等の被害者の救済措置（以下「救済措置」という。）及び就労・修学の環境の改善措置（以下「環境改善措置」という。）に関すること。

(5) その他ハラスメント等の防止等に関すること。

(組織)

第8条 委員会は、次の委員をもって組織する。

- (1) 理事長
- (2) 副理事長
- (3) 学生部長
- (4) 学部長 3人
- (5) 教員（第3号及び第4号に掲げる者を除く。） 2人（男女1人ずつとする。）

2 前項第5号の委員は、理事長が指名する。

(相談員)

第14条 ハラスメント等に関する苦情の申出及び相談（以下「苦情相談」という。）に当たるため、委員会に相談員を置く。

2 前項の規定は、苦情相談に相談員以外の教員及び事務職員が当たることを制限するものではない。

3 相談員は、次の各号に掲げる者について、理事長が任命し、又は委嘱する。

- (1) 学部ごとに推薦された教員（助手を除く。） 各2人
- (2) 研究科ごとに推薦された教員（助手を除く。） 各1人
- (3) その他理事長が必要と認めた者

4 前項第1号の相談員と第2号の相談員は、兼ねることができる。

5 相談員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(相談員等の責務)

第15条 相談員並びに相談員以外の教員及び事務職員（以下「相談員等」という）は、苦情相談を受けた場合には、直ちに關係する部局長及び事務局総務課長に報告しなければならない。

(部局長の責務)

第16条 部局長は、前条の報告を受けたときは、直ちに理事長に報告しなければならない。

(委員会の開催)

第17条 理事長は、前条の報告を受けたときは、委員会を招集し、会議を開くものとする。

(出典：公立大学法人岡山県立大学ハラスメント等の防止等に関する規程

URL:<http://www.oka-pu.ac.jp/kiteidata/act/frame/frame110000273.htm>)

資料7-2-⑤-7 キャリア形成支援部会の業務概要

キャリア形成支援部会は、平成26年度末で廃止となった就職支援専門委員会の業務を引き継ぎつつ、これまで主に学部・学科における専門的キャリア教育に依存してきたあり方を改め、学部学科横断的な全学的取組みとして以下の調査研究・企画立案業務を掲げ、学生支援班と協力しながら本学学生のキャリア形成を支援することを目的とした部会である。すなわち 1) キャリア教育および就職支援プログラムの現状調査と検証 2) インターンシップ企画と実施 3) 卒業生の組織化（同窓会との連動） 4) 就職支援計画 5) ボランティアの育成と組織化支援等、である。

(出典：岡山県立大学「教育年報2015」第2部 p.119)

資料7-2-⑤-8 キャリアカウンセラーによる就職相談室活動

相談日	相談時間	内 容 等
毎週 月曜日 火曜日 金曜日	10:30～15:30	キャリアカウンセラーによる各種相談を実施 ◇相談内容等 ・就職活動のすすめ方 ・履歴書・エントリーシート等書類に関する相談 ・面接対策 など ◇H27年度相談件数 ・1,131件

(出典：岡山県立大学「教育年報2015」
付録1 p.205)

資料 7-2-⑤-9 就職ガイダンス企画

実施日	ガイダンスの内容	実施機関等	参加学生数
6月18日	進路・就職ガイダンス	(株)リクルートキャリア	118
6月25日	公務員試験ガイダンス	東京アカデミー岡山校	45
10月8日	就職ガイダンス	(株)マイナビ	59
10月15日	内定者・就職活動報告会	本学キャリアカウンセラー	30
10月22日	自己分析・志望動機ワークショップ	(株)リアセック	34
10月29日	エントリーシート対策講座	(株)シーズ	44
11月 5日	職種まるわかりセミナー	(株)学情	16
11月12日	就活ゼミ～新聞の読み方、活かし方～	(株)山陽新聞社	12
11月26日	中小・中堅企業の魅力と地元優良企業の探し方	(株)ビザビ	28
12月 3日	面接力UPセミナー	(株)シーズ	41
12月10日	実践! グループディスカッション	(株)アイデム	9
12月17日	業界研究講座	(株)リクルートキャリア	23
1月14日	公務員試験ガイダンス	東京アカデミー岡山校 総社市, 岡山県警人事担当者	44
1月21日	「求人NAVI」操作説明会 就活マナー講座	(株)ジェイネット 本学キャリアカウンセラー	28
1月28日	就活直前! 総まとめ講座	(株)マイナビ	77

(出典: 岡山県立大学「教育年報2015」付録1 p. 204)

資料 7-2-⑤-10 職業適性検査等の実施と解説

実施日	検査名	実施機関等	受検学生数
6月20日～6月30日	職業適性診断	(株)リアセック	101
7月24日	職業適性診断解説講座		

(出典: 岡山県立大学「教育年報2015」付録1 p. 204)

資料 7-2-⑤-11 各種模擬テストの実施

実施日	試験名	実施機関等	受験学生数
4月18日	公務員模擬試験	東京アカデミー岡山校	11
7月16日・30日	SPI+一般常識・時事Web模擬テスト	(株)マイナビ	23
11月19日	SPI模擬テスト	(株)ジェイ・ブロード	57

(出典: 岡山県立大学「教育年報2015」付録1 p. 204)

資料 7-2-⑤-12 就職活動バス(合同企業説明会へのバス)の運行(実施前)

運行日	合同企業説明会参加場所	主催者	参加学生数
3月 4日	大阪(インテックス大阪)	(株)マイナビ	35

(出典: 岡山県立大学「教育年報2015」付録1 p. 205)

別添資料 7-2-⑤-I 公立大学法人岡山県立大学ハラスメント等の防止等に関する規程

【分析結果とその根拠理由】

生活支援に関する学生のニーズに関しては、学生相談室、保健室、学生支援室、学生アンケート、各学部に配置のクラス・アドバイザーなどにより随時把握に努めている。学生、留学生に対する生活、健康、就職等進路の支援に関しては、学生相談室、保健室、就職相談室、国際交流センター、教学課学生支援班等において、指導・相談・助言等を行っている。各種ハラスメントへの対応に関しては、ハラスメント等防止委員会や相談員が中心となり、対策・相談・助言に対応している。

以上のことから、生活支援等に関する学生(留学生、障がいのある学生等を含む)のニーズが適切に把握されており、生活、健康、就職等進路、各種ハラスメント等に関する相談・助言体制が整備され、適切に行われていると判断する。

観点 7-2-⑥： 学生に対する経済面の援助が適切に行われているか。

【観点に係る状況】

学生への経済的支援として入学料及び授業料の免除、奨学金の貸与・給付のほか、学生便覧を通じて経済支援情報を提供している。

入学料等の減免については、初年度納付金のうち入学料について岡山県内在住に関する条件を満たした者は減免している（資料 7-2-⑥-1）。また公立大学法人岡山県立大学の授業料等に関する規程（別添資料 7-2-⑥-Ⅰ）に基づき、理事長は学業優秀な者で学資の負担が困難であると認められる者、その他特に必要があると認められる者について、検定料、入学料又は授業料の減免又は徴収猶予できることとしている。これに基づき、公立大学法人岡山県立大学授業料減免規程（別添資料 7-2-⑥-Ⅱ）を制定し、学資負担者の死亡等により生活が困窮し学資の負担が困難である者等について授業料の全学ないし半額免除を実施することとしている（7-2-⑥-2）。さらに、公立大学法人岡山県立大学授業料減免規程第 2 条第 2 項に基づき、東日本大震災により被災した岡山県立大学入学者について、検定料の免除や入学金及び授業料の減免について周知している（別添資料 7-2-⑥-Ⅲ～Ⅳ）。授業料の減免等については、教学課学生支援班が毎年度 4 月と 7 月に説明会を開催しており、必要な手続方法等について周知し、その実績は資料 7-2-⑥-3 のとおりである。なお、本学大学院研究科博士前期課程又は修士課程を修了見込みで、引き続き本学大学院研究科博士後期課程に進学しようとする者の検定料及び入学料は、徴収しないこととしている（別添資料 7-2-⑥-Ⅰ）。

このほか本学後援会による助成について、留学生交流助成費、海外語学研修助成費、英語力向上奨励費、大学院生による県外学会発表助成費等や弔慰金などが申請により支給され、平成 27 年度における実績は資料 7-2-⑥-4 のとおりである。

奨学金については、日本学生支援機構の奨学金について学生便覧を通じて周知の上、教学課学生支援班において毎年度 4 月に説明会を開催し、申請だけでなく、採用や返還に関する手続きの際の提出書類や手続方法について説明している（資料 7-2-⑥-5）平成 27 年度では、奨学金受給者数は、学生全体で日本学生支援機構第 1 種奨学金 417 名、第 2 種奨学金 367 名、地方自治体・民間育英団体奨学金 10 名となっており、日本学生支援機構による奨学金の平成 23 年度～26 年度における給付状況は別添資料 7-2-⑥-V のとおりである。さらに、民間の奨学団体や地方公共団体の奨学金で大学を経由するものについては、学内掲示によりこれを周知し、情報提供や出願手続及び給付手続の説明について支援しており、実績は別添資料 7-2-⑥-VI のとおりである。

留学生に関する経済面の援助としては、公立大学法人岡山県立大学の授業料等に関する規程（前掲別添資料 7-2-⑥-Ⅰ）に基づき、本学独自の経済的支援を行っており（資料 7-2-⑥-6）、その実績は資料 7-2-⑥-7 のとおりである。また平成 28 年度入学生からは、関係する協定を結んだ海外交流協定締結大学からの留学生について、本学大学院研究科博士後期課程海外特別入学試験により入学しようとする者に、返還義務のない奨学金を一定期間支給することとしている（資料 7-2-⑥-8）。

資料 7-2-⑥-1 初年度納付金について

岡山県内の方 188,000円

上記以外の方 282,000円

- 1 「岡山県内の方」は、次のいずれかに該当する方のことをいいます。
 - (1) 入学の日の属する月の初日において引き続き1年以上県内に住所を有している方
 - (2) 入学の日の属する月の初日において配偶者又は1親等の親族が引き続き1年以上県内に住所を有している方
- 2 入学料の改定があった場合は、改定後の入学料が適用されます。

（出典：本学ホームページ「入試情報」 URL：http://www.oka-pu.ac.jp/index.php?page_id=35928）

資料 7-2-⑥-2 授業料減免規程（抜粋）

（減免）

第2条 公立大学法人岡山県立大学理事長(以下「理事長」という。)は、従来同一世帯にあり、主として生計を維持し、学資を負担している者(以下「学資負担者」という。)が生活に困窮し、学資の負担が困難であると認められる学生に対して、授業料の全額又は半額を免除することができる。

2 理事長は、授業料の納期前6月以内(新入学者に対する入学した日の属する期の減免に係る場合は、入学前1年以内)において、学資負担者が死亡し、又は廃疾、災害その他これらに準ずる事由により生活に困窮し、学資の負担が困難であると認められる学生に対して、その事由の生じた日の属する期の翌期分以降の授業料について授業料の全額又は半額を免除することができる。ただし、当該事由の発生の時期が当該期の授業料の納期限以前であり、かつ、当該学生が当該期の授業料を納付していない場合においては、当該期以降の授業料を免除することができる。

(出典：公立大学法人岡山県立大学授業料減免規程)

URL：<http://www.oka-pu.ac.jp/kiteidata/act/frame/frame110000100.htm>

資料 7-2-⑥-3 授業料の減免に関する実績 (単位:人)

年 度	大学			大学院		
	申請者	全額免除	半額免除	申請者	全額免除	半額免除
23	226	26	102	57	8	39
24	202	34	79	55	11	7
25	222	46	75	60	11	17
26	136	40	88	34	3	
27	226	4	127	39	7	

(出典：教学課学生支援班提供資料)

資料 7-2-⑥-4 後援会による各種助成実績

海外語学研修助成費

年度	研修先	人数	助成額 (円)	合計 (円)
25	英国	9	50,000	450,000
	オーストラリア	14	41,000	574,000
	香港メディアツアー	5	10,000	50,000
26	英国	8	50,000	400,000
	オーストラリア	9	41,000	369,000
27	英国	11	43,000	473,000
	オーストラリア	11	38,000	418,000
	オーストラリア	1	7,000	7,000
	韓国	7	10,000	70,000

英語力向上奨励費(TOIEC650点以上)

年度	人数	助成額 (円)	合計 (円)
25	8	10,000	80,000
26	7	10,000	70,000
27	8	10,000	80,000

大学院生学生会発表助成費(県外で発表した場合)

年度	人数	助成額 (円)	合計 (円)
25	58	10,000	580,000
26	50	10,000	500,000
27	55	10,000	550,000

弔慰金等

	年度	人数	助成額 (円)
	25	7	10,000
	26	8	10,000
	27	9	10,000

(出典：後援会提供資料)

資料 7-2-⑥-5 日本学生支援機構奨学金 学内説明会実施状況

年度	開催日	説明会の内容	開催教室
24	平成24年4月11日	定期採用説明会(学部生対象)	学部共通棟(南) 8206教室
	平成24年4月12日	同上(大学院生対象)	同上
	平成24年11月13日	返還説明会	同上
25	平成25年4月11日	定期採用説明会(学部生対象)	同上
	平成25年4月12日	同上(大学院生対象)	同上
26	平成26年4月11日	定期採用説明会	同上
27	平成27年4月10日	同上	同上
28	平成28年4月11日	同上	同上

(出典：学生支援班提供資料)

資料 7-2-⑥-6 留学生の入学料等徴収に関する特例措置(抜粋)

- 9 次の各号に掲げる検定料、入学料及び授業料は、前各項の規定にかかわらず、当該各号に定めるとおりとする。
- (2) 大学間国際交流協定に基づいて本学が受け入れる外国人留学生の検定料、入学料又は授業料は、協定を締結している外国の大学との協議により相互に不徴収とするとされている場合は、徴収しない。
- (3) 特別研究学生の授業料は、当該学生が属する他の大学院(外国の大学院を含む。)との協議により授業料は相互に不徴収とすると

されている場合は、徴収しない。

(4) 国費外国人留学生の検定料、入学料及び授業料は、当該留学生からは徴収しない。ただし、本学に入学しない国費外国人留学生は、理事長が定める日までに検定料を納めなければならない。

(5) 本学大学院研究科博士後期課程海外特別入学試験により入学しようとする者の検定料、入学料及び授業料は徴収しない。

(出典：公立大学法人岡山県立大学の授業料等に関する規程

URL：<http://www.oka-pu.ac.jp/kiteidata/act/frame/frame110000016.htm>)

資料 7-2-⑥-7 留学生における入学料等の減免実績

	前期授業料		後期授業料		入学料免除
	全額免除	半額免除	全額免除	半額免除	
平成 24 年度	4 人	2 人	2 人	2 人	2 人
平成 25 年度	4 人	2 人	2 人	4 人	—
平成 26 年度	2 人	3 人	1 人	3 人	1 人
平成 27 年度	2 人	1 人	1 人	—	—

(出典：学生支援班提供資料)

資料 7-2-⑥-8 平成28年度入学生実績 (博士後期課程における奨学金給付留学生)

受入学生の出身大学 (国)	人数	本学における受入課程	月額給付金額 (年数)
ハサヌディン大学 (インドネシア)	1名	保健福祉学研究科保健福祉科学専攻	8万円 (3年間)

(出典：教務班提供資料)

別添資料 7-2-⑥-I 公立大学法人岡山県立大学の授業料等に関する規程

別添資料 7-2-⑥-II 公立大学法人岡山県立大学授業料減免規程

別添資料 7-2-⑥-III 東日本大震災により被災した岡山県立大学入学志願者の検定料の免除について

別添資料 7-2-⑥-IV 東日本大震災により被災した岡山県立大学入学者の入学料及び授業料の減免について

別添資料 7-2-⑥-V 平成23～26年度における「独立行政法人日本学生支援機構」奨学金の給付状況

別添資料 7-2-⑥-VI その他の奨学金取扱状況

【分析結果とその根拠理由】

入学料や授業料免除及び奨学金については、経済的援助を必要とする学生が支援を受けられるような情報提供を行うとともに、東日本大震災等で被災した学生については検定料、入学料ならびに授業料免除に関して特別な経済的支援を行っている。留学生については、本学独自の奨学金に関する情報提供を行うとともに、減免制度等の活用による経済的支援を行っている。関係する協定を結んだ海外交流協定締結大学からの博士後期課程留学生については、給付型の奨学金を支給するなど、支援を実施している。

以上のことから、学生に対する経済面の援助が適切に行われていると判断する。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- ・出席状況をはじめ学業不振の学生について、各学部のクラス・アドバイザー等が電話、メール等で連絡し、直接面談を行い、事情等を確認することにより、学生が抱えている問題やニーズなどを早期に把握し、修学指導・助言など学習支援を行っている。

- ・メンタルの悩みを抱えた学生の早期発見については、健康診断時に実施しているUPI調査の結果に基づき、学生相談室が各学部教員と情報の共有を図り、該当する学生の支援を行っている。

- ・平成27年度に学生アンケートを実施するとともに、学生相談やキャンパス・マネージャーとの意見交換などを通じ、学生の修学面、生活面に関する要望やニーズを把握し、学生ニーズへの対応、修学環境整備等を行っている。特に障がい学生への合理的配慮については学生相談室、保健室、学生支援室、学科の連携により、きめ細かな支援体制を整備し、運用を開始している。

- ・入学料及び授業料免除等について、各種の制度を運用することにより修学を支援する一方、優れた課外活動成果をあげた学生について奨励金を給付するほか、後援会を通じて勉学に関する成果について助成を行うなど、学生に対する経済的支援とともに勉学の奨励と修学意欲の高揚を図っている。

【改善を要する点】

・学内情報に関するネットワーク利用について、安全性と引き換えに利便性に欠ける面があり、平成28年度計画にあるとおり、全学情報システム（学務系）の適切な設計と必要な研修会の実施により、学生にとって安全かつ便利な情報提供ができるICT環境の改善を、平成29年度運用に向け着実に準備することとしている。

基準 8 教育の内部質保証システム

(1) 観点ごとの分析

観点 8-1-①：教育の取組状況や大学の教育を通じて学生が身に付けた学習成果について自己点検・評価し、教育の質を保証するとともに、教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能しているか。

【観点到る状況】

本学では、教育研究水準の向上を図るとともに本学の目的と社会的使命を達成することを評価の目的として、岡山県立大学評価規程を定めている。その基本方針は、公正かつ客観的で信頼性が高く、学外の意見を踏まえ、教育研究活動の改善を指向することとし、その他結果の公表や評価実施体制等の継続的改善を定めている。以上に基づいて評価委員会を設置し、教育活動、研究活動、地域・社会貢献活動ならびに管理運営について定期的に自己点検・評価している。また学部・研究科における自己点検・評価については、保健福祉学部評価分科会、情報工学部評価分科会ならびにデザイン学部評価分科会にてこれを実施している（資料 8-1-①-1）。評価委員会では、審議事項に自己評価や外部評価及び第三者評価、評価システムに関する事項等を定めている。（資料 8-1-①-2）。教育に関する各年度の取組実績及びその自己点検結果については、次年度の課題とともに教育年報（岡山県立大学刊行物 URL：http://www.oka-pu.ac.jp/index.php?page_id=19883）に掲載・公表している。第 2 期中期目標期間（平成 25～30 年度）における教育の質の改善については、FD 活動、教員の個人評価結果、授業評価アンケート結果、教育年報、及び教育力向上に資する学内競争的資金の活用が示されている（資料 8-1-①-3）。各年度の計画及び業務実績については、法人／大学組織の連絡調整にあたる部局長会議で協議され、外部有識者を委員に含めた教育研究審議機関である教育研究審議会にて決定される。計画及び業務実績については、岡山県独立行政法人評価委員会にて評価を受け、各年度に係る業務の計画や実績の評価結果として公表され、学内外に周知される（岡山県立大学大学情報 URL：http://www.oka-pu.ac.jp/index.php?page_id=1169）。

本学ではアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシーならびにディプロマ・ポリシーを策定した平成 25 年度以降において、教育方法及び内容の改善、各ポリシーと学習成果の関係性に関する事項については教育研究活動委員会において、アドミッション・ポリシーに基づく入試の実施内容及び方法の改善に関する事項については入試委員会において、さらに学生支援における改善に関する事項については学生生活委員会において、COC+ 事業を含む社会貢献活動の改善に関する事項は社会活動委員会において、自己点検・評価を実施してきた。以上に挙げた委員会は学長を委員長とする学長諮問機関であり、学部長（研究科長）等を構成員に含めている。

平成 25 年度までの、本学における全学的な教育の質の改善に向けた調査研究、企画立案、実施ならびに自己点検・評価の取組は、認証評価の新たな基準・観点到るに照らして十分とは言い難い状況であった。そこで第 2 期中期目標期間において教育の質の改善・向上を図る取組を加速するため、平成 25～26 年度を準備期間とし、教職協働による調査研究と企画立案ならびに実施を担う大学教育開発センターをはじめとする組織（センター）を新設し、平成 27 年度から本格運用することとした（資料 8-1-①-4）。これは第 2 期中期計画（資料 8-1-①-3）における教育の質の改善に関する目標を達成するため、自己点検・評価の企画部門を評価委員会から大学教育開発センター等へ移管し、評価委員会を本学における自己点検・評価の全体統括に注力させる組織再編であった。また平成 27 年度においては、全学教育を担った全学教育研究機構を廃止し、教養教育、グローバル教育、地域連携教育を推進するため、全学必修の教養コア科目を明確に打ち出し、共通教育の実施を担う共通教育部を新設する等の改革に着手した（資料 8-1-①-5）。

以上の活動については、一般社団法人公立大学協会及び公立大学政策・評価研究センターの「平成 27 年度第 2 回大学評価ワークショップ（岡山県立大学）」における外部評価受審で、「平成 27 年度第 2 回大学評価ワークショップ（岡山県立大学）実施ハンドブック」（資料 8-1-①-6）に基づき報告し、大学教育開発センターの設置や多様な所掌分野の活動について、評価委員によるピアレビューにて「戦略的な組織体制が整備された」と高く評価された（資料 8-1-①-7、別添資料 8-1-①-I）。なお、ピアレビューを含む同ワークショップの実施報告書は資料 8-1-①-8 により公表されている。

教育の質の改善・向上に向けた大学教育開発センター、学部、研究科ならびに共通教育部における実施の状況は教育研究活動委員会にて自己点検・評価を行い、集約された内容は評価委員会にて総括されるが、教育の内部質保証のためのPDCAサイクルについては、「平成27年度第2回大学評価ワークショップ（岡山県立大学）実施ハンドブック」に示した（資料8-1-①-9）。ワークショップでは評価委員より、運営体制を表す図としては、「法人組織と大学組織が混在し、両者の区別が明らかでないことについては、整理しておくことが求められる」との提言があり、受審後に手直しし、平成28年度における運営体制を明らかにした（別添資料8-1-①-II 運営体制図URL：<http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/06/unei.pdf>）。なお、業務の一層の効率化に向け、現在の組織体制の点検・見直しを行っている。

平成27年度における全学的な教育の質の改善に関する自己点検・評価の企画実施は、大学教育開発センターが担っている（資料8-1-①-10）。センターでは、各種教育企画の検討や教育年報の企画編集等に関する内容は教育企画室、入学者の受入に関する内容はアドミッション部会、共通教育に関する内容は共通教育部会、FD活動（研修会・授業評価アンケート・相互授業参観）に関する内容はFD部会、学習成果や成績評価に関する内容は教育評価部会、卒業生・就職先アンケート等のフィードバックやキャリア支援に関する内容はキャリア形成支援部会、学生支援に関する内容は学生支援部会が各々教職協働の形式で担当している。平成27年度の活動実績と課題については「平成27年度第2回大学評価ワークショップ（岡山県立大学）実施ハンドブック」にて報告しており、教育の質の改善・向上に資するため平成27年度には、FD部会の企画により教員による相互授業参観、学生による授業評価アンケートおよびアクティブ・ラーニング企画を教職協働で実施した（資料8-1-①-11）。相互授業参観では参観教員提出の評価シートの改善を図り、集計結果について分析を実施した（別添資料8-1-①-III）。その結果、教員においては「授業の展開」について最も関心が高いことが判明し、後掲資料8-2-①-3に示すとおり、授業改善意見交換会を実施した。また、授業評価アンケートについては従来通りの質問項目とした（前掲資料6-1-②-3）が、結果を教員・学生にフィードバックし難いものであることが判明し、平成28年度より質問項目をシラバスに関連づけて刷新する計画を進めている（前掲資料6-1-②-3、前掲別添資料6-1-②-I）。シラバスについては、教育評価部会にて改訂を進めており、学生支援部会企画・実施による平成27年度学生アンケートで授業におけるシラバス活用について毎授業活用の割合が低かった（学部生で6.6%）ことから、平成28年度版では活用できるシラバスへ執筆要領の改訂を施した（前掲資料5-2-③-3）。平成29年度版では、本学として初めて全学情報システム（学務系）が導入されることから、より系統的な改善活動につながる様式に抜本改訂する計画を進めており、学習成果の質評価や授業評価アンケートに関連づけ、教員・学生ともに活用できるものとする計画である（前掲資料5-2-③-6、前掲別添資料5-2-③-II）。

さらに平成27年度に文部科学省COC+「地域で学び地域で未来を拓く‘生き生きおかやま’人材育成事業」に本校を代表校として採択されたことから、平成28年度入学生から開講される副専攻科目群「岡山創生学」等の履修を通じてジェネリックスキル（社会人基礎力）を培う視点により、キャリア形成支援部会にてキャリアポートフォリオの様式作成に取り組み（後掲資料8-1-③-3）、平成29年度導入の全学情報システム上で運用することとしている。また同時にジェネリックスキル診断テストを実施することとしており、その結果を本学のキャリア教育を通じた成長の客観的指標としてポートフォリオに関連づけ、学生の自己診断に活用するとともに検証を実施する計画である（資料8-1-①-12）。

資料8-1-①-1 岡山県立大学評価規程（抜粋）

（目的）

第2条 評価は、本学の教育研究水準の向上を図るとともに、本学の目的と社会的使命を達成するために実施する。

（基本方針）

第3条 本学の評価は、次の事項を基本方針とする。

- (1) 公正かつ客観的で信頼性の高い評価
- (2) 学外の意見も踏まえた評価
- (3) 教育研究活動等の改善を指向する評価
- (4) 評価結果の公表
- (5) 評価の実施体制、項目及び方法の継続的改善

（評価事項）

第4条 第2条の目的を達成するため、本学が行う評価事項は、次のとおりとする。

- (1) 教育活動
- (2) 研究活動
- (3) 地域・社会貢献活動
- (4) 管理運営
- (5) その他の必要な事項

(分科会)

第6条 本学の各学部の評価を行うため、評価委員会に、保健福祉学部評価分科会、情報工学部評価分科会及びデザイン学部評価分科会を置く。

2 分科会に関する事項は、評価委員会が別に定める。

3 保健福祉学研究科、情報系工学研究科及びデザイン学研究科の評価は、それぞれ保健福祉学部評価分科会、情報工学部評価分科会及びデザイン学部評価分科会が行う。

(出典：岡山県立大学評価規程 URL: <http://www.oka-pu.ac.jp/kiteidata/act/frame/frame110000077.htm>)

資料 8-1-①-2 岡山県立大学評価委員会規程 (抜粋)

(審議事項)

第3条 委員会は本学の評価に関する次の重要事項を審議する。

- (1) 自己評価に関する事項
- (2) 外部評価及び第三者評価に関する事項
- (3) 評価結果の公表に関する事項
- (4) 評価結果に基づく改善案の策定に関する事項
- (5) 評価システムに関する事項
- (6) その他本学の評価に関する事項

(出典：岡山県立大学評価委員会規程

URL: <http://www.oka-pu.ac.jp/kiteidata/act/frame/frame110000078.htm>)

資料 8-1-①-3 公立大学法人岡山県立大学第2期中期目標・中期計画 (抜粋)

○第2期中期目標

II-1-(3) 教育の実施体制等に関する目標

ウ 教育の質の改善

学生に質の高い教育を提供するため、FD (ファカルティ・ディベロップメント: 教員組織による能力開発) 活動の改善を図りながら引き続き推進する。

第2期中期目標 http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2013/02/midterm_target2.pdf

○第2期中期計画

II-1-(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するためとるべき措置

ウ 教育の質の改善

(ア) 評価委員会が中心となり、大学教育のあり方を検討した上で、教育内容や授業方法の改善に資するFD (ファカルティ・ディベロップメント) 活動を、年次計画を立てて継続的に実施する。

(イ) 評価委員会と各学部・学科が連携を取りながら、教員の個人評価結果や学生の授業評価アンケート結果を分析して、教育の質の改善に活用する。

(ウ) 教育年報を発行し、本学の教育活動の成果を集約し、各種評価のための資料を提供するとともに、次年度に向けた教育の質の改善の指針を提示する。

(エ) 教員の教育力向上等に直接結びつく調査、実践活動に対する学内競争的資金を充実させる。

第2期中期計画 http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2013/04/midterm_plan2.pdf

資料 8-1-①-4 公立大学法人岡山県立大学平成27年度計画 (抜粋)

ウ 教育の質の改善

(ア) 大学教育開発センターにおいて FD 活動の企画・実施等を行い、結果を点検する。その結果を基に、評価委員会は、FD 活動の評価を行い、次年度以降の FD 活動の改善に繋げる。

また、大学教育開発センターでは、学外の有識者による FD 活動に関する研修会を年 2 回程度、その他広義の FD 活動に関する研修会を年 5 回程度企画する。

(イ) 27 年度に試行する新しい教員の個人評価制度(案)が教育の質の改善に活用できる制度となるように、試行結果の検証を行い、制

度を改良する。

大学教育開発センターにおいて、学生の授業評価アンケートの企画・実施等を行うとともに、アンケート結果を分析し、その結果を教育内容及び授業方法の改善に役立てる。

(ウ)「教育年報 2014」は、大学教育開発センターにおいて一部構成や項目の見直しを行った上で、本学の教育研究活動の成果をわかりやすく取りまとめ、学内外に周知するとともに、教育研究活動のさらなる発展と改革のための基礎資料として活用する。

(出典：：公立大学法人岡山県立大学平成27年度計画 p. 8

URL:http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2012/03/2015years_plan.pdf)

資料 8-1-①-5 平成27年度組織再編一覧表

時 期	部門・機構等	新設センター（部会）等	廃止部門・センター・委員会等	備考
平成26年10月	教育研究開発機構	・大学教育開発センター（アドミッション部会、共通教育部会、FD部会、教育評価部会、キャリア形成支援部会、学生支援部会）	・学生生活支援専門委員会 ・就職支援専門委員会	機構は27年度新設
		・国際交流センター		
平成27年4月	共通教育部	・共通教育部（教養教育推進室、語学教育推進室、情報教育推進室、健康・スポーツ教育推進室・社会連携教育推進室）	・全学教育研究機構（語学センター、情報教育センター、健康スポーツ推進センター）	27年度新設
	総合情報機構	・情報基盤活用推進センター	・情報教育センター	機構は27年度新設
		・広報メディア開発センター	・広報専門委員会	
地域共同研究機構	・地域連携推進センター	・福祉・健康まちづくり推進センター	機構は17年度創設	
平成27年10月	教育研究開発機構	・学術研究推進センター		

(出典：公立大学法人岡山県立大学規程集

URL:<http://www.oka-pu.ac.jp/kiteidata/aggregate/catalog/index.htm> 附属施設等より)

資料 8-1-①-6 平成27年度第2回大学評価ワークショップ（岡山県立大学）「実施ハンドブック」

http://kodaikyo.sakura.ne.jp/sblo_files/kodaikyo/image/00_E585ACE8A1A8_handbook.pdf#search=大学評価ワークショップ+ハンドブック+岡山県立大学

(出典：公立大学改革支援・評価研究センターブログ)

資料 8-1-①-7 平成27年度第2回大学評価ワークショップ（岡山県立大学）ピアレビュー（抜粋）

内部質保証について

提言（評価者の意見）

- ・大学教育開発センターの新たな設置に関しては、教育研究に関する Plan、Do の機能が一元化され、戦略的な組織体制が整備されたものとして高く評価できる。
- ・大学教育開発センターの設置により、教育面の組織体制については充実が図られたが、財務などを含めた法人経営全体としての改善を図るための組織体制についても、今後整備が求められる。
- ・組織体制を説明する組織図において、法人の組織と大学の組織が混在し、両者の区別が明らかでないことについては、整理しておくことが求められる。関連して、理事長・学長一体型法人であっても、理事長の役割と学長の役割を明確にすることが必要である。
- ・組織体制が複雑化し、組織体制全体の構造の把握が難しくなっている。業務実施のための機能の分担、指揮命令系統を示す組織図と PDCA サイクルの流れを一つの図で表現することには無理があるため、表現上の工夫が求められる。
- ・企画立案に際し、IR 活動で得た客観的数値情報を活用することは重要である。平成 28 年度から導入、平成 29 年度から本格運用される全学情報システムの有効活用が期待される。

(出典：平成27年度第2回大学評価ワークショップ（岡山県立大学）ピアレビュー p. 9

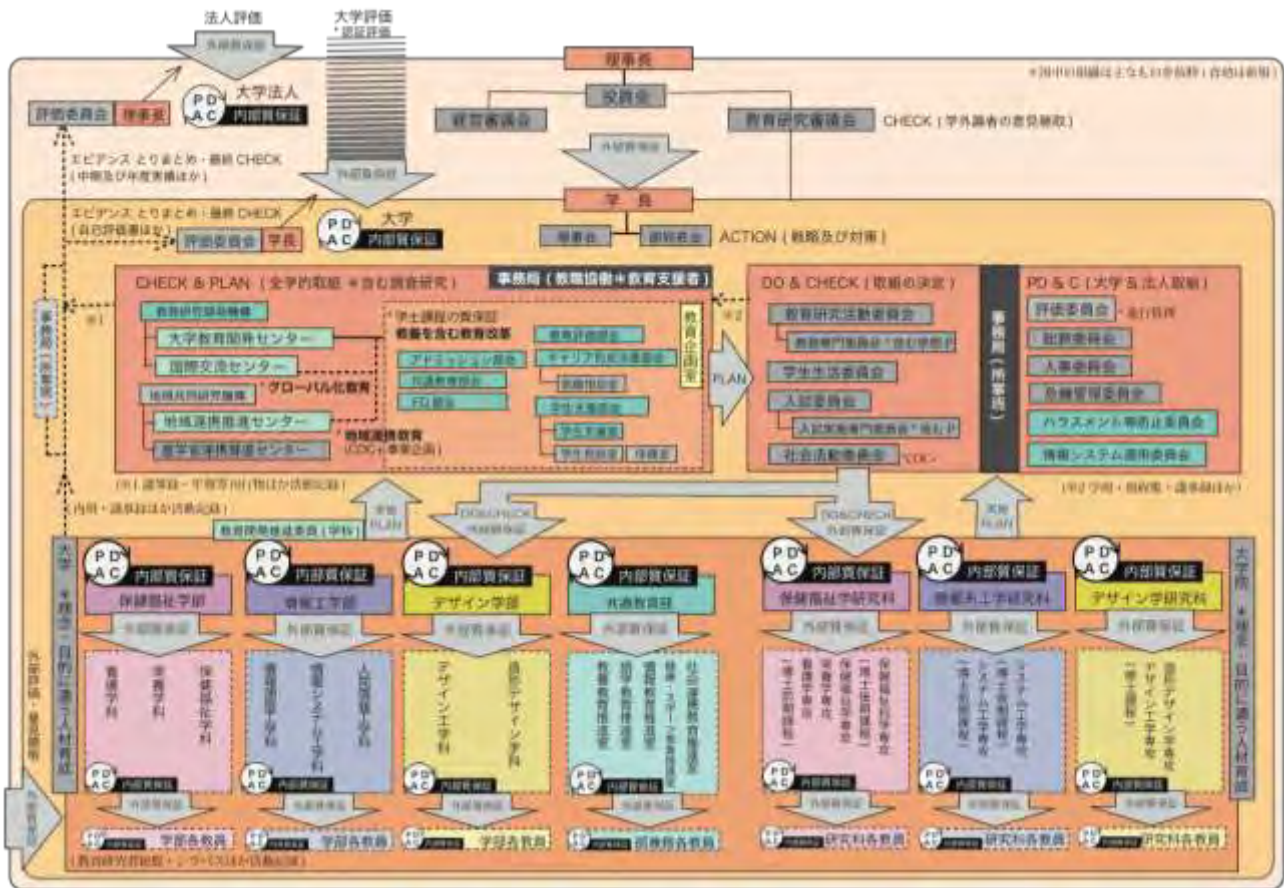
URL: http://kodaikyo.sakura.ne.jp/sblo_files/kodaikyo/image/E7A2BAE5AE9A_160406_E5A4A7E5ADA6E38394E382A2E383ACE38393E383A5E383BCEFC88E5B2A1E5B1B1E79C8CE5A4A7EFBC89.pdf)

資料 8-1-①-8 平成27年度第2回大学評価ワークショップ（岡山県立大学）実施報告書

http://kodaikyo.sakura.ne.jp/sblo_files/kodaikyo/image/E7A2BAE5AE9A_160406_E5A4A7E5ADA6E8A995E4BEA1WSE5AE9FE696BDE5A0B1E5918AE69BB8EFBC88E5B2A1E5B1B1E79C8CE5A4A7EFBC89.pdf#search=公大協+大学評価ワークショップ

(出典：公立大学改革支援・評価研究センターブログ)

資料8-1-①-9 教育を軸とした内部質保証のためのPDCAサイクル図 (抜粋)



(出典：平成27年度第2回大学評価ワークショップ (岡山県立大学)「実施ハンドブック」p.34

URL:http://kodaikyo.sakura.ne.jp/sblo_files/kodaikyo/image/00_E585ACE8A1A8_handbook.pdf#search=大学評価ワークショップ+ハンドブック+岡山県立大学)

資料8-1-①-10 岡山県立大学大学教育開発センター規程 (抜粋)

- (業務)
- 第2条 センターにおいては、次の各号に掲げる業務を行う。
- (1) 本学教育の基本理念、教育目標等に関すること。
 - (2) 本学教育の改革・改善及び高等教育に係る調査研究並びに提言に関すること。
 - (3) 教職員の教育に係る職能開発の企画及び実施に関すること。
 - (4) 入学者受入れに関する調査、企画及び実施に関すること。
 - (5) 教育の企画及び実施に関すること。
 - (6) 教育の点検・評価に関すること。
 - (7) 共通教育の充実及び共通教育と専門教育との連携に関すること。
 - (8) キャリア形成支援に関する企画及び実施に関すること。
 - (9) 学生支援に関する企画及び実施に関すること。
 - (10) その他本学教育の開発推進に関すること。

(出典：公立大学法人岡山県立大学規程集 <http://www.oka-pu.ac.jp/kiteidata/aggregate/catalog/index.htm>

附属施設等より)

資料8-1-①-11 平成27年度における大学教育開発センターの主な実施活動一覧

教育企画室	アドミッション部会	共通教育部会	FD部会	教育評価部会	キャリア形成支援部会	学生支援部会	教育改革WG (副専攻「岡山創生学」)
①FD・SD研修会企画	①入試形態と入学後成績関連の分析と評価	①教養教育の体系化活動	①授業評価アンケートの実施と分析	①新シラバスの設計	①就職・進学支援体制構築	①学生アンケート企画の改善	①「岡山創生学」カリキュラム編成

②DP・CP・APの整備(定期見直し)	②入試改革対応と調査	②アクティブ・ラーニングの実践と評価	②相互授業参観の実施と評価	②体系的カリキュラム構築(科目ナンバリング)	②インターンシップ	②学生支援室企画の実施(学生生活活性化)	②「岡山創生学」シラバス作成と連携
③教育年報の編集と発行	③高大接続調査研究	③教養教育の成果検証(ループリック)	③アクティブ・ラーニングの実践と評価	③GPAの実施と分析	③卒業時アンケート実施と分析	③ボランティア育成・組織化	③「岡山創生学」案内冊子等の作成
④副専攻「岡山創生学」活動推進	④大学授業開放の実施と評価	④共通教育と専門教育の連携	④教職員職能開発調査研究	④教育・学修の評価アンケートの作成と体系化	④卒業生、修了生(OB, OG)アンケート	④障害者差別解消法施行対応	④域学、産学WGとの連携による演習科目構築
⑤クォーター制実施準備	⑤入学時アンケート等作成と実施	⑤地域連携基礎教育の企画と推進	⑤新任教員研修等企画	⑤クォーター制に関する調査	⑤キャリア支援システム構築(ポートフォリオ)	③学生便覧の検討	
			⑥教育支援室企画		⑥同窓生組織化等		

(出典：岡山県立大学「教育年報2015」 第2部 p.69)

URL: http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/05/03_kyoikunempo2015-2bu.pdf

資料8-1-①-1 2 ジェネリックスキル診断テストの実施目的・計画(抜粋)

<p>ジェネリックスキル評価テスト (PROGテスト)</p> <p>(目的・用途) ジェネリックスキル評価テストは、副専攻「岡山創生学」開設の効果を評価することを目的として、知識を活用して問題解決する力(リテラシー)と経験を積むことで身についた行動特性(コンピテンシー)に関する学生の能力を定量的に測定するために用いる。</p> <p>(利用頻度) 平成28年6月に1年生全学生に実施する。</p>
--

(出典：COC+事業平成28年度調書 p.14)

- 別添資料8-1-①-I 「平成27年度第2回大学評価ワークショップ(岡山県立大学)」ピアレビュー(抜粋)
- 別添資料8-1-①-II 公立大学法人岡山県立大学 平成28年度運営体制図
- 別添資料8-1-①-III 相互授業参観意見交換会記録

【分析結果とその根拠理由】

本学では、全学(学士課程)および各学部、研究科でアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシーならびにディプロマ・ポリシーを策定し、これに各々関係する委員会が年度計画に基づいて教育活動の自己点検を進め、各年度の教育年報にその実績をまとめ、評価委員会にて全学的視点から進捗状況を年度評価として検証してきた。組織再編が完成した平成27年度からは、教育の質保証に関する自己点検・評価の企画実施を全学的に行う大学教育開発センターを中心に、機動的に教育の改善を行える体制を短期間に整備した。

相互授業参観や授業評価アンケート、シラバス、キャリアポートフォリオをはじめとする教育の向上に向けた改善や構築については、大学教育開発センターの活動を軸に教職員が課題を共有し、学生における学習成果の向上につなげるべくこれらに継続的に取り組んでいる。

以上のことから、教育の取組状況や本学の教育を通じて学生が身に付けた学習成果について自己点検・評価し、教育の質を保証するとともに、教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、学習成果を中心にした自己点検・評価に関する取組は途半ばではあるが、機能していると判断する。

観点8-1-②：大学の構成員(学生及び教職員)の意見の聴取が行われており、教育の質の改善・向上に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。

【観点到る状況】

本学の構成員からの意見聴取として、学生からは毎年度、各学部および研究科から選出されたキャンパスマネージャーによる学内点検およびこれに基づく意見聴取を学生部長、学生支援室長ならびに事務局学生支援班にて実施している(資料8-1-②-1)。また全ての学部において全学年に配置するクラスアドバイザーと高年次におけるゼミ教員によりきめ細かな意見の聴取が行われている(前掲資料7-2-②-1)ほか、毎年度オフィスアワー制度の活用により、教員の空き時間を活用した相談や意見聴取の機会を設けている(前掲資料7-2-②)

ー2)。さらに平成27年度から、従来の学部生を対象として隔年実施してきた学生生活アンケートを全面改訂し、毎年度実施の計画で、全ての学部生および大学院生を対象とした学生アンケートを実施し、学生生活全般および学修全般について各々30項目の設問により、意見を聴取している（前掲別添資料5-2-②-Ⅲ、前掲別添資料5-5-②-I、前掲別添資料7-2-②-1）。

教員からの意見聴取としては、学長および理事が各学部教授会に出向き意見交換の機会を設けているほか（別添資料8-1-②-I）、年度ごとの方針説明や新規の全学的事業計画が予定される場合に、学長懇談会を実施している（別添資料8-1-②-II）。理事（教育担当）が大学教育開発センター教育企画室会議および幹事会のメンバーとして参加し、かつ同センター主催のFD研修会（FD・SD研修会・教育開発講座・ワークショップ）へも参加、教職員の意見を聴く場としている。また各学部（研究科）では学部長（研究科長）が教授会（研究科委員会）を所属教員から意見を聴取する場としており、意見を各々入試委員会、教育研究活動委員会ならびに学生生活委員会等へ持ち寄ることとしている。委員会では学長を委員長、理事（教育担当）を副委員長とし、入試、教育研究及び学生支援等について審議する際、各学部長等から学部の意見を聴取している。

学生からの意見を教育の質の改善・向上に生かした事例として、キャンパスマネージャーによる学内点検に基づく提言のうち、施設面の改善を中心に毎年度取り組んでいる（資料8-1-②-2）。また平成27年度実施の学生アンケート設問項目「ボランティア活動」において、意欲を持ち情報を求めている学生が多数（59.6% 含む活動中の学生）に上ることから、平成28年度計画において、情報の提供およびミーティングの拠点としてボランティアステーションを設置することとしているが、これは同様に要望のあった自習施設の拡充（20.6%）も考慮して新設するラーニングcommonsを拠点とする計画である（資料8-1-②-3）。さらにキャンパスマネージャーからの意見聴取（資料8-1-②-1）でも要望のあった携帯端末で活用できる学生ポータルを備えた全学情報システムについて平成27年度中に計画し、平成28年度計画において導入・整備を図ることとした（資料8-1-②-3）。共通教育部では、学生からスポーツ施設（トレーニング室）の機器の老朽化の問題およびLL教室での時間外の自習における空調環境の問題について意見があり、必要なものについては対応を図った。また、保健福祉学部、情報工学部、デザイン学部においても同様にクラスアドバイザーや授業担当教員を通じて寄せられた学生からの意見を踏まえ、保健福祉学部では自習環境の充実のためのPC・ネットワーク環境の改善や演習室の時間外開放等、情報工学部では多岐にわたる提出物（実験レポート）を確認できるチェックリストの導入等、デザイン学部ではPCによる自習環境の改善等について対応している。教員からの意見を生かした例として、学長および理事による意見聴取の会等で出た質疑、意見については、案件の説明を行う他、COC+事業における県内高校生への周知の要望については、パンフレットを作成（前掲別添資料5-1-③-II）するなど、必要かつ実現可能な課題から対応している。さらに組織再編に伴う研修会や会議が増えており、効率化の要望が寄せられたことから、平成27年度中にセンターを含む会議日程の調整を行い、平成29年度導入の全学情報システム開発計画を踏まえ、平成28年度計画に盛り込むこととした（資料8-1-②-3）。また、学部等における教員からの意見を生かした例としては、老朽化した設備備品等の更新等があり、可能なものについては対応している。

資料8-1-②-1 平成27年度におけるキャンパスマネージャーの活動

名 称	日時・場所	出席者	主 な 内 容
辞令交付式 第1回打合せ会議	H27. 11. 6 12:00~12:30 本部棟2階中会議室	キャンパスマネージャー12名 学生部長 事務局2名	<ul style="list-style-type: none"> キャンパスマネージャーの辞令交付 事務局から活動実績・活動計画の説明 学内点検 卒業記念品候補品の選定
交通安全指導に参加	H27. 12. 2~H27. 12. 17 (上記のうち6日)	キャンパスマネージャー9名 事務局2名	<ul style="list-style-type: none"> 通学時の交通マナー及び安全な通学路への誘導
第2回打合せ会議 (意見交換会)	H27. 12. 18 9:00~11:40 本部棟2階中会議室	キャンパスマネージャー6名 学生部長 学生支援室長 事務局2名	<ul style="list-style-type: none"> 学内点検についての要望の確認と意見交換 学生アンケートについての意見交換
第3回打合せ会議	H28. 2. 13:00~14:00 本部棟2階小会議室	キャンパスマネージャー6名 事務局2名	<ul style="list-style-type: none"> 学内点検結果についての報告 来年度の活動についての意見交換

（出典：岡山県立大学「教育年報2015」第2部 p.133

URL: http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/05/03_kyoikunempo2015-2bu.pdf

資料 8-1-②-2 キャンパスマネージャー提言を生かした改善実績

実施年度	学内点検ツアーに基づく提言に対する改善実績
平成24年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食堂のガラス窓の清掃 ・ 吉備の哲人（広場モニュメント）周辺の雑草の除去及び樹木の剪定 ・ 駐輪場の空気入れの更新
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生会館2階ラウンジの分別ごみ箱の設置 ・ 陸上競技場の雑草の除去及び整備 ・ 放置自転車の撤去
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生会館の分別ゴミ箱の整備（増設） ・ 放置自転車の撤去（継続）

（出典：学生支援班提供資料）

資料 8-1-②-3 構成員の意見を踏まえた「平成28年度計画」（抜粋）

<p>ボランティアステーション（仮称）の設置計画</p> <p>2 学生への支援に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>（3）就職支援に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>イ 学生のキャリア形成を支援するため、次の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアステーション（仮称）（28年度新設）等の活用により、ボランティア活動に関する情報を学生に提供するとともに、AMDA等との連携によるボランティア活動を引き続き支援する。
<p>ラーニングコモンズの新設計画</p> <p>2 学生への支援に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>（1）学習支援、生活支援に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生会館内にラーニングコモンズ（28年度新設）を設け、学生の主体的活動を支援するとともに、自主学習や「おかやまボランティア演習」等でのグループワークに活用する。
<p>全学情報システム（学務系）の導入整備計画</p> <p>2 学生への支援に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>（1）学習支援、生活支援に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スマートフォンを利用した学生への情報提供については、新ホームページの開設（28年度）と全学情報システムの導入（29年度）に合わせて実施できるよう検討する。
<p>業務の効率化の方針</p> <p>4 事務等の効率化、合理化に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>（1）業務の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不要・不急の業務や非効率的な事務処理について、不断の見直しを行うとともに、業務のスクラップアンドビルドを行う。 ・ 29年度に運用開始する全学情報システムによる、事務処理の合理化・効率化を検討する。

（出典：公立大学法人岡山県立大学 平成28年度計画

URL: http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/04/2016years_plan.pdf

別添資料 8-1-②-I 学長、理事による意見聴取の会議事要旨

別添資料 8-1-②-II 平成26年度 第2回学長懇談会次第及び説明資料

【分析結果とその根拠理由】

本学の構成員からの意見聴取として、学生からは、全学的には学生部長等とキャンパスマネージャーとの意見交換会及び学生アンケート等を通じて実施しており、各学部ではクラスアドバイザーや授業科目担当教員ならびにゼミ担当教員等がオフィスアワー制度や授業等を活用してこれを実施している。教職員からは、学長および理事が学部教授会に出向き意見交換会及び全教職員対象の学長懇談会等の機会を捉えて意見聴取を実施しているほか、全学の各委員会では学部長等から学部学科の意見を学長及び理事が、大学教育開発センターでは理事がセンター業務に参画しながら意見を聴取している。これらにより把握した意見は、教育の質の改善・向上に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされていると判断する。

観点 8-1-③： 学外関係者の意見が、教育の質の改善・向上に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。

【観点到係る状況】

大学全体として、教育研究審議会、経営審議会ならびに役員会の学外委員から教育の質の改善・向上に関する事項について毎月（定例）意見を聴取する機会を設け、本学の教育の改善・運営に反映することとしている（別添資料 8-1-③-I、前掲別添資料 8-1-①-II）。特に教育研究審議会においては、本学の基本的運営方針や人事等について、外部委員からの意見を反映している（資料 8-1-③-1）。

大学教育開発センターでは、キャリア形成支援部会において平成27年度に卒業生アンケート及び就職先アンケートを実施し、学生生活委員会において集計結果の点検を行い、教育年報において教育改善上の課題とともに総括している（前掲資料 6-2-②-1~3）。また同部会では、学内の競争的資金である平成27年度教育力向上支援事業に応募し採択された事業「キャリア形成支援を目的とする教育体制整備に関する調査研究」の資金を活用し、全学部の社会で活躍する卒業生を「県大吉備塾」講師として招聘し、在学生に対して自身のキャリア形成とアドバイスを中心に講義いただいております、その成果は卒業生からの意見として、同部会で企画作成したキャリアポートフォリオへ卒業生アンケート及び就職先アンケート結果とともに活用することとしている（資料 8-1-③-2~3）。なお、県大吉備塾については、公立大学政策・評価研究センター主催「平成27年度第2回大学評価ワークショップ（岡山県立大学）」にて教育力向上支援事業の1プログラムとしてプレゼンテーションし、事業全体とともに高い評価を受けた（前掲資料 3-1-④-8）。

各学部においては、それぞれ意見交換会や協議会、ならびに外部評価委員会等に参加して、継続的に教育の質の改善に努めている。会議等の主な開催状況及び概要は、資料 8-1-③-4 に示すとおりであり、これら会議等における検討内容や提言は、学部教育の質の改善・向上に反映されている。

資料 8-1-③-1 平成27年度教育研究審議会の主な議題

- ・ 規程の改正について
- ・ 岡山県立大学におけるハラスメント等の防止等に関する指針(案)について
- ・ 第2期中期計画の平成26年度に係る業務実績、平成28年度計画について
- ・ 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）について
- ・ 公立大学法人岡山県立大学理事長選考会議委員の選任について
- ・ 学部教員の選考について
- ・ 名誉教授の選考について
- ・ 教員の昇任について
- ・ 連携大学院准教授の任用について 等

（出典：総務課提供資料）

資料 8-1-③-2 「県大吉備塾・卒業生によるキャリア講演」（抜粋）

県大吉備塾の広報用ポスター



卒業生の講演および在学生の参加風景




デザイン学部OG 講演風景 インタビュー風景

（出典：平成27年度第2回大学評価ワークショップ（岡山県立大学）

「岡山県立大学プレゼンテーション資料（別冊）」 p. 14-15

URL: http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/03/WS_bessatu160317_all.pdf

資料 8-1-③-3 キャリアポートフォリオに関する検討中の質問項目

A) 過去の自分史、自己診断の作成	
i. 過去の自分史 (高校まで)	
① 趣味や特技	
② 一番夢中になったこと	
③ 好きだった科目	
④ クラブ活動や友人との交流についての思い出	
⑤ 感動した出来事, 本, 映画, イベント	
⑥ 好きな言葉	
⑦ 将来の夢	
⑧ 理想としている人	
⑨ 周りの人に長所, 短所をどのように評価されているか	
⑩ この大学に進学した目的	
⑪ この学科を選んだ理由	
ii. 自己診断	
① 豊かな人間性 (感性や人間性の豊かさ)	
② 主体性 (物事に意欲をもって進んで取り組む力)	
③ チームワーク (相手の意見や立場の違いを尊重・理解し, 調和を図る力)	
④ リーダーシップ (他者に方向性を示し, 目標の実現のために人をまとめる力)	
⑤ 専門分野における知識や技術	
⑥ 専門知識や技術を実務に活かす力	
⑦ 論理的思考力	
⑧ 問題解決力 (問題を発見し解決する力)	
⑨ 創造力 (常識にとらわれず, 新しいアイデアや発想を生み出す力)	
⑩ 実行力 (目的を設定し, 確実にやりとげる力)	
⑪ 計画力 (目標達成に必要なプロセスを明らかにし, 計画する力)	
⑫ 発信力 (自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝える力)	
⑬ 情報リテラシー (情報機器を活用した情報収集力と分析力)	
⑭ コミュニケーションスキル (語学など国際化への対応能力)	
⑮ 異文化理解 (多様な文化を理解し, グローバルな視点から多面的なものごとを考える力)	
⑯ 社会的責任 (社会のために行動し, 貢献しようとする姿勢)	
⑰ 規律性 (社会の規範やルールに従って行動する力)	
B) 大学卒業後のキャリアプランの作成	
i. 働く目的	
ii. 卒業後に身につけていると予想する能力	
iii. 将来取り組みたい仕事	
iv. 仕事を通じて達成したい目標	
v. その他 (本人の自由記入欄)	
C) 在学中のプラン、実施状況の作成	
i. 課程で関心を持って取り組んだこと、取り組んでいること (科目名等, 理由, 得られたこと)	
ii. 課程で実施されるキャリア教育 (科目、インターンシップ等) の取り組み (同上)	
iii. 課外での学習歴 (教育機関、内容・目的, 得られたこと)	
iv. 課外での社会活動歴 (サークル、ボランティア、インターンシップ、アルバイト等) (内容、得られたこと、果たした役割、貢献したこと)	

(出典：岡山県立大学「教育年報2015」 p. 128～130

URL: http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/05/03_kyoikunempo2015-2bu.pdf)

資料 8-1-③-4 各学部教育に関する外部関係者の意見聴取状況

学部・学科	日程・期間等	概要
保健福祉学部	看護学科	毎年度 【臨地実習先】各実習が開始される時に、毎回事前打ち合わせを行っている (施設と教員間、病棟と教員間)。実習要項に基づき、実習の目的および学生の学習状況 (進度) を伝え、実習の充実を図っている。実習終了後は学生評価の報告および実習環境充実に向けて会議を開催している。
	栄養学科	毎年度 【臨地実習先】巡回指導および年に1回ずつの「総合演習」と実習発表会の際に、外部臨地実習指導者との意見交換を行なっている。
	保健福祉学科	毎年度 【臨地実習先】社会福祉学専攻における「ソーシャルワーク実習」の巡回指導の際、および年に1回ずつの実習指導者会議と実習発表会の際に、外部指導者との意見交

			換を行なっている。加えて介護福祉コースでは「介護実習」があり、その巡回指導の際に外部指導者との意見交換を行なっている。子ども学専攻では「教育実習」「保育実習」があり、その巡回指導の際に外部指導者との意見交換を行なっている。社会福祉学専攻関連では「公立大学協会の社会福祉学系連絡会」が、子ども学専攻関連では「公立保育士養成所長会議」があり、それぞれ年1回、他の公立大教員と教育上の課題について意見交換を行なっている。
情報工学部	H25. 12. 14 岡山大学 H26. 11. 30 岡山県立大学 H28. 1. 9 岡山理科大学		毎年、岡山県工学教育協議会主催の「岡山県工学教育協議会シンポジウム」において情報工学部の教育プログラムに関する講演を行い、他大学教員からの意見を聴取している。
デザイン学部	H24. 2. 23 H27. 7. 16 H27. 4月 ～28年1月		平成22～23年度文部科学省選定取組（大学生の就業力育成支援事業：「デザイナーの卵」 孵化推進教育プログラムについて学外関係者による外部評価委員会を実施し、意見聴取を行い、実施内容に関する評価と助言を受けた。 平成24～26年度文部科学省選定取組（産業界等との連携による中国・四国地域人材育成事業：仕事をデザイン創造する産学官連携人材育成事業）について、連携大学グループとして、外部評価委員よりそれぞれ意見聴取を行い、実施内容に関する評価と助言を受けた。 平成24～26年度文部科学省選定取組（同上）について、連携するサブグループ3（岡山理科大、山口理科大、岡山県立大学）間の連携協定を結び、連携大学間の相互授業参観を実施するなど、学外関係者からの意見聴取を行う。後継事業の平成27年度文部科学省選定取組（大学教育再生加速プログラム：インターンシップ等を通じた教育強化）においても、引き続き、地域インターンシップ等推進会議を通じて、インターンシップ等受入先企業からの意見聴取を定期的に行っている。

(出典：各学部長提供資料)

別添資料 8-1-③-I 教育研究審議会、経営審議会ならびに役員会規程（抜粋）

【分析結果とその根拠理由】

学外関係者からの意見聴取は、教育研究審議会、経営審議会ならびに役員会の中で意見等を聴取するとともに、各学部においても外部実習受入機関や専門教育分野の協議会及び学外評価者との会合等において行い、教育の質の向上に取り組んでいる。

また、卒業生や就職先企業・団体等へのアンケート調査の実施の中で、逐次、教育内容や指導における諸課題を把握し、継続的に改善を進めている。

以上のことから、学外関係者からの意見聴取が行われており、その意見が教育の質の改善・向上に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされていると判断する。

観点 8-2-①： ファカルティ・ディベロップメントが適切に実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

【観点到る状況】

本学の第2期中期計画における教育の質の改善に係る項目（前掲資料 8-1-①-3）のうち、FD活動、授業評価アンケートならびに教育年報の企画実施については、前掲資料 8-1-①-4 に示したとおり、その業務を評価委員会から大学教育開発センターへ移管しているが、資料 8-2-①-1 に示す取組状況の沿革のとおり、本学におけるファカルティ・ディベロップメント（以下、FD）活動は従来、授業評価アンケート、相互授業参観ならびにFD研修事業を三本柱として構成している。このうち授業評価アンケート（前掲資料 6-1-②-1）は教育内容や方法に関する学生からの意見聴取、相互授業参観は同僚教員からの意見聴取の役割を担っており、各々の結果の教育改善に向けた個々の教員へのフィードバック及び本学構成員における情報の共有を目的とする。授業評価アンケートにおいては学習成果の改善に向けたフィードバックにつなぐに課題を有しており、平成

29年度版シラバスの改訂と連携させて見直しを図ることとしている（前掲資料6-1-②-3）。また大学教育開発センターにおいては、入学生アンケートや大学院における修了時アンケート（前掲別添資料4-1-④-I、前掲資料6-1-②-7）の新設に伴い、入学から卒業・修了後までの学習成果やキャリア開発成果を連携させ、FD活動に活かすべく計画している（資料8-2-①-2）。相互授業参観については参観教員による意見等の集約を実施した（前掲別添資料8-1-①-Ⅲ）。さらに平成27年度はこれに加えて、全学的には初となる「授業改善意見交換会」が実施され、授業の準備から展開、評価、改善に至るプロセスについて、シラバスやアクティブ・ラーニングなど具体的テーマに応じた意見交換と情報共有が行われた（資料8-2-①-3）。

全学的なFD研修事業については、大学教育開発センター企画により平成26年度後期に全学研修会を2回実施（FD/SD及びFD研修会）したのち、平成27年度には新たな研修事業の3つの枠組（FD研修会・教育開発講座・ワークショップ）を設け、教育の質の改善・向上に向けた意識の共有とスキルアップを目的として、多岐にわたるテーマで計10回実施した（資料8-2-①-4）。FD研修会は全学的に有効性が高く構成員全員に参加を求めるものである。教育開発講座は大学教育開発センターの6部会の事業に関わる内容、ワークショップは部会における専門的な調査研究や提案に関する内容で一般の構成員の参加は任意である。参加実績は資料8-2-①-4のとおりであるが、FD研修会のみならず2例の教育開発講座において100名を超える参加があり、本学教職員のテーマへの関心の高さが窺えた。なお、FD研修会は全て事後アンケート調査を実施しており（別添資料8-2-①-I）、その概要はFD部会を中心に、企画した大学教育開発センターの部会ごとにまとめ、教育年報2015に公表している（URL: http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/05/00_kyoikunempo2015-zentai.pdf p. 81～p. 82、p. 100～p. 105、p. 119、p. 122～123、p. 135～p. 136）。

さらに本学では教育の質の改善・向上に向け、第2期中期計画（前掲資料8-1-①-3）に示すとおり、「教員の教育力向上等に直接結びつく調査、実践活動に対する学内競争的資金を充実させる」とし、平成21年度より教育力向上支援事業への申請について募集・審査し、平成27年度事業については21件を採択した。本事業は、観点3-1-④で述べたとおり、教員組織の教育における活動の活性化をねらい、優れた工夫改善の取組に対して支援するものであるが、審査にあたっては、必要性はもとより全学的に波及効果の高いセンターや学部等の取組について優先的に採択することとしている（資料8-2-①-5）。本事業の成果については、教育年報2015に掲載した。

FD研修事業については、教育力向上支援事業とともに公立大学政策・評価研究センターによる大学評価ワークショップにおいて、高い評価を受けた（前掲資料3-1-④-8、資料8-2-①-6）。

資料8-2-①-1 本学のFD活動沿革及び大学教育開発センター主催FD研修会の分類

1. 本学のFD活動：今迄の取組状況

年度	事項
平成15年度～	①授業アンケート評価開始 卒業時アンケート開始
平成16年度～	教育年報発行
平成18年度	キャップ（CAP）制の導入による適正な学修時間の確保
平成19年度～	②相互授業参観の実施
平成20年度～	③FD研修会の実施
平成21年度～	教育力向上支援事業の実施
平成23年度	授業と試験時間の分離による単位の実質化
平成25年度～	3ポリシー（AP・DP・CP）の全学的整備（定期見直し）
平成26年度～	大学教育開発センターの開設 GPAを用いた成績評価の試行（H27～実施） TOEICの全員受験 共通教育改革の立案と実施

3. センターFD・SD研修事業：実施形態

FD・SD研修会の3種別

	全学研修会	教育開発講座	センターワークショップ
開催主体	センター	部会&センター	部会&センター
内容	FD, FD・SD	FD, FD・SD	FD, FD・SD
開催頻度	2～3回/年	4～6回/年	6回/年
外部講師	○	○	○
内部講師	○	○	○
公開範囲	1.全学教職員（全員参加） 2.外部 3.学生	1.センター教職員 2.全学教職員 3.学生 4.外部	1.センター教職員 2.全学教職員 3.（学生） 4.（外部）
内容特徴	全学的に有効性の高いもの（考え方や仕組み）	各部会の事業に関わるもの	各部会の調査・研究成果、事業提案、FD研鑽等

（出典：平成27年度第2回大学評価ワークショップ（岡山県立大学）

「岡山県立大学プレゼンテーション資料（別冊）」 p. 6及び12

URL: http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/03/WS_bessatu160317_all.pdf)

資料8-2-①-2 各種アンケートの連携（要約抜粋）

本学のFDに関わるアンケートには、入学時アンケート、授業評価アンケート、学生生活アンケート、卒業時・修了時アンケート、卒業生・修了生アンケートがある。現在、これらのアンケートは全て大学教育開発センターの所掌となっており、従前の委員会から

の継承及び新設としてセンターの各部会が実施している。しかし、各アンケートの内容が相互的に吟味されていないため一貫性に欠け、分析や分析結果の学生、教職員へのフィードバックに支障をきたしている状況である。そのため、平成28年度から各アンケートを大学教育開発センターにおいて部会横断的に見直しを図り、改善する予定である。

(出典：岡山県立大学「教育年報2015」第2部p.116～117

URL：http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/05/03_kyoikunempo2015-2bu.pdf)

資料8-2-①-3 授業改善意見交換会の概要

授業改善意見交換会

(1) 目的及び実施概要

(目的) 相互授業参観活動を基に、具体的な授業の進め方や指導技術について意見交換・情報共有し、今後の授業改善に役立てる。

(実施概要) 開催日時：平成28年1月21日(木) 16:00～17:30 開催場所：岡山県立大学本部棟2階大会議室

参加者：各学科教員、事務局職員、大学教育開発センター員、計54名

プログラム：

- 1 開会 (尾崎FD部会長)
- 2 相互授業参観の実施結果報告 (山口、磯崎)
- 3 グループディスカッション (野宮)

テーマ：「よりよい授業づくりの方法とは」

- ・相互参観授業レポートの観点6項目より最大3項目を選び、「よりよい授業づくりの方法」をテーマにディスカッションする。
- ・ディスカッションし、内容、結果を模造紙にまとめる ・各班の代表者にて発表する

- 4 まとめ (田内大学教育開発センター長)
- 5 閉会 (尾崎FD部会長)

(2) グループディスカッションについて

所属混成による8班(各班6～7名)をグルーピングし、「よりよい授業づくりの方法」をテーマに班別のディスカッション(30分間)を行った。次に各班の代表者により、ディスカッションの結果を発表した(各班約3分)。



左:ディスカッション 右:発表 各風景

(出典：岡山県立大学「教育年報2015」第2部 p.105～111)

資料8-2-①-4 平成26、27年度 大学教育開発センター主催FD研修事業

日程	[FD及びFD/SD研修会] 主催：センター 頻度：年2～3回 公開範囲：全教職員(極力参加)・学生・外部	[教育開発講座] 主催：部会・センター 頻度：年5～10回/ 公開範囲：センター教職員・全教職員	[ワークショップ] 主催：部会・センター 頻度：年～12回 公開範囲：センター教職員・全教職員	備考 (関連部会等)	参加者数					
					保健福祉	情報工学	デザイン	事務局	学生学外	合計
H26. 12.4	FD/SD研修会 1部：『本学における組織改編と教育研究の効率化』(辻学長)『本学の大学教育開発センターの機能と必要性について』(田内センター長) 2部：『全学的な教育改革のための組織改編と教職協働～愛媛大学での経験から～』(小林直人・愛媛大学教育企画室長)			大学教育開発センターキックオフ研修会	48	29	34	43	0	154
H27. 1.16	FD研修会 『産業界ニーズGPにおける本学デザイン学部の取組概要』(森下教授(まか)) *テーマ：キャリア形成支援とFDの結合			キャリア形成支援部会・FD部会	53	29	39	7	0	128

H27. 5. 12		『岡山大学アドミッションセンターの十年』(佐竹恭介・岡山大学アドミッションセンター特任教授)		アドミッション部会	19	19	11	9	0	58
H27. 5. 25	FD 研修会『大学教育とアカデミ・デベロップメント』(アンソニー・T・インダ UC Davis 校教授)			教育企画室・FD 部会	35	34	27	25	5	126
H27. 6. 30		『広島大学における「クォーター制(4学期制)」の導入について』(小澤孝一郎・広島大学教育・国際室副理事)		教育評価部会・FD 部会	30	26	21	21	2	100
H27. 7. 14			『入試ワークショップ-全国大学入学者選抜研究連絡協議会・研究会参加報告』(榎原副センター長・佐藤主事, 吉原)	アドミッション部会	9	12	3	7	0	31
H27. 8. 28		『発達障害の理解と支援-これからの大学に求められること』(柘植雅義・筑波大学教授)		学生支援部会	29	15	12	24	38	118
H27. 9. 7		『スピーキングと多読学習に励む県大生-オープンボイス開発と英語高度化プロジェクト』(本学・松田教授ほか)		共通教育部会	10	5	3	9	6	33
H27. 9. 15			『アクティブ・ラーニングに関する本学の実施状況と今後の展開』(本学・中村光教授, 井上准教授, 森下教授)	FD 部会	17	9	8	7	0	41
H27. 11. 6		『「地域密着型大学発」のキャリア支援のこれからのカタチ』(法政大学キャリアデザイン学部・児美川孝一郎教授)		キャリア形成支援部会	23	15	13	7	4	62
H27. 12. 7		『「アクティブラーニング(能動的学習)型授業の意義・効果・始め方」~キャリア教育・生徒指導等を教科科目の授業に埋め戻す』(小林昭文・産業能率大学教授)		FD 部会	12	14	6	5	0	37
H28. 2. 5			『現代の学生の特質を踏まえたグローバル人材育成教育』(西村 眞・名古屋大学大学院経済学研究科教授)	教育企画室	19	9	10	11	5	54
H27. 10.	グローバルセミナー『英語で学ぶプロジェクト企画とマネジメント』(パシフィック&アトランティック PMイノベーション代表・田中弘氏) *特別プログラム *3日間			教育企画室			5	3	21	学生 (18)

注) 教育に関する学外研修等：公大協主催フォーラム・中国・四国地区大学教育研究会・大学コンソーシアム岡山(部会等)・他地域コンソーシアム・その他にセンターメンバーを中心に参加している。

(出典：平成27年度第2回大学評価ワークショップ(岡山県立大学)「実施ハンドブック」資料 p. 36

URL: http://kodaikyo.sakura.ne.jp/sblo_files/kodaikyo/image/00_E585ACE8A1A8_handbook.pdf#search=大学評価ワークショップ+ハンドブック+岡山県立大学)

資料 8-2-①-5 平成27年度教育力向上支援事業一覧

代表者所属	事業名
情報工学部 人間情報工学科	地域資源を活用したスポーツ授業の開発と効果検証
デザイン学部 デザイン工学科	使える役に立つ実践的な韓国語を身につける学習支援
保健福祉学部 栄養学科	共通教育と専門教育の連携によるグローバル社会に対応できる管理栄養士養成プログラムの開発
デザイン学部 デザイン工学科	建築・デザイン海外研修による国際交流推進と建築・教養教育の充実 2
保健福祉学部 看護学科	看護実践能力向上に向けたブレンディッドラーニングシステムの構築
保健福祉学部 看護学科	成人看護学急性期におけるシミュレーション教育効果の検証
保健福祉学部 看護学科	看護専門職のためのグローバル・ラーニングシステム構築
保健福祉学部 看護学科	精神保健活動の国際的理解と実践力の獲得支援
保健福祉学部 保健福祉学科	リアリティショックを克服し就業継続できる力量を有した保育者養成のプログラム開発
情報工学部 情報システム工学科	ものづくり関連授業の総合的理解度の向上に向けた教育方法の検討
情報工学部人間情報工学科	実用的課題の実験科目への導入とメカトロ教育への実践
デザイン学部 造形デザイン学科	ワークショップを活用した学生のキャリア形成プログラム
デザイン学部 造形デザイン学科	キャリア形成支援のためのポートフォリオセミナー及び企画提案力向上を目的とした教育プログラムの実施
保健福祉学部 保健福祉学科	岡山県立大学に適合した保健・医療・福祉の多専門職連携教育プログラムの開発
デザイン学部 デザイン工学科	デザイン学部・保健福祉学部学際的教育・初等教育施設に関する見学と講義
デザイン学部 デザイン工学科	ものづくり工房運営についての調査研究 3
デザイン学部 デザイン工学科	デザインパテントコンテストを活用した実践型創造力創出教育プログラムの開発
デザイン学部 造形デザイン学科	情報工学部・デザイン学部 合同による協働教育プログラムの実践
大学教育開発センター アドミッション部会	高校生のための大学授業開放
大学教育開発センター キャリア形成支援部会	キャリア形成支援を目的とする教育体制整備に関する調査研究
大学教育開発センター 学生支援部会 (学生相談室)	学生相談室業務の機能向上と情報発信のための環境整備
	計 9,400 (千円)

(出典：岡山県立大学「教育年報2015」第2部 p.149～168)

資料 8-2-①-6 大学教育開発センターFD研修事業の外部評価

<p>大学教育開発センターFD研修事業について</p> <p>提言(評価者の意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ FD 研修事業への教職員の参加者数が総じて多い(例えば第1回全学研修会は153名が参加)ことは、教育改善や学生支援に対する教員及び職員の意識が高いことの表れであり、高く評価できる。 ・ 大学教育開発センターを設置し、その中に6つの部会を設けたことにより、FD 研修事業を機動的かつ専門性を持って企画・実施するための体制が整備されたことは大きな前進である。今後は、FD 研修事業の効果を評価する仕組みを適切に構築し、教育改善のPDCA サイクルを機能させていくことが期待される。教育改善の成果は最終的には学生の実感に表れるものであり、学生が教育改善を実感できるようになることを期待したい。 ・ 教育改善に関する企画立案への職員の参画は、大学が組織的に教職協働を推進する取組みとして高く評価できる。 ・ 教職協働の推進にあたっては、職員の専門性の向上が重要であり、職員の学びを支援する仕組みを充実させることが望ましい。 ・ FD に学生を参加させることは、学生への授業評価アンケートでは得られない声を直接聞くことができ、同時に学生と教員との距離を縮めることにもつながるため、FD 活動の活性化に有効である。学生の FD 参加には工夫が必要になるが、学科単位等での実施であれば、学生も比較的参加しやすい。

(出典：平成27年度第2回大学評価ワークショップ(岡山県立大学)ピアレビュー p.2

URL: http://kodaikyo.sakura.ne.jp/sblo_files/kodaikyo/image/E7A2BAE5AE9A_160406_E5A4A7E5ADA6E38394E382A2E383ACE38393E383A5E383BCEFC88E5B2A1E5B1B1E79C8CE5A4A7EFBC89.pdf)

別添資料 8-2-①-I FD研修会アンケート集計結果 (一例)

【分析結果とその根拠理由】

本学のFD活動では、授業評価アンケート、相互授業参観ならびにFD研修事業を三本柱とし、平成27年度から大学教育開発センターの企画立案により実施しており、各々の活動について、構成員における改善に活かせるようフィードバックの工夫を計画し、実施している。相互授業参観後の意見交換会や各種のテーマに基づいたFD研修会では多数の参加とともに活発な意見交換がなされ、教育の質の向上や授業改善のためのヒントが教職員にもたらされている。教員におけるFD活動の自発的な活性化を促すための教育力向上支援事業においては、センターや学部等における全学共通から専門分野教育にいたる幅広い取組がなされている。FD研修事業及び教育力向上支援事業については、外部評価（大学評価ワークショップ）でも高い評価を受けている。

以上のことから、ファカルティ・ディベロップメントが適切に実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いていると判断する。

観点 8-2-②：教育支援者や教育補助者に対し、教育活動の質の向上を図るための研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

【観点到に係る状況】

本学では平成19年度の法人化後、平成22年度からプロパー職員の採用を行っており、本学が今後、社会や地域から期待される大学として発展していくためにとりわけその中核を担うことが期待されるプロパー職員を中心に、本学事務職員の能力開発を体系的・継続的に行うため研修計画を定めている（資料 8-2-②-1）。そこでは、日常業務において事務局各課及び班（後掲資料 9-2-①-3）の業務連携を図っていくOJTの他に、スキルアップのための階層別研修、大学職員としての知識修得としての学内全体研修、公立大学協会等が企画するSD研修などの外部研修ならびに教職合同研修が計画・実施されている。このうち教職合同研修では教学課職員等が継続的に各種のFD・SD研修に参加している（前掲資料 8-2-①-4）。また、同FD研修事業におけるアドミッション部会主催のワークショップではプロパー職員が講師を務める（前掲資料 8-2-①-4 H27.7.14「入試ワークショップ」）など、同センターにおける教職協働の効果が現れ始めており、教育支援者としての人材育成が進んでいる。

共通教育における語学教育科目や情報教育科目、学部教育における実験・実習科目などにおいては、TAの活用を進めている（前掲資料 3-3-①-3）。これらの教育補助者となる者には、共通教育部における教育推進室教員（語学や情報教育）や専門科目の授業担当教員が当該業務のオリエンテーション等において、継続的かつ適切な指導・助言を行い（資料 8-2-②-2）、教育補助者の資質の維持・向上に努めている。

資料 8-2-②-1 岡山県立大学 事務職員研修計画 2014 抜粋（3カ年計画）

階層別研修（スキルアップ）	新規採用プロパー職員
	<ul style="list-style-type: none"> ● 新規採用一次職員研修（自治研修所実施） 内容：新規採用職員として必要な知識や態度、仕事の進め方等について学ぶために、自治研修所が実施する新規採用職員一次研修を受講させる。 （接遇、コミュニケーション、人権、文書事務、情報公開・個人情報保護、危機管理等、本学事務職員として必要なカリキュラムのみ受講） 時期：4月上旬 対象：新規採用プロパー職員
階層別研修（スキルアップ）	主事・主任プロパー職員
	<ul style="list-style-type: none"> ● プレ主任級、プレ主幹級研修（自治研修所実施） 内容：事務職員としてキャリアを積む中で、昇任前に必要な問題解決力、構想力、コミュニケーション力等のスキルを身につけるために、自治研修所が実施するプレ主任級、プレ主幹級研修を受講させる。（原則3年の任期内に1講座を受講） 時期：随時 対象：（プレ主任級研修）主事プロパー職員、（プレ主幹級研修）主任プロパー職員

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">(大学職員としての知識習得)</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学内全体研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 内部講師による研修 内容：主に新たに本学事務局職員となった者を対象に、事務局長及び事務局職員が講師となり、大学事務職員としての心がまえや、本学事務職員として知っておくべきことを内容とした研修を実施する。 時期：4月上～中旬 対象：新規採用プロパー職員、新規派遣県職員、その他希望者(臨時職員含む) ● 外部講師による研修 内容：大学事務職員としての能力開発又は本学事務局の課題解決にポイントを絞った研修を年1～2回実施する。 (学生支援、大学改革、IR、大学におけるポートフォリオ等) 時期：閑散期(7月～8月) 対象：プロパー職員、県派遣職員、嘱託職員、臨時職員
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">外部研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 外部団体主催の研修 内容：大学に関する最先端の話題に触れたり、また各大学の事例を相互に学び合ったりすることができる場として、公大協、大学セミナーハウス等外部団体が主催する研修に参加させる。 時期：随時 対象：プロパー職員、県派遣職員
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">教職合同研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 教職合同研修 内容：本学の教員・職員が同じテーマ・課題について問題意識や共通認識を持つ場となる教職合同研修を実施する。 ※大学教育開発センターが設置された後は、FD・SD研修へ移行する。 対象：プロパー職員、県派遣職員

(出典：総務班提供資料)

資料8-2-②-2 TA指導の一例

<p>「情報システム工学科 実験・演習 Teaching Assistant (について) (学生配付資料) より抜粋</p> <p>TAの心得</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の業務内容を事前に担当教員に確認すること ○ 勤務時間が自分の履修する授業時間と重複しないこと ○ 仕事が過重な負担とならないよう事前に調整すること ○ 学生との対人関係に注意すること <ul style="list-style-type: none"> ・軽はずみな言動をしない ・清潔で誠実さを示す服装 ・身だしなみ ・言葉遣いに注意 (差別的な表現は厳禁) ・プライバシーの尊重 ・セクシュアルハラスメントに注意 ・学生の問題をTA個人で解決しようとしな ○ 授業内容に関して担当教員と綿密に打ち合わせること ○ 事前に機器の操作方法を熟知しておくこと ○ 実験・実習等では事故が起こらないよう機器の取り扱い方、危険物への対応・処理方法を周知させること
--

(出典：情報工学部情報システム工学科 提供資料)

【分析結果とその根拠理由】

事務職員については教学課職員を中心に、日常業務における教務系情報の共有や各種の研修を通して、教育支援者としての資質の向上を図っている。TA等の教育補助者については、教育推進室担当教員や授業担当教員が、準備教育や継続的な指導・助言を実施している。

以上のことから、教育支援者及び教育補助者に対して、教育活動の質の向上を図るための研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われていると判断する。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- ・本学では、教育の質の改善・向上を図るため、平成27年度に大規模な組織再編を行い、なかでも大学教育開発センターでは今日の大学教育における主要課題を念頭にテーマ化し、FD・SD研修事業として実施することを通じて、教職員における教育の質の改善・向上への意識の高揚を図っており、全体研修会において参加者数が多い点が公立大学政策・評価研究センターによる外部評価におけるピアレビューで高く評価されている。
- ・教育力向上支援事業の各種取組等を通じて、個々の教員における教育改善の取組を継続的に支援している。
- ・学習成果を中心テーマとしたさらなる改善については、平成28年度計画における課題等へ反映するなど、継続的な改善・向上に向けた取組を進めている。

【改善を要する点】

・教育の内部質保証のため、授業評価アンケート、シラバス等、学習成果を客観的かつ厳格に評価する視点による大がかりな改訂作業が必要であることから、これを平成28年度に計画しており、各種アンケートを連携させながら、遅滞なく教育改善に活かせるよう実施する。

基準 9 財政基盤及び管理運営

(1) 観点ごとの分析

観点 9-1-①：大学の目的に沿った教育研究活動を適切かつ安定して展開できる資産を有しているか。また、債務が過大ではないか。

【観点到に係る状況】

教育研究活動に必要な平成 27 年度末での資産は、資料 9-1-①-1 のとおり固定資産及び流動資産の合計が 116 億 2 千 2 百万円となっている。建物及びその他（構築物、機械装置等）の資産の額に減少が見られるが、全て減価償却によるもので、特に建物については、平成 5 年の開学以降、情報工学部教育・研究棟、学部共通棟（講義棟）等の増設を行い、教育の充実を図るとともに、施設の大規模改修については、岡山県から施設等整備事業費補助金の交付を受け、平成 25 年度から計画的に実施（別添資料 9-1-①-I）している。また、図書については、必要性を精査しながら、計画的に購入・除籍を行い、現状の保管量を確保している。

平成 27 年度末での負債は、固定負債及び流動負債の合計が 25 億 3 千 2 百万円となっているが、この中で実質的な債務といえるものは、情報工学部教育・研究棟に係るリース債務 2 千 6 百万円である（資料 9-1-①-1）。

なお、平成 23～27 年度の財務諸表は、資料 9-1-①-2 のとおりである。

資料 9-1-①-1 過去 5 年間の資産、負債及び資本の推移 (単位：百万円)

	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	備 考
固定資産	10,651	10,627	10,683	10,942	10,283	
土地	3,962	3,962	3,962	3,962	3,962	
建物	5,154	5,075	4,984	4,839	4,673	
図書	1,153	1,171	1,186	1,188	1,203	
長期性預金		100	280	680	200	
その他	382	319	271	273	245	
流動資産	1,114	1,143	1,054	862	1,338	
現金及び預金	1,103	1,132	1,044	832	1,315	
その他	11	11	10	30	23	
固定負債	2,185	2,090	2,069	2,031	1,962	
資産見返負債	1,876	1,933	1,929	1,908	1,856	
長期寄附金債務	216	80	80	80	80	
長期未払金	93	77	60	43	26	
流動負債	496	483	408	539	570	
未払金	307	418	276	372	383	
預り金（補助金等含む。）	30	39	38	40	39	
その他	159	26	94	127	148	
資本合計	9,084	9,197	9,260	9,234	9,090	
資本金	12,092	12,092	12,092	12,092	12,092	
資本剰余金	6	6	71	139	202	
損益外減価償却累計額	△3,473	△3,648	△3,825	△4,007	△4,194	
利益剰余金	459	747	922	1,010	990	

(出典：貸借対照表)

資料 9-1-①-2 平成 23～27 年度財務諸表

http://www.oka-pu.ac.jp/index.php?page_id=1169

(出典：大学ホームページ「大学情報」)

別添資料 9-1-①-I 公立大学法人岡山県立大学施設等整備事業費補助金交付要綱

【分析結果とその根拠理由】

資産については、大学運営の基本となる土地、建物及び教育研究機器等は全て学内に保有・設置しており、教育研究活動を安定して遂行できる状況にある。また、開学から 23 年が経過しており、今後、施設老朽化による大規模改修が想定されるが、岡山県が定めた「公立大学法人岡山県立大学施設等整備事業費補助金交付要綱」（前掲別添資料 9-1-①-I）により大規模な施設改修を計画的に進めていくこととしている。

負債については、固定負債及び流動負債の合計で、例年約 2500 百万円程度計上されているが、この中で、実質的な負債といえるものは、長期未払金として計上された情報工学部教育・研究棟の長期リース債務（平成 27 年度末で 26 百万円）のみであり、過大な債務を抱える状況にはない。

以上のことから、本学の目的に沿った教育研究活動を適正かつ安定して展開できる資産を有しており、債務も過大でない判断する。

観点 9-1-②：大学の目的に沿った教育研究活動を適切かつ安定して展開するための、経常的収入が継続的に確保されているか。

【観点に係る状況】

本学の収入の主なものは、岡山県からの運営費交付金、学生納付金及び学外からの受託による外部研究費等で構成されており、過去 5 年間の収支の推移等（資料 9-1-②-1～2）のとおりである。

このうち、全収入の 3 分の 2 弱を占める運営費交付金については、岡山県から「県立大学は、県への財政的依存度を小さくして、自立的運営に努めるべき。」として、第 2 期中期計画期間中における運営費交付金削減計画（資料 9-1-②-3）が示されており、予算の計画的な執行や経費の削減を図る一方で、重点分野への戦略的な予算配分を行う等、教育研究活動に支障のないよう、予算の配分に努めている。

また、全収入の 3 分の 1 を占める学生納付金については、進学説明会、オープンキャンパス等を実施することで学生確保に努めるとともに、外部研究費（資料 9-1-②-4）については、外部資金の継続的な確保を目的に科学研究費助成事業やその他競争的資金の申請を奨励するとともに、企業との共同研究、受託研究等を進めるため、産学官連携活動を通じたコーディネート業務を積極的に行っている。

資料 9-1-②-1 過去 5 年間の収支の推移

(単位:百万円)

	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	備考
収入	3,403	3,529	3,493	3,557	3,550	
運営費交付金	2,105	2,105	2,102	2,151	2,112	○運営費交付金削減 岡山県行財政構造改革 ～H25 年 3 月
学生納付金	1,163	1,151	1,135	1,143	1,116	○第 2 期中期計画の取組期間 H25 年 4 月～31 年 3 月
外部研究費等	63	59	85	72	103	
その他	72	214	171	191	219	
支出	3,233	3,382	3,251	3,453	3,531	
教育研究費	774	761	685	730	775	○人件費削減（給与カット） 岡山県行財政構造改革 ～H25 年 3 月
人件費	1,999	2,122	2,094	2,216	2,244	
一般管理費	391	442	290	308	315	東日本大震災 H25 年 7 月～26 年 3 月
外部研究費等	69	57	79	75	91	
施設費			103	124	106	施設大規模改修（H25～）

※ 各年度の決算報告書による。

(出典：決算報告書)

資料 9-1-②-2 平成 23～27 年度決算報告書

http://www.oka-pu.ac.jp/index.php?page_id=1169

(出典：大学ホームページ「大学情報」)

資料 9-1-②-3 運営費交付金削減計画

(単位：百万円)

計画期間・年度 交付金内訳	第 1 期		第 2 期				
	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度
通常分 ※対前年削減額、上記の内数	2,105	2,000 (△105)	1,960 (△40)	1,920 (△39)	1,882 (△38)	1,844 (△37)	1,807 (△36)
給与カット復元		102	162	162	162	162	162
消費税影響緩和措置			30	29	29	28	28
計	2,105	2,102	2,151	2,112	2,073	2,035	1,998

※ 端数処理のため交付金内訳の合計と計が一致しないことがある。

(出典：経理班提供資料)

資料 9-1-②-4 過去 5 年間の外部資金受入額の推移

(単位：千円)

名 称	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
共同研究	8,338	10,288	20,928	24,536	31,649
受託研究	40,633	35,514	43,923	32,592	52,959
教育研究奨励寄附金等	20,873	16,072	25,453	25,787	18,153
科学研究費助成事業	54,690	65,176	63,000	68,200	63,550
計	124,444	127,050	153,304	151,115	166,311

(出典：企画広報室提供資料)

【分析結果とその根拠理由】

第 2 期中期計画期間の運営費交付金削減計画を学内に示し、継続的な運営が行えるよう歳出経費の徹底した見直しを行い、収支の均衡を図りながら計画的かつ弾力的な予算編成を行っており、ここ数年の収支（資料 9-1-②-1）を見ると、収入総額が支出総額を常に上回る状況である。

また、学生納付金では、一部の大学院研究科を除けば定員を充足しており、安定した確保が見込まれるとともに、外部資金獲得では、過去 5 年間の外部資金受入額の推移（資料 9-1-②-4）のとおり、ここ数年は増加傾向にある。これまでの計画的な予算執行や経費節減、また、積極的な外部資金獲得に関する意識が教職員に浸透してきたものと思われる。

今後、第 3 期中期計画期間中の運営費交付金について岡山県と協議していくとともに、引き続き施設の大規模改修に関する岡山県の支援（資料 9-1-②-1）を求めることとしている。

以上のことから、これまでどおり、経費削減の取組を行うとともに、弾力的な運営を進めることで、現状の収支を保っていくことは可能であり、本学の目的に沿った教育研究活動を適切かつ安定して展開するための経常的収入が、継続的に確保されていると判断する。

観点 9-1-③：大学の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、収支に係る計画等が適切に策定され、関係者に明示されているか。

【観点到に係る状況】

公立大学法人として、設立者（岡山県）が定めた第 2 期中期目標に基づいて第 2 期中期計画期間内（平成 25～30 年度）に達成すべき計画とその予算、収支計画及び資金計画を作成し、岡山県知事の認可を受けている。また、この計画に基づき、各年度の年度計画を作成し、大学組織の総務委員会に諮問し、法人組織である経営審議会及び役員会の議を経て理事長が最終決定している。

関係者への周知方法として、総務委員会の議事録を学内ホームページに掲載するとともに、経営審議会及び役員会の議事録、年度計画等は本学ホームページに掲載（資料 9-1-③-1）し、広く学外者にも公表している。

資料9-1-③-1 第2期中期目標、第2期中期計画、平成28年度年度計画、平成27年度に係る業務の実績に関する報告書

http://www.oka-pu.ac.jp/index.php?page_id=1169#university_list02

(出典：大学ホームページ「大学情報」)

別添資料9-1-③-I 平成28年度経費の執行について

別添資料9-1-③-II 平成28年度当初予算編成に伴う予算資料の作成について

【分析結果とその根拠理由】

収支に係る計画等（中期計画の収支、年度計画の収支及び予算編成）の策定は、法令等に基づいて適正な処理が行われている。また、収支の計画等と並行して、業務の計画等（中期計画、年度計画）においても、大学組織の部局長会議で調整し、法人組織の教育研究審議会で審議しており、収支と業務の両面から、中期計画期間を見通した計画を策定している。また、各学部・学科等の学内組織との調整を行う中で、情報共有を図りながら意見聴取を行っている。

また、こうした収支に係る計画等の策定にかかる審議状況等は、学内外向けホームページに公表するとともに、教職員には文書等により情報提供（別添資料9-1-③-I～II）を行っている。

以上のことから、本学の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、収支に係る計画等が適切に策定され、関係者に明示されていると判断する。

観点9-1-④： 収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

【観点に係る状況】

本学における過去5年間の損益の推移は、資料9-1-④-1に示すとおりとなっており、平成27年度を除き各年度において経常収益が経常費用を上回っており、経常収支における過大な支出超過は発生していない。

資料9-1-④-1 過去5年間の損益の推移 (単位：千円)

科目名称	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
経常費用	3,269,115	3,353,590	3,290,900	3,434,339	3,525,609
経常収益	3,370,232	3,500,495	3,473,989	3,521,489	3,505,874
経常利益(A)	101,117	146,905	183,089	87,150	△19,735
臨時損失(B)				349	4,353
臨時利益(C)		141,168		349	4,353
目的積立金取崩(D)					30,643
当期総利益(A-B+C+D)	101,117	288,073	183,089	87,150	10,908

(出典：損益計算書)

【分析結果とその根拠理由】

過去5年間における収支状況については、経常費用と経常収益は概ね均衡がとれており、毎年度、当期総利益を計上している。

以上のことから、収支の状況において、過大な支出超過となっていないと判断する。

観点9-1-⑤： 大学の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む。）に対し、適切な資源配分がなされているか。

【観点に係る状況】

本学では、当初予算の編成にあたり、予算編成方針を作成し、総務委員会、経営審議会及び役員会の審議を経て、理事長が予算を決定している。また、第2期中期計画の基本方針である「共通教育における教養教育の充実」、

「国際交流を通じたグローバル教育の推進」、「戦略的な地域貢献の取組の推進」の各分野への新たな取組について、「新規重点枠」事業として実施している。さらに、教員の研究活動推進に係る戦略的・機動的な経費として「特別研究費」を確保している。どちらも学内公募を行い、学内理事会で審査の上、学長が採否を決定し、予算配分している。

資料 9-1-⑤-1 新規重点枠事業及び特別研究費の予算配分状況 (単位：千円)

区 分	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
新規重点枠	—	—	—	29,572	19,098
特別研究費	87,250	54,450	40,670	49,143	49,988

(出典：企画広報班及び経理班提供資料)

【分析結果とその根拠理由】

学内予算の配分に当たっては、教育研究の基盤的な経費を確保しつつ、学長のリーダーシップにより、戦略的・機動的に配分する経費を確保し、教育研究活動を推進するために必要な予算として適切に資源配分している。

以上のことから、本学の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む。）に対し、適切な資源配分がなされていると判断する。

観点 9-1-⑥： 財務諸表等が適切に作成され、また、財務に係る監査等が適正に実施されているか。

【観点に係る状況】

地方独立行政法人法等に基づき、財務諸表等を作成し、会計監査人及び監事の監査を受けた後、事業年度終了後 3 月以内に県知事に提出し、承認を受けている（資料 9-1-⑥-1）。会計監査人の監査については、県知事から選任された監査法人と本学との間で監査契約を締結し、期中及び期末監査を受けている。

なお、会計監査人及び監事の監査結果は、財務諸表と併せて監査報告書として本学ホームページ (http://www.oka-pu.ac.jp/index.php?page_id=1169) に掲載し、広く公表している。

資料 9-1-⑥-1 岡山県立大学会計規程（抜粋）

(年度決算)

第 38 条 経理責任者は、毎事業年度終了後、速やかに決算のための必要な整理を行ったうえで、法第 34 条第 1 項及び同条第 2 項に規定する財務諸表及び決算報告書等(以下「財務諸表等」という。)を作成し、理事長に提出しなければならない。

2 理事長は、財務諸表等を経営審議会で審議のうえ、役員会の議を経て、決定するものとする。

3 理事長は、前項の規定により承認を受けた財務諸表等について、会計監査人の監査及び監事の監査を受けなければならない。

(決算報告)

第 39 条 理事長は、財務諸表等に会計監査人及び監事の意見を付し、毎年 6 月 30 日までに岡山県知事に提出しなければならない。

(出典：岡山県立大学会計規程)

URL：<http://www.oka-pu.ac.jp/kiteidata/act/frame/frame11000015.htm>

【分析結果とその根拠理由】

法律に基づく手続きにより財務諸表等を適切に作成するとともに、会計監査人及び監事の監査が適切に実施されている。また、これらの監査報告書はホームページに掲載され、公表されている。

以上のことから、財務諸表等が適切に作成され、また、財務に係る監査等が適切に実施されていると判断する。

観点 9-2-①： 管理運営のための組織及び事務組織が、適切な規模と機能を持っているか。また、危機管理等に係る体制が整備されているか。

【観点に係る状況】

本学は、役員として理事長(学長兼務)、副理事長(事務局長兼務)、理事 3 名(うち 2 名は副学長兼務)、監事 2 名を置いている。

管理運営組織として、理事長、副理事長、理事3名、監事2名からなる役員会のほか、理事長、副理事長、理事1名、学外有識者4名からなる経営審議会、理事長、副理事長、理事2名、学外有識者2名、部局長等の教員6名からなる教育研究審議会を設置し、それぞれの組織の議決又は審議事項は、定款に定めている(資料9-2-①-1~2、前掲別添資料8-1-①-II)。

管理運営に携わる事務部門として2課1室で組織する事務局を設置し、それぞれの事務分掌に応じ、連携を取りながら業務運営を行っている(資料9-2-①-3、前掲別添資料3-3-①-I)。

危機管理体制については、危機管理規程を定め、学長、事務局長、部局長等の教員7名からなる危機管理委員会において、危機管理に関する事項を審議している(資料9-2-①-4)。

また、本学における教育、研究、社会貢献等の諸活動において、その円滑な遂行に支障を生じることが想定される大規模な災害、各種の事故・事件等様々な事象に伴う危機に迅速に対応するため、内容に応じて具体的対応を詳細に定めた個別マニュアルの整備を進めている。

また、研究機関における公的研究費の管理・監査及び研究活動における不正行為への対応等に関する文部科学省のガイドラインの改正を機に、想定されるリスクの防止及び発生した場合の対応について、平成27年度に規程等を整備し、各種取組に着手した。

公的研究費の管理・監査については「岡山県立大学における研究費の不正使用防止等に関する規程」を(資料9-2-①-5)、また、研究活動における不正行為への対応等については「岡山県立大学の研究活動における不正行為防止等に関する規程」を整備し(資料9-2-①-6)、責任体制を明確化するとともに、不正使用及び不正行為を事前に防止するための取組について規定し、平成27年度は、関係教職員を対象に「コンプライアンス及び研究倫理教育研修会」を学術研究推進センターが企画・実施した。また、当該事案について、告発等があった場合の実施体制及び対応措置についても規定しており、これらの取組及び体制を本学ホームページで公表している(資料9-2-①-7)。

資料9-2-①-1 岡山県立大学定款 (抜粋)

<p>(定数)</p> <p>第8条 法人に、次の役員を置く。</p> <p>(1) 理事長 1人</p> <p>(2) 副理事長 1人</p> <p>(3) 理事 3人以内</p> <p>(4) 監事 2人</p> <p>第2節 役員会 (設置及び構成)</p> <p>第13条 法人に役員会を置き、理事長、副理事長及び理事をもって構成する。</p> <p>第3章 審議機関</p> <p>第1節 経営審議会 (設置及び構成)</p> <p>第17条 法人に、法人の経営に関する重要事項を審議する機関として、経営審議会を置く。</p> <p>2 経営審議会は、委員7人以内で組織し、経営審議会の委員は、次に掲げる者をもって構成する。</p> <p>(1) 理事長</p> <p>(2) 副理事長</p> <p>(3) 理事長が指名する理事又は職員</p> <p>(4) 法人の役員又は職員以外の者で大学に関し広くかつ高い識見のあるものうちから、理事長が任命する者</p> <p>第2節 教育研究審議会 (設置及び構成)</p> <p>第22条 法人に、県立大学の教育研究に関する重要事項を審議する機関として、教育研究審議会を置く。</p> <p>2 教育研究審議会は、委員15人以内で組織し、教育研究審議会の委員は、次に掲げる者をもって構成する。</p> <p>(1) 学長となる理事長</p> <p>(2) 副理事長</p> <p>(3) 学長となる理事長が指名する理事</p> <p>(4) 学部、研究科その他の教育研究上の重要な組織の長のうち、法人の規程で定める者</p> <p>(5) 学長となる理事長が指名する職員</p> <p>(6) 法人の役員又は職員以外の者で大学の教育研究に関し広くかつ高い識見を有するものうちから、学長となる理事長が任命する者</p>
--

(出典：岡山県立大学定款 URL: <http://www.oka-pu.ac.jp/kiteidata/act/frame/frame11000001.htm>)

資料 9-2-①-2 役員会、経営審議会、教育研究審議会の議決・審議事項

役員会(議決事項)
<p>第 16 条 次に掲げる事項は、役員会の議を経なければならない。</p> <p>(1) 中期目標についての意見(地方独立行政法人法(平成 15 年法律第 118 号。以下「法」という。)第 78 条第 3 項の規定により知事に対し述べる意見をいう。以下同じ。)並びに中期計画(法第 26 条第 1 項に規定する中期計画をいう。以下同じ。)及び年度計画(法第 27 条第 1 項に規定する年度計画をいう。以下同じ。)に関する事項</p> <p>(2) 法により知事の認可又は承認を受けなければならない事項</p> <p>(3) 学則及び特に重要な規程の制定又は改廃に関する事項</p> <p>(4) 予算の作成及び執行並びに決算に関する事項</p> <p>(5) 大学、学部、学科その他の重要な組織の設置又は廃止に関する事項</p> <p>(6) 職員の人事に関する方針及び基準に係る事項</p> <p>(7) 自ら行う点検及び評価に関する事項</p> <p>(8) その他役員会が定める重要事項</p>
経営審議会(審議事項)
<p>第 21 条 経営審議会は、次に掲げる事項を審議する。</p> <p>(1) 中期目標についての意見に関する事項のうち、法人の経営に関するもの</p> <p>(2) 中期計画及び年度計画に関する事項のうち、法人の経営に関するもの</p> <p>(3) 学則(法人の経営に関する部分に限る。)、会計規程、役員に対する報酬及び退職手当の支給の基準、職員の給与及び退職手当の支給の基準その他の経営に係る重要な規程の制定又は改廃に関する事項</p> <p>(4) 予算の作成及び執行並びに決算に関する事項</p> <p>(5) 組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項</p> <p>(6) その他法人の経営に関する重要事項</p>
教育研究審議会(審議事項)
<p>第 26 条 教育研究審議会は、次に掲げる事項を審議する。</p> <p>(1) 中期目標についての意見に関する事項(法人の経営に関するものを除く。)</p> <p>(2) 中期計画及び年度計画に関する事項(法人の経営に関するものを除く。)</p> <p>(3) 学則(法人の経営に関する部分を除く。)その他の教育研究に係る重要な規程の制定又は改廃に関する事項</p> <p>(4) 教員の人事に関する方針及び基準に係る事項</p> <p>(5) 教育課程の編成に関する方針に係る事項</p> <p>(6) 学生の円滑な修学等を支援するために必要な助言、指導その他の援助に関する事項</p> <p>(7) 学生の入学、卒業又は課程の修了その他学生の在籍に関する方針及び学位の授与に関する方針に係る事項</p> <p>(8) 教育及び研究の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項</p> <p>(9) その他県立大学の教育研究に関する重要事項</p>

(出典：岡山県立大学定款)

資料 9-2-①-3 事務職員配置状況(平成 28 年 5 月 1 日現在)

	事務局長等	企画広報室	総務課	教学課	附属図書館	COC+推進室
事務職員	2	7	14	15	2	2

(出典：総務班提供資料)

資料 9-2-①-4 危機管理委員会の審議事項

<p>第 7 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。</p> <p>(1) 危機管理体制の整備に関すること</p> <p>(2) 危機管理ガイドラインの策定等に関すること</p> <p>(3) 危機管理マニュアルの策定等に関すること</p> <p>(4) 危機管理教育、研修の企画・立案及び訓練の実施に関すること</p> <p>(5) 危機管理対策の評価及び見直しに関すること</p> <p>(6) その他危機管理に関し必要とする事項</p>
--

(出典：岡山県立大学危機管理規程)

URL: <http://www.oka-pu.ac.jp/kiteidata/act/frame/frame110000117.htm>

資料 9-2-①-5 岡山県立大学における研究費の不正使用防止等に関する規程(抜粋)

<p>(不正使用防止計画の策定・実施)</p> <p>第 11 条 統括管理責任者は、不正使用を未然に防止するため、不正使用を発生させる要因を把握し、個々の発生可能性と深刻度の状況等を分析することにより不正使用防止計画を策定し、これを実施し、その実施状況を最高管理責任者に報告する。 (研究費の適正な管理運営)</p> <p>第 12 条 研究費は、前条の不正使用防止計画を踏まえ、次のとおり適正に管理運用する。</p> <p>(1) 予算の執行状況を検証し、予算執行が著しく遅れている場合は改善策を講じる。</p>
--

<p>(2) 発注段階で支出財源を把握する。</p> <p>(3) 取引業者から次の事項を盛り込んだ誓約書の提出を求める。ただし、特に必要がないと統括管理責任者が認めた場合はこの限りでない。</p> <p>ア 本学の規程等を遵守し、不正使用に関与しない。</p> <p>イ 内部監査、その他調査等において、取引帳簿の閲覧・提出等に協力する。</p> <p>ウ 不正が認められた場合は、取引停止を含むいかなる処分を講じられても異議を持たない。</p> <p>エ 研究費執行者から不正使用に関する依頼があった場合は通報する。</p> <p>(4) 発注・検収業務は、事務局が実施し、研究者以外の者によるチェックを行う。ただし、特に必要がないと統括管理責任者が認めた場合はこの限りでない。</p> <p>(5) 特殊な役務に関する検収、非常勤雇用者の雇用管理その他の特別な管理運用が必要な場合は、実効性のある明確なルール等を設ける。</p> <p>(内部監査の実施)</p> <p>第13条 不正使用発生の抑止力とするため、公的研究費等にかかる内部監査の体制等を整備し、内部監査を実施する。</p> <p>2 内部監査は、会計事務の専門的知識を有する者及び研究活動に精通した者（監査の対象となる研究費執行者を除く。）により行う。</p> <p>3 内部監査は、書類等の形式的要件のチェック以外に、検収体制、情報伝達体制等の可否について審査する。</p> <p>4 内部監査の実施に必要な事項は、別に定める。</p>
--

(出典：岡山県立大学における研究費の不正使用防止等に関する規程

URL：<http://www.oka-pu.ac.jp/kiteidata/act/frame/frame110000279.htm>

資料9-2-①-6 岡山県立大学の研究活動における不正行為防止等に関する規程(抜粋)

<p>(責任体系)</p> <p>第3条 不正行為防止等に関する責任者を学長とし、当該事項に関する審議は、岡山県立大学委員会設置規程別表1に規定する総務委員会が所掌する。</p> <p>2 学長は、不正行為防止に関する計画の策定及び啓発活動を行う。</p> <p>3 学長に事故があるとき、又は欠員のときは、教育研究開発機構長がその職務を行う。</p> <p>4 学長は、本学の研究活動上における研究者の役割及び責任を明確にし、別途定める。</p> <p>(研究倫理教育の実施)</p> <p>第4条 学長は、不正行為を事前に防止し、公正な研究活動を推進するために研究者に求められる倫理の修得等のための教育（以下「研究倫理教育」という。）を実施し、研究者の基本的責任、研究活動に対する研究者の行動規範、研究分野の特性に応じて守るべき作法（研究データとなる実験・観察ノート等の記録媒体の作成、資料の保管や実験試料・試薬の保存、論文作成の際の各研究者間における役割分担・責任関係の明確化等）等の知識や技術を提供する。</p> <p>2 各学部の研究倫理教育責任者として保健福祉学部長、情報工学部長及びデザイン学部長を充て、全ての研究者を対象に研究倫理教育を最低でも3年に1回以上行う。</p> <p>3 研究倫理教育責任者に事故があるとき、又は欠員のとき、学長は、当該研究倫理教育責任者が所属する学部から適任者を指名し、その職務を行わせる。</p>
--

(出典：岡山県立大学の研究活動における不正行為防止等に関する規程

URL：<http://www.oka-pu.ac.jp/kiteidata/act/frame/frame110000280.htm>

資料9-2-①-7 研究費の不正使用及び研究活動における不正行為への対応

http://www.oka-pu.ac.jp/index.php?page_id=18237

(出典：大学ホームページ「大学情報」)

【分析結果とその根拠理由】

管理運営のための組織として、役員会、経営審議会及び教育研究審議会が置かれ、業務に応じて人員を配置するなど、機能の確保に努めている。また、事務組織についても、業務を遂行するのに適切な人員を確保している。

危機管理等については、危機管理規程を定め、大規模な災害、事故、事件等様々な事象に対応する個別マニュアルの整備を進めている。また、公的研究費の不正使用や研究倫理に関する規程を整備し、大学全体で法令遵守に取り組む体制となっている。

以上のことから、管理運営のための組織及び事務組織が、適切な規模と機能を持っており、危機管理等に係る体制が整備されていると判断する。

観点9-2-②：大学の構成員（教職員及び学生）、その他学外関係者の管理運営に関する意見やニーズが把握され、適切な形で管理運営に反映されているか。

【観点到る状況】

教員の管理運営に関する意見やニーズについては、教授会や学科会議、各委員会において把握に努めている。

この他に、学長と副学長が教授会に出向いて、直接、教員との意見交換を実施し、把握に努めている。

事務職員については、各種委員会等の事務局を担当し、委員との協議を通じて、適正な事務手続等について意見を述べているほか、毎月開催する班長会議や職員へのヒアリングなどにより、日常業務に係る意見やニーズの把握に努めている。

学生からの意見やニーズについては、キャンパスマネージャー(学生生活企画提言委員)からの提言や学生生活アンケートにより、把握に努めている。このほか、オフィスアワーやアドバイザー制度、学生支援室(ほっとルーム)を活用し、きめ細やかな対応をとっている。

留学生については、留学生連絡会議や国際交流センターを通じて、把握に努めている。

学外関係者からの意見については、全学的には経営審議会や教育研究審議会、役員会に学外有識者を委員等にあてるほか、岡山県地方独立行政法人評価委員会での質疑応答において、また、オープンキャンパスや公開講座等でのアンケートを通じて、大学に関する様々な方から意見やニーズの把握に努めている。

これらにより把握した意見やニーズは、各委員会等で共有・検討し、中期計画や年度計画、事務事業等に盛り込むなど、適切に管理運営に反映させている。

【分析結果とその根拠理由】

教職員に関しては、意見やニーズを把握するための組織体制を確立している。また、学生及びその他学外関係者に関しても、意見やニーズを把握し、対応するための組織体制・方策が整備されており、把握した意見やニーズのうち、必要と判断するものについては、速やかに検討し、管理運営に反映している。

以上のことから、大学の構成員(教職員及び学生)、その他学外関係者の管理運営に関する意見やニーズが把握され、適切な形で管理運営に反映していると判断する。

観点 9-2-③： 監事が置かれている場合には、監事が適切な役割を果たしているか。

【観点に係る状況】

本学は、監事2名(非常勤)を置き、公立大学法人岡山県立大学監事監査規程に基づき、毎年度監査計画書を作成し、理事長に提出している(資料9-2-③-1)。監事は、役員会や経営審議会等の重要な会議へ出席し、法人の経営及び業務運営の状況、中期計画・年度計画の進捗状況、予算の執行状況、会計監査人の監査報告を受けての財務諸表や決算報告書の確認など業務監査及び会計監査を実施している。監事は、監査の結果に基づいて、毎年監査結果報告書を理事長に提出している(資料9-2-③-2)。

これまで監事から、経理処理、コンプライアンス等についての指導・助言を受け、事務処理規程の一部改正を行った。

資料 9-2-③-1 監査計画書

平成 26 年度公立大学法人岡山県立大学監事監査計画 (平成 26 年 8 月 22 日決定)

- 1 監査の基本方針

公立大学法人岡山県立大学監事監査規程(以下「監事監査規程」という。)に基づき、本法人の業務運営及び会計経理の適正かつ効率的な運営に資するため、会計監査人監査と連携して監査を実施する。
- 2 監査項目

監事監査規程第4条に掲げる事項のうち次の項目を重点監査項目とする。

 - (1) 業務監査
 - ① 大学運営について
 - ・ 中期計画、年度計画に定める業務の実施状況
(教育研究等の質の向上に関する計画並びに業務運営の改善及び効率化に関する計画の実施状況)
 - ・ 部局運営状況(組織運営、学長裁量経費等)
 - ② 組織、施設管理について
 - ・ 人件費削減及び効率的な組織体制整備に向けた取組状況
 - ③ 外部研究資金について
 - ・ 科学研究費ほか外部研究資金の内部統制状況
 - (2) 会計監査
 - ① 予算執行状況
 - ② 資産・負債管理状況
 - ③ 決算に関する事項

<p>(3) 臨時監査 監事監査規程第5条で定める臨時監査については、監事が必要と認めたときに随時実施する。</p> <p>3 監査の対象部局 全部局を対象に監査を実施する。</p> <p>4 監査スケジュール(詳細日程は別途定める。) 平成26年10月から平成27年6月までの間、適宜実施。</p> <p>5 監査の方法 会議への陪席、書面審査及び実地監査によるものとする。また、必要に応じて担当理事、部局長等へのヒアリングを実施する。 なお、実地監査を実施する場合は、部局等と日程等について別途調整する。</p> <p>6 監査報告書の作成 平成27年6月</p> <p>7 監査の事務補助体制 監事監査規程第6条により、理事長の承認を得て、事務局総務課の職員(必要に応じ数名)を監事監査の事務補助員とすることができる。 また、会計監査人と連携し、効率的な監査を実施する。</p>
--

(出典：総務課提供資料)

資料9-2-③-2 平成26年度監査結果報告書

<http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2015/09/h26kanjikansa.pdf>

(出典：大学ホームページ「大学情報」)

【分析結果とその根拠理由】

監事は、監査計画書に基づき、重要な会議や会計監査人の監査報告会へ出席し、業務監査及び会計監査を行っている。監査した結果は、監査結果報告書にまとめられ、大学運営に反映させている。

以上のことから、監事による監査が適切に実施され、その結果が、本学の管理運営に有効に反映されており、監事が適切な役割を果たしていると判断する。

観点9-2-④：管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上のための取組が組織的に行われているか。

【観点到に係る状況】

本学では、事務職員については、第2期中期計画において、職員にその資質向上のため、学内・学外を問わず研修受講の機会を増やし、SD(スタッフ・ディベロップメント)活動を推進することとしている。平成26年度からは研修計画に基づき、職員の能力開発を推進するため学内研修を充実させるとともに、設置団体が実施する階層別研修のほか、学外で行われる各種研修会や大学教育開発センター主催のFD/SD及びFD研修会に参加させ、資質向上に努めている。(資料9-2-④-1～3、前掲資料8-2-①-4)。

資料9-2-④-1

岡山県立大学第2期中期計画及び平成28年度計画における人事に関する計画

<p>○岡山県立大学第2期中期計画(抜粋)</p> <p>Ⅲ業務運営の改善及び効率化</p> <p>4事務等の効率化、合理化</p> <p>(3)事務職員の能力向上</p> <p>事務職員の人事評価制度を適正に運用し、職員の資質、能力及び勤務意欲の向上を図る。</p> <p>また、学内・学外を問わず研修受講の機会を増やして、SD(スタッフ・ディベロップメント)活動を推進する。</p>
<p>岡山県立大学第2期中期計画 URL:http://www.oka-pu.ac.jp/index.php?page_id=1169</p>
<p>○岡山県立大学平成28年度計画</p> <p>(3)事務職員の能力向上</p> <p>大学事務職員の資質・能力の向上やSD活動を実施するため、事務職員研修計画に基づき、学内研修を実施するとともに、学外研修へ職員を積極的に参加させる。</p>
<p>岡山県立大学平成28年度計画 URL:http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/04/2016years_plan.pdf</p>

(出典：岡山県立大学第2期中期計画、平成28年度度計画)

資料9-2-④-2 平成27年度学内研修の主な実績

研修名等	対象者	目的・実施内容等	開催期間	受講者数 (延べ人数)
事務職員研修	新規採用事務職員	大学職員として必要な基本的、一般的知識及び心構え等を修得させ、今後の業務の参考とさせるもの	27年4月22日、24日	23人
キャンパスハラスメント研修	教員、事務職員、学生	大学で起きるハラスメントについて基礎的知識を身につけるもの	27年5月21日、22日 28年2月18日	168人 103人
業務改善・意識改革に係る講演会	教員、事務職員	「トヨタ生産方式」を学ぶ講演会	27年7月28日	約30人
ハラスメント相談員研修	ハラスメント相談員	相談業務の基礎的技術を身につけるもの	27年8月4日	11人
情報セキュリティ・情報モラル研修	教員、事務職員、学生	情報セキュリティや情報モラルの基礎的知識の習得及び情報漏えい等の防止のための研修	27年10月22日 28年1月22日	82人 50人

(出典：総務課提供資料)

資料9-2-④-3 平成27年度学外研修の主な実績

研修名等	対象者	目的・実施内容等	開催期間	受講者数
新規採用職員第1次研修(設置団体主催)	新規採用事務職員	文書事務・情報公開、接遇等新規採用職員向けの研修	27年4月7日、13日、14日	1人
公立大学に関する基礎研修	新規採用事務職員	公立大学に関する基礎的知識を修得させ、今後の業務の参考とさせるもの	27年5月11日	2人
公立大学職員セミナー	事務職員	公立大学職員として求められる資質・態度を学ぶとともに他大学職員との交流を深めるセミナー	27年7月15日～17日	2人
公立大学法人会計セミナー	経理担当職員	法人会計セミナー	27年8月5日～7日	1人
公立大学職員研修協議会	事務職員	事務職員の業務分野別の協議会及び職員研修	27年8月27日、28日	1人
プレゼンテーション研修(階層別研修)(設置団体主催)	法人採用事務職員	プレゼンテーション講座などのスキルアップ研修	27年7月～10月の中で2日	9人

(出典：総務課提供資料)

【分析結果とその根拠理由】

事務職員については、大学運営に求められる能力向上に必要な各種研修を実施しており、管理運営に関わる職員の資質の向上のための取組が組織的に行われていると判断する。

観点9-3-①：大学の活動の総合的な状況について、根拠となる資料やデータ等に基づいて、自己点検・評価が行われているか。

【観点に係る状況】

本学では、教育研究水準の向上を図るとともに、本学の目的と社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うことを大学学則及び大学院学則で定め(資料9-3-①-1)るとともに、評価の基本方針及び評価事項を岡山県立大学評価規程(資料9-3-①-2)に定めている。

本学の教育・研究活動や地域・社会貢献活動等を評価するため、学長を委員長とし、学部長、学生部長、附属図書館長、共通教育部長、地域共同研究機構長、事務局長等で構成する岡山県立大学評価委員会を設置し(資料9-3-①-3)、活動の根拠となるデータ等を収集し、分析・評価している。

また、学長や学部長等で構成する部局長会議(前掲資料2-2-①-7)が中心となり、学内資料に基づいて岡山県地方独立行政法人評価委員会による法人評価に対応した自己点検・評価を行っており、その結果を「業務の実績に関する報告書」として同委員会に提出し、評価を受けている(後掲資料9-3-②-1)。

以上のことから、本学の活動の総合的な状況について、根拠となる資料やデータ等に基づいて、自己点検・評価が行われていると判断する。

資料9-3-①-1 教育研究活動等の自己点検・評価について

○岡山県立大学学則

第2節 自己評価

(自己評価)

第2条 本学は、研究教育水準の向上を図るとともに、前条の目的及び社会的使命を達成するため、研究教育活動等の状況について、全学及び学部ごとに自ら点検及び評価を行うものとする。

岡山県立大学学則 URL:<http://www.oka-pu.ac.jp/kiteidata/act/frame/frame110000003.htm>

○岡山県立大学大学院学則

(自己評価等)

第3条 本学大学院は、教育研究水準の向上を図り、本学大学院の目的及び社会的使命を達成するため、本学大学院の教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価(以下「自己評価等」という。)を行うものとする。

岡山県立大学大学院学則 URL:<http://www.oka-pu.ac.jp/kiteidata/act/frame/frame110000004.htm>

資料9-3-①-2 自己評価の基本方針及び評価事項

○岡山県立大学評価規程

(基本方針)

第3条 本学の評価は、次の事項を基本方針とする。

- (1) 公正かつ客観的で信頼性の高い評価
- (2) 学外の意見も踏まえた評価
- (3) 教育研究活動等の改善を指向する評価
- (4) 評価結果の公表
- (5) 評価の実施体制、項目及び方法の継続的改善

(評価事項)

第4条 第2条の目的を達成するため、本学が行う評価事項は、次のとおりとする。

- (1) 教育活動
- (2) 研究活動
- (3) 地域・社会貢献活動
- (4) 管理運営
- (5) その他の必要な事項

(出典：岡山県立大学評価規程 URL:<http://www.oka-pu.ac.jp/kiteidata/act/frame/frame110000077.htm>)

資料9-3-①-3 岡山県立大学評価委員会規程(抜粋)

(目的)

第2条 委員会は岡山県立大学(以下「本学」という。)の教育、研究、地域・社会貢献及び管理運営に関する評価システムの構築と改善、並びに点検及び評価(以下「評価」という。)を行うことを目的とする。

(審議事項)

第3条 委員会は本学の評価に関する次の重要事項を審議する。

- (1) 自己評価に関する事項
- (2) 外部評価及び第三者評価に関する事項
- (3) 評価結果の公表に関する事項
- (4) 評価結果に基づく改善案の策定に関する事項
- (5) 評価システムに関する事項
- (6) その他本学の評価に関する事項

(組織)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる委員で構成する。

- (1) 学長
- (2) 各学部長
- (3) 学生部長
- (4) 附属図書館長
- (5) 共通教育部長
- (6) 地域共同研究機構長
- (7) 事務局長
- (8) 本学の教職員のうち学長が指名する者

(任期)

第5条 前条第8号の委員の任期は2年とし、再任されることができる。ただし、引き続き4年を超えて在任することはできない。
2 委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第6条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

- 2 委員長は委員会を招集し、その議長となる。
- 3 副委員長は第4条の委員の中から委員長が指名する。
- 4 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときはその職務を代行する。

(出典：岡山県立大学評価委員会規程)

URL: <http://www.oka-pu.ac.jp/kiteidata/act/frame/frame110000078.htm>

【分析結果とその根拠理由】

岡山県地方独立行政法人評価委員会による法人評価に対応した自己点検・評価については、部局長会議が中心となった全学的な取組体制が構築され、根拠となる資料やデータ等に基づいて行っている。

以上のことから、本学の活動の総合的な状況について、根拠となる資料やデータ等に基づいて、自己点検・評価が行われていると判断する。

観点 9-3-②：大学の活動の状況について、外部者（当該大学の教職員以外の者）による評価が行われているか。

【観点到に係る状況】

岡山県地方独立行政法人評価委員会による中期目標期間の業務実績評価については、毎年度、「業務の実績に関する報告書」を提出し、評価を受けている(資料9-3-②-1)。

平成21年度に実施された大学機関別認証評価においては、「大学評価・学位授与機構（現：大学改革支援・学位授与機構）が定める大学評価基準を満たしている」との評価結果を得ている(資料9-3-②-1)。

平成28年2月に、公立大学政策・評価研究センターによる大学評価ワークショップを受審し、評価を受けている(資料9-3-②-1～2)。

資料9-3-②-1 外部者による評価結果の公表

業務の実績に関する評価結果(岡山県地方独立行政法人評価委員会)

(第1期) http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2013/09/midterm_results.pdf

(平成25年度) <http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2014/09/2013assessresults.pdf>

(平成26年度) http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2015/10/2014_07_2014assessresrtls.pdf

大学機関別認証評価に関する情報(評価機関：大学評価・学位授与機構(現：大学改革支援・学位授与機構))

http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2012/03/self-evaluation_result.pdf

大学評価ワークショップピアレビュー(外部サイト：公立大学政策・評価研究センター)

http://kodaikyo.sakura.ne.jp/sblo_files/kodaikyo/image/E7A2BAE5AE9A_160406_E5A4A7E5ADA6E38394E382A2E383ACE38393E383A5E383BCFEBC8E5B2A1E5B1B1E79C8CE5A4A7EFBC89.pdf

(出典：岡山県立大学ホームページ「大学情報」 URL:http://www.oka-pu.ac.jp/index.php?page_id=1169)

資料9-3-②-2 大学評価ワークショップの様子



(出典：企画広報室提供資料)

【分析結果とその根拠理由】

岡山県地方独立行政法人評価委員会による法人評価、学校教育法により求められる認証評価、大学評価ワークショップ等により、外部者による評価が随時実施されている。

以上のことから、本学の活動の状況について、外部者による評価が行われていると判断する。

観点9-3-③： 評価結果がフィードバックされ、改善のための取組が行われているか。

【観点到に係る状況】

岡山県地方独立行政法人評価委員会に学長、副学長、事務局長等が出席し、同委員会による評価結果は、役員会、教育研究審議会等において報告し、学内に周知している。また、学内関係者にフィードバックした委員会意見については、その原因の分析、改善について検討を行い、活動の改善を図るとともに、翌年度以降の年度計画に反映させている（資料9-3-③-1）。

平成21年度に受審した大学機関別認証評価において改善を要する点として指摘のあった事項については、改善に向けた取組を行っている（資料9-3-③-2）。

平成27年度に受審した大学評価ワークショップに教職員（約60人（学生11人を含む））が出席し、課題を共有するとともに、ピアレビューを平成28年度計画に反映させている（資料9-3-③-3）。

資料9-3-③-1 岡山県独立行政法人評価結果における委員会意見及び改善への取組

委員会意見	改善への取組状況等
[平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果] 教員と事務職員の連携強化は、学生支援のためにも重要なことであり、相互理解を深めるための具体的な取組を期待する。	大学教育開発センター(26年10月新設)のセンター員として事務職員が参画し、教育開発や学生支援等に係る企画立案等における教職協働を推進した。
危機管理マニュアルを整備するとともに、南海トラフの巨大地震など大規模広域災害に備えるため、地元・自治体と連携した防災面の強化に努められたい。	危機管理ガイドラインを整備し、それに基づく個別マニュアルを順次整備している。
[平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果] 学科名を変更した人間情報工学科では、志願者数、受験者ともに前年度から大きく減少しており、学科の特性等の周知に努められたい。	8月を中心に高等学校訪問を行い、学科名を変更した人間情報工学科と情報工学部他学科との教育内容の違い等を中心に説明を行った。

(出典：企画広報室提供資料)

資料9-3-③-2 機関別認証評価において改善を要する点として指摘された内容及び改善への取組

改善を要する点として指摘された内容	改善への取組状況等
基準4 学生の受入 大学院課程の1つの研究科においては、入学定員超過率が高い。	入学定員数を増加する学則改定を行った。

(出典：企画広報室提供資料)

資料9-3-③-3 大学評価ワークショップピアレビューの提言内容及び改善への取組

ピアレビュー提言内容	平成28年度計画
FDに学生を参加させることは、学生への授業評価アンケートでは得られない声を直接聞くことができ、同時に学生と教員との距離を縮めることにもつながるため、FD活動の活性化に有効である。	大学教育開発センターでは、学外の有識者によるFD活動に関する研修会及び教育開発講座を企画・実施する。また、各部会主催のワークショップについては、一部に学生主導のプログラムを設け、各部会1回程度開催する。

(出典：企画広報室提供資料)

【分析結果とその根拠理由】

評価結果のフィードバックについては、役員、各部局長等に通知し、改善に向けた対応を図っている。

課題として指摘された事項については、その改善に取り組んでいる。

以上のことから、評価結果がフィードバックされ、改善のための取組が行われていると判断する。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

・公立大学政策・評価研究センターによる大学評価ワークショップを受審し、その結果は、ピアレビューとして同センターのホームページに公表されている。

【改善を要する点】

・該当なし

基準 10 教育情報等の公表

(1) 観点ごとの分析

観点 10-1-①: 大学の目的(学士課程であれば学部、学科又は課程等ごと、大学院課程であれば研究科又は専攻等ごとを含む。)が、適切に公表されるとともに、構成員(教職員及び学生)に周知されているか。

【観点到る状況】

大学及び大学院の目的、学部・研究科ごとの目的は、学則及び大学院学則に規定しており、大学のホームページ及び刊行物に掲載・公表している(資料 10-1-①-1)。

学生への周知として、新入生(大学院生を含む)に対しては、入学時のオリエンテーション時に、「学生便覧」等を配布し、本学の教育目的や特徴を説明している。学部生に対しては、新学期ガイダンス時に、本学の教育内容について説明している。

受験生、高校、企業等への周知については、高等学校訪問や各種大学説明会、オープンキャンパス等で、「大学案内」等により本学の教育目的等を説明している。

教職員への周知については、新任職員研修、FD研修、SD研修等の場において、「大学概要」や各種資料により、本学の教育目的や特徴を周知している。

地域社会への周知については、学内ホームページにおいて、「大学の理念」「大学概要」「教育情報の公表」等により教育目的、特徴等について公表している。

平成28年3月から、独立行政法人国立大学財務・経営センターが運営する大学ポートレートにおいて、本学の研究教育上の目的や特色などの情報を公表している。

資料 10-1-①-1 大学の目的等の公表状況

大学学則	http://www.oka-pu.ac.jp/kiteidata/act/frame/frame110000003.htm
大学院学則	http://www.oka-pu.ac.jp/kiteidata/act/frame/frame110000004.htm
大学の理念	http://www.oka-pu.ac.jp/index.php?page_id=17725
学長挨拶	http://www.oka-pu.ac.jp/index.php?page_id=1127
大学の教育研究上の目的	http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2015/07/P.9-11.pdf
学生便覧 2016	http://www.oka-pu.ac.jp/index.php?page_id=44152
大学案内 2017	http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/05/h28anai_zenpen.pdf
大学概要 2016	http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/06/gaiyou16zenpen.pdf
大学ポートレート	http://top.univ-info.niad.ac.jp/univ/outline/1278 [大学ポートレートサイト]

(出典：大学ホームページ)

【分析結果とその根拠理由】

大学の目的、学部の目的等は、大学ホームページや大学案内をはじめとする広報誌、学生募集要項などで広く周知を図っており、大学の目的が適切に公表されるとともに、学生に対しては、オリエンテーションやガイダンスで説明するほか、履修案内等に掲載し、教職員に対しては、新規採用教職員研修等において大学の目的を説明し、周知している。

以上のことから、大学の目的が適切に公表されるとともに、構成員(教職員及び学生)に周知されていると判断する。

観点 10-1-②: 入学者受入方針、教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針が適切に公表、周知されているか。

【観点に係る状況】

本学の入学者受入方針、教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針は、大学ホームページに掲載・公表している（資料10-1-②-1）。

入学者受入方針は、大学案内、入学者選抜要項及び学生募集要項に掲載し、オープンキャンパス、各種大学説明会、出前講座を含む高等学校訪問等を通じて、積極的に周知している。

教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針は履修案内に掲載するとともに、新学期ガイダンスにおいて説明し、学生に周知している（資料10-1-②-2）。

資料10-1-②-1

ホームページにおける入学者受入方針、教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針の公表状況

入学者受入方針	学部 http://www.oka-pu.ac.jp/index.php?page_id=1724 研究科 http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/04/heamas.pdf http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/04/headoc.pdf http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/04/commas.pdf http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/04/comdoc.pdf http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/04/design.pdf
教育課程の編成・実施方針	学部 http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2015/04/h27cp_gakubu.pdf 研究科 http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2015/04/h27dp_in.pdf
学位授与方針	学部 http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2015/04/h27dp_gakubu.pdf 研究科 http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2015/04/h27dp_in.pdf

（出典：大学ホームページ）

資料10-1-②-2 入学者選抜要項や学生募集要項における入学者受入方針の公表状況、履修案内による教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針の公表状況(平成28年度)

入学者選抜要項	http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2015/06/20150619141228.pdf
学生募集要項 (一般入試)	http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2015/11/ittupanyoukou.pdf
学生募集要項 (特別入試)	http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2015/10/h28tokubetu.pdf (推薦入試・帰国生入試・私費外国人留学生入試)
履修案内	(学部) http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/04/28rishu01.pdf (研究科) http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/06/28rishu_m01.pdf

（出典：大学ホームページ）

【分析結果とその根拠理由】

本学の入学者受入方針、教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針は、大学ホームページや各種募集要項を通して、学内はもちろん、入学志願者・保護者、高校関係者を含む社会一般に広く公表している。

以上のことから、入学者受入方針、教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針が適切に公表、周知されていると判断する。

観点10-1-③： 教育研究活動等についての情報（学校教育法施行規則第172条の2に規定される事項を含む。）が公表されているか。

【観点に係る状況】

学校教育法施行規則第172条の2に規定されている教育研究活動等の状況をはじめ、地方独立行政法人評価、大学機関別認証評価及び財務諸表等については、大学ホームページに掲載・公表するとともに、英語による大学ホームページを開設し、本学の情報を国際的に発信している（資料10-1-③-1）。

ホームページ以外にも、大学広報誌「OPU」、大学案内、本学の教育研究活動や社会貢献活動をまとめた「教育年報」や「社会貢献年報」、本学の優れた研究シーズをまとめた「知のシーズ集」等の刊行物を作成しており、

これらを学内外に広く配布している（資料10-1-③-2）。

また、平成28年3月から独立行政法人国立大学財務・経営センターが運営する大学ポータルを活用し、本学の教育研究活動情報を公表している。

資料10-1-③-1 ホームページによる情報発信状況

大学情報	http://www.oka-pu.ac.jp/index.php?page_id=1169
主な教育情報等	http://www.oka-pu.ac.jp/index.php?page_id=1215
教育研究者総覧	http://pubinfo.oka-pu.ac.jp/searchApp/searchTeachers.php
学術情報リポジトリ	https://oka-pu.repo.nii.ac.jp/
教育研究活動に関する最新情報 (大学トップページ)	http://www.oka-pu.ac.jp/index.php
教員の養成に係る情報	http://www.oka-pu.ac.jp/index.php?page_id=33834%20
大学ホームページ (英語版)	http://www.oka-pu.ac.jp/en/index.html

(出典：大学ホームページ)

資料10-1-③-2 刊行物による情報発信

OPU (大学広報誌) vol24	http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/01/OPU_Vol.24_zenpen.pdf
岡山県立大学 大学案内	http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2015/09/OPU_zenpen.pdf
岡山県立大学 大学案内 (英語版)	http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2014/03/university-guide-book_opu.pdf
岡山県立大学 大学案内 (中国語版)	http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2014/04/guidebook_chinese_2014.pdf
岡山県立大学 大学案内 (韓国語版)	http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2015/01/guidebook_korean_2014.pdf
教育年報 2015	http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/05/00_kyoikunenpo2015-zentai.pdf
社会貢献年報 2015	http://www.oka-pu.ac.jp/wp-content/uploads/2016/06/shakai2015_all.pdf
OpuL (図書館報) No.15	http://www.lib.oka-pu.ac.jp/wp-content/themes/library/img/opul/opul15.pdf
知のシーズ集	冊子のみ

(出典：大学ホームページ)

【分析結果とその根拠理由】

本学における教育研究活動等についての情報は、大学のホームページ、刊行物を通じて広く社会に公表されている。さらに、英語による教育研究情報の発信も行っている。

以上のことから、教育研究活動等についての情報が公表されていると判断する。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- ・本学の教育研究活動における最新情報やオープンキャンパス、学園祭、シンポジウム、セミナーの様子や学生の学会受賞など、教職員、学生による活動、活躍を大学ホームページのトップページに最新情報として掲載し、学内外に広く情報発信している。
- ・留学志願者、留学生、外国人研究者への情報公開として、ホームページに英語サイトを設けるとともに英語、中国語、韓国語でそれぞれ大学案内を作成し、教育研究情報の発信を行っている。

【改善を要する点】

- ・該当なし